

12-15

浙
路
作
業
現
地
綜
合
調
査
報
告
書

昭和17年10月15日
逓信省
逓信司
令
部

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | ③ ④ |
| | 3 A |
| 配架番号 | 14 |
| | 12-15 |



12-15

1 OCT 17
COPY 1957

極秘

浙贛作戰間現地綜合調查報告書

第六編 水路

昭和十七年十月十五日
登集團司令部

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | |
| 配架番号 | 12-15 |

配布區分

| | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------|------|------|------|------|-------|-------|------|------|-----|----|
| 興亞院華中連絡部 | 第二船舶輸送司令部 | 甲集團 | 仁集團 | 波集團 | 呂集團 | 上海陸軍部 | 總司令部 | 陸軍省 | 參謀本部 | 部隊名 | 部數 |
| 一。 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 四 | 二 | | |
| 田上部隊 | 早淵部隊 | 南淵部隊 | 武内部隊 | 内田部隊 | 小林部隊 | 小平部隊 | 大城戸部隊 | 山内部隊 | | 部隊名 | 部數 |
| 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 二 | 二 | 四 | 二 | | | |

一 本資料ハ今次河 作戦ニ從事セシ軍派遣調査隊（水路班）ノ現地調査
報告ヲ蒐集セシモノナリ。
二 本報告中意見ニ具ル個所ハ調査員個人ノ意見ナリ。

第一章 要旨

第二章 江山港水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 運管ノ務合ノ奇港地

三 運管ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

五 天候氣節ノ交感

六 橋梁、渡船場、徒歩場ノ状況

七 水深、河幅、水流幅、河底状況

八 權賦利用状況

九 宿 館

第三章 内江水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 運管ノ務合ニ於ケル奇港地

三 運管ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

五 天候氣節ノ交感

六 橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七 水深、河幅、水流幅、河底状況

八 通航利用状況

九 結 論

第四章 東陽江水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 迎営ノ場合ニ於ケル寄港地

三 障河ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

五 天候氣節ノ交感

六 橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七 水深、河幅、水流幅、河底状況

八 通航利用状況

九 結 論

第五章 金華江水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 迎営ノ場合ニ於ケル寄港地

三 障河ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

五 天候氣節ノ交感

六 橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七 水深、河幅、水流幅、河底状況

八 通航利用状況

九 結 論

第六章 浦陽江水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 迎営ノ場合ニ於ケル寄港地

三 障河ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

五 天候氣節ノ交感

六 橋梁、渡船場、徒涉場ノ狀況
 七 水深、河幅、水流幅、河底ノ狀況
 八 灌溉利用狀況

第七章 錦江水路狀況

- 一 概況
- 二 河道ノ下流ノ區段
- 三 通商ノ場合ニ於ケル香港地
- 四 埠頭ノ程度
- 五 兩岸地形ノ景況
- 六 天候氣節ノ交感
- 七 橋梁、渡船場、徒涉場ノ狀況
- 八 水深、河幅、水流幅、河底ノ狀況
- 九 灌溉利用狀況
- 一〇 結論

附錄一 關於錦江水測定表

附圖第一 調查地域略圖

- ” 第一 江山港 (清湖鎮—後街間) 水路調査圖
 - ” 第二 江山港 (後街—龍崗間) 水路調査圖
 - ” 第三 同江 (龍崗—兩河口) 水路調査圖
 - ” 第四 東勝江 (東勝縣城—柳室鎮間) 水路調査圖
 - ” 第五 ” (金華—柳室鎮間) 水路調査圖
 - ” 第六 金華江 (兩河口—金華間) 水路調査圖
 - ” 第七 浦陽口 (兩河口—尖山間) 水路調査圖
- 別冊第一 偽浙江省城ニ水陸交通器具官理辦法概要
- ” 第二 車陵政府驛運民船規則
 - ” 第三 浙江省ニ於ケル民船運送並ニ分布狀況調査表
 - ” 第四 浙江省民船運送並ニ分布狀況調査表

第一章 要 旨

今水田耕作取組區ハ金華ヲ中心トシテ東北方約七〇杆ノ地結ニ東西ニ大分水
嶺ヲ登ヘ又西南方約一二〇杆ノ浙江、江西兩省ノ境界地點ニ一分水嶺ヲ經ヘ
一級ニ山岳地帯ニシテ河川ハ自ラ之等兩分水嶺間ノ山系ヲ越ヒ其ノ本流ハ錢
塘江ヲ經テ杭州灣ニ注グ約四〇〇杆ノ水路ニシテ至ル處屈曲甚ダシク水量
ナラサルヲ以テ淺瀬、中洲、砂洲（礫石）等多ク、急流ニシテ水清ク日本ニ
於ケル油川ト同様ノ感アリ。外ニ兩分水嶺ニ源ヲ發シ他ハ北方ニ走ル湘陰江
ト西南方ニ走ル鄱江アリテ之等ヲ合スル時ハ其ノ總延長ハ實ニ五〇〇杆ニ及
ベリ。向谷山系間ニハ無幾ノ小川アリ之等ハ一部灌溉ニ利用サレオルモノト
思ハスルモ水運ニ就テハ何等 價値ナキモノト認ム

而シテ之等ノ利用價値ニ就テハ今次作取前迄ハ該地區ハ第三戰區トシテ車陵
政權ノ實地地帯ニシテ各方面ヨリノ街衢ハト多ク特ニ北方皇軍確保地區ヨ
リノ主ナルルトトシテ

第一ルト州ヨリ錢塘江、富春江、桐江、蘭江ヲ經テ蘭谿ニ至ル
第二ルト州ヨリ錢塘江、湘陽江ヲ經テ發局、金華ニ至ル

第三ル、ト平波ヨリ味縣、新昌ヲ經テ東陽義烏ニ至ル
ヲ據ヘラレルモノニシテ何レモ今、次、所、續、作、戦ニ依リ撥減サレ該地區ニ進駐ス
ルニ當リ、之等食糧ヲ進ズル該ル、ト、今、次、逆ニ如何ニ利用スベキカハ車大
ナル問題ニシテ近ク金垂以東ノ地區ニ鐵道ノ附設ヲ見ルモ、其ノ輸送力ノ僅
少ナルト進貢ノ高價ナルトニ依リ之ニ期待サル可キ處尠ク從ツテ無限ノ輸送
力ト底成ナル進貢ヲ以テ完全ニ其ノ任務ヲ完フシ得ル之等水運ニ期待サル可
キ處大ニシテ特ニ此ノ意味ニ於テ江西省方面ヨリノ物資搬出ニ就テハ江山港
衛江、閩江、錢塘江ヲ進ジ武義方面ヨリ搬出スル戰時必要物資可カラサル類
産物並ニ該島方面ヨリ年數十萬噸ニ及ブ砂糖ノ搬出ニ就テハ東陽江、武義江
ヲ進テ金華江、閩江、錢塘江ニ進ズル第一ル、トハ取モ重要視サル可キモノ
ナリ。
又第二ル、トハ義烏ヨリ諸軍ニ進ズル間ニ一大分水嶺ヲ經ヘ、此ノ間ハ
鐵道、自動車又ハ一線車等ニ俟タサルヲ得ズ從ツテ水路ニ依ル輸送賃價少キ
モノト思慮サル、モ之ガ運輸ノヨロシクヲ得バ九州ニ進ズル直線、トトシ
テ第一ル、トト並ビ重要ナリ。向第三ル、トニ於テハ山岳地帯ヲ支那特有ノ

一線車等ニテ、進、出、シ、ア、リ、タ、ル、モノ、ナ、レ、バ、之、亦、其、ノ、利、用、價、値、少、キ、モ、ニ、シ、テ、今
後、該、地、區、開、發、ニ、當、リ、テ、ハ、前、述、ノ、如、ク、絶、對、的、ニ、第、一、ル、ト、ノ、開、拓、確、保、ヲ、必、要、ト
ス、ル、モノ、ニ、シ、テ、之、ガ、今、後、ニ、於、ケ、ル、進、貢、コ、ソ、今、次、作、戦、ニ、優、秀、價、値、ヲ、得、セ、シ、ム、ル
モノ、ナ、リ、ト、シ、テ、之、ガ、進、貢、機、關、ヲ、開、設、シ、統、制、ア、ル、指、導、ノ、下、ニ、船、隻、輸、送、ヲ、ナ、シ
中、國、ノ、各、航、路、ハ、出、來、得、ル、限、リ、之、ヲ、開、拓、シ、以、テ、輸、送、運、營、ノ、萬、全、ヲ、期、ス、ル、ヲ、要、ス
向、郵、山、ノ、進、貢、價、値、ニ、就、テ、ハ、將、來、兩、方、面、ヨ、リ、ノ、進、出、陸、上、シ、テ、亦、該、地、區、方、面、ノ
物資搬出、陸、上、シ、テ、其、ノ、價、値、ア、ル、モノ、ト、思、慮、ス、ル、モ、其、ノ、調、査、全、キ、ヲ、得、ザ、リ、シ、局
遺、察、作、ラ、以、テ、評、述、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ズ、以下各章ニ就キ評述ス。

第二章 江山港水路狀況

一 可航舟港ト其ノ區域

(1) 可航區域

本水路ハ江山ヲ中心トスル上流四湖湖ヨリ下流何州(含マス)ニ至ル間ノ
約五〇軒ノ水路ニシテ河底ハ一取ニ小礫石ニシテ夏期平水時ニ於テハ河水
極メテ少ク、向河川ノ屈曲甚ダ多ク急流ナル雖又ハ河床ニ岩石突出箇所隨
所ニ在リテ、一般民船ノ航行谷勿ナラズ尙水深淺キ箇所ニ在リテハ僅ニ二
三〇軒ニシテ夏期平水時ニ於テハ可航困難ナリ

(2) 可航舟港

前述ノ如キ狀況ナレバ可航舟港ハ吃水殆トナキ該地獨
特ノ河底扁平ナル中小型民船ヲ用ヒ水路作業又ハ曳航
ニ依ル局地航行ニ依ルカ或ハ水重比較的多キ春秋ヲ利
用セバ概シテ可航有利ナリ

(船民航就)



三 運營ノ功合ニ於ケル寄港地

清洲、江山、大塚、後、前河街

就中江山港ハ可獲線上金垂一廣信ヲ結ブ中間主要都市ニシテ水陸交通上ノ重要地タリ。該地ニ於ケル平野ハ物資ノ生産ニ富ニシテ一大集散地タリ。故ニ將來運上確保ト相俟ツテ水陸運送ニ期待スルモノ亦妙トセズ。

江山碼頭狀況(一)



江山碼頭(二)



西湖線上流狀況



附圖第三、第三參照

三 運營ノ程度

本水陸ハ出出西ダシク中間ニ淺瀬十八箇所、岩石突出箇所、堰六箇所等アリテ平水時ニ於テハ航行容易ナラス、尙岩石突出箇所ハ江山、大塚上流地點ニシテ特に航行上注意ヲ要ス。附圖第二、第三參照

(岩石突出狀況)



(淺瀬ノ狀況)



四 兩岸地形ノ景況

本調査ノ上加石岸地區ハ河岸ニ接シタル峻峻ナル山崖ナリ。石岸下流並ニ左岸地區ハ一級ニ峻傾斜ノ田畑、雑木等ニシテ所々ニ墓地程度ノ起伏アルノミ極平平場ナリ。向本年度ノ大洪水ニヨリ沿岸所々崩壊シ、水運ノ利用上補修

ヲ要スル箇所或ハ家屋ノ浸水。既甲氏船ノ流失破損等ノ被害亦夥トセス。

民ノ流失破損状況(一)



(二)



兩岸地形ノ景況



天候氣節ノ交感

本地域ハ一放ニ乱石又ハ赤地ノ河木ナキ急峻ナル山崖ヲ近クニ控ヘ、平地モ亦緩傾斜セル粘土ノ田畑ナルガ故ニ降雨ニ對スル吸收力ニ乏クシテ洪水ノ原因ヲナス。降雨一日ニシテ河川ハ氾濫状態トナリ、河水激流シ爲ニ其ノ被害大ナリ。然レ共晴天ニ至ラバ忽チニシテ減水シ天候氣節ニ依ル増減水ノ變化頗ル大ナリ。

六箇梁ノ渡り場、使砂場ノ状況

(1) 橋梁

本水陸ハ一放ニ段々各所ニ渡り場多キ爲下橋梁ヲ認メズ。只江山縣城外及同縣上流二村ノ地類ニ谷々車橋一ヲ有シ、後街街上流二村ノ地類ニ一箇一ヲ有スルノミニシテ其ノ他橋梁ヲ認メズ。尚同縣上流ノ橋梁ハ斯兩獨真ノ如ク橋脚低キガ爲一放江川ノ航行ニ際シテハ一箇脚間ヲ取除キ一放死航行シ得ル状況ナリ。

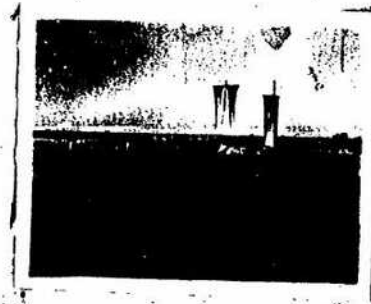
同縣上流車橋



江山縣城外車橋



後街街上流車橋



(2) 渡り場
本水陸ハ一放ニ水深淺キ河渡り場少ク主ナルモノハ左ノ五箇所トス

(8) 徒 涉 場
 河川下流一、五村ノ地誌、大森、後橋、後家、

本水所ハ河川處ニ徒涉可能ナル箇所生ズルモノト思考スルモ夏期平水時ニ於テハ附圖第二、第三ノ如ク十八箇所ノ徒涉地點ヲ有シ特ニ二、三〇箇所ノ箇所六箇所アリ

附圖第二、第三参照

徒涉場ノ状況



水 深、河 幅、水 流 速、河 底 ノ 状 況

(1) 水 深

本水所ノ夏期平水時ニ於ケル水深状況ハ二〇箇所ノ箇所六箇所、五〇箇所ノ箇所十二箇所、其ノ他一米内外ニシテ深キ箇所ニ有リテハ

二米乃至三米ナリ。

(2) 河 幅

本水所ハ平均八〇米内外ナルモ後橋、前河街附近ニ在リテハ約二〇〇米アリ。

(3) 水 流 幅

本水所ハ一畝ニ州田多キ爲各所ニ砂積(礫石)多ク深キ箇所ハ三〇米ヨリ廣キ箇所ハ一〇〇米前後アリ。

(4) 河 底 ノ 状 況

本水所ハ概不小礫石ナルモ江山縣城上流ニ於テハ岩石地帯及小砂箇所多カラズ。

附圖第二、第三参照

八 極 限 利 用 ノ 状 況

江山縣城上流ニ於テハ二、三箇所、下流ニ於テハ一、二箇所、各々人工堰ヲ設ケ水旱設備アリ、然レ共水田灌溉ノ利用ノ形跡ヲ認メズ

九 結

前述ノ通り本水路ハ清洲ヨリ下流河州ニ至ル間ノ延長約五十軒ノ江岸ニシテ中流ニ屆出蓋ダシク確利用ノ狀況ハ治下認メラレス夏期平水時ニ於テハ三ノ感水深淺ク且各所ニ岩石突出シオレル狀況ナレバ竹筏ノ運流ヲ許ス難度ニシテ中小型民船ノ運流ハ困難ナレバ運用價額極メテ渺キモノト思ハラル、本作戦前ハ局地面ニ多數ノ貨客輸送ニ便用セシ決走船ナルモノアリ、之レガ運流ニ就テハ該地固有ノ船頭、技術操作ニ依リ辛ラジテ運流セシモノト思ハル。同比較的水量多キ春秋期ニ於テハ現地特有ノ中小型民船ニ依リ（江西省）ヨリ一級貨物運送ニ便用セシ（江西米）ノ搬出トトシテ運賃ノ低廉ナル點ヨリ、浙省鐵道ト並ビ重要視サルベキ水路ナリ。尚之ガ増水時ニ於ケル運行ニ當リテハ兩岸地形ノ關係上降雨ニ依ル増減水ノ差大ナルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス。

第三章 衛江水路狀況

一 可航ノ航路ト其ノ區域

(1) 本水路ハ衛州ヨリ兩給（管マズ）ニ至ル間ノ約七八軒ノ水路ニシテ河底ノ不感ネ小礫石並ニ岩石多ク、夏期平水時ニ在リテハ河水極メテ少シ、尚上流ニ從ヒ屆出蓋ダシク急流ナル點或ハ河中ニ岩石突出箇所在リテ一般此路ノ航行谷勿ナラス爲ニ水運ノ價額大ナラス

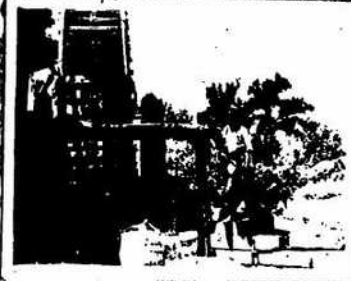
(2) 運賃

前述ノ如ク本水路ニ於ケル可航航路ハ極メテ吃水淺キ難航ナル該地獨特ノ船底補平ヲナシタル中小型民船ヲ用ヒ夏期激水期ニ於テハ曳航又ハ水陸作業等ニ依リテ航行シ得ベク春秋増水期ニ於テハ水運ノ利用價額大ナルモノアリ。尚増水期ニ於テハ車ヤン等ノ船ノ航行ヲ許スモ激水期ニハ之ヲ許サズ、竹筏ハ四季ヲ通ジテ航行シ得

二 運賃ノ場合ニ於ケル寄港地

衛州縣城、衛河潭一安仁街、益川、龍潭、龍潭、洋埠
就中玉ナルモノハ衛州縣城ト龍潭縣城ニシテ浙贛線上金華一廣信ヲ結ブ水

水車ノ狀況



人工堰ノ狀況



陸交通ノ主要據點タリ、亦周邊物資ノ一大集積地トシテ知ラレ極メテ農産
 物資ニ富ニシテ將來運上輸送ト相俟ツテ水路輸送ヲ期待スルモノアリ。
 附圖第三、第四参照
 三 障得ノ程度
 本水路ハ江山港ニ比シ障得箇所少ナキモ中間ニ、三〇裡内外ノ淺瀬三個
 所、壱二箇所ヲ設ケアル程度ニシテ該障得モ若干ノ作業亦ハ曳船ニ依リ民
 船ノ航行可能ナリ。

淺瀬ニ於ケル通航状況(一)



(二)



四 兩岸地形ノ景況

本調査地區ノ兩岸ハ河川ニ近ク汎石又ハ赤土ヨリナレル小高キ山、或ハ岳

陵存在シ遠望利カサルモ右岸ハ概シテ峻嶒ナル山岳ニ近ク比較的開濶シ又兩
 岸所々ニ雜林、竹林等繁茂シ、岩石多ク河川ニ突出シ、何レモ自然ノ岩窟ト
 ナリ人仙ハオロカ舟楫共尙望遠敵ニ絶好ノ場所スラ在リ。又平地ハ一大沃野
 ニシテ米、麥、其ノ他農産物貧乏ナルモ其ノ土質ハ概ネ粘土ナリ。尙沿岸
 ハ所々水田ノ高崩壞シ約三米ノ斷崖ニシテ三、四百米モ達レル箇所各所ニ在
 リ。

斷崖状況(一)



岩石突出状況(二)



岳陵状況(三)



五 天候氣即ノ交感

本調査地區タル獨江上流ハ一般ニ山岳地帯ニシテ樹木少キ汎石ノ峻嶒ナル山
 岳連綿シ其レニ依マレル平地ノ土質ハ粘土ノ爲ニ降雨ニ對スル吸收力乏シク
 從ツテ降雨ニ至ラバ忽チ河川ハ洪水氾濫シ民船ノ航行ニ大ナル困難ヲ生ズ。

尙増水ハ高漲度ニシテ降雨一時間約一米内外ノ増水ヲ見ルガ如キコト珍ラシ
カラズ然レ其晴天ニ至ラバ忽チ減水シ數日ナラスシテ平水状態ニ復ス天候氣
節ニ依ル増減及ノ變化極メテ激速ナリ。

六 橋梁、渡船場、徒涉場ノ狀況

(1) 橋梁

本水路ハ谷川ニ渡渉場多ク殆下橋梁ヲ認メズ。只衛州城外西ノ方城堂下ニ
直橋梁設一個所アルノミニテ他ニ認メズ

(2) 渡船場

衛州縣城、倭御潭、邵家、馬家河、茶坪埠、衛山江、洋埠、湖家、發家、
(3) 徒涉場

本水路ハ激水期至ル處徒涉可能ナル地點ヲ生ズ、夏期平水時ニ於テハ附屬
第三、第四參照ノ如ク徒涉場ニ三個所ノ地點ヲ有シ就中三〇楯以上五個所
アリ。

七 水深、河幅、水流幅、河底ノ狀況

(1) 水深

本水路ノ夏期平水時ニ於ケル水深狀況ハ二〇楯内外ノ淺キ箇所二、三個所
ニ於テハ五〇〇米ニ及ブ處アリ。同河上流下保附近ニアリテハ兩岸地帯
ニ大淵原ヲナシ平地トノ境界判然トセザル處アリ。

(2) 河幅

本水路ノ河幅ハ平均二〇〇米内外ナルモ狹キ箇所ニ於テ一〇〇米廣キ箇所
ニ於テハ五〇〇米ニ及ブ處アリ。同河上流下保附近ニアリテハ兩岸地帯
ニ大淵原ヲナシ平地トノ境界判然トセザル處アリ。

(3) 水流幅

本水路ハ河幅一畝ニ廣キモ堤岸上流ニ在リテハ概木石岸、下流ニ在リテハ
兩岸殆下流地(砂小礫石)ヲナシ且ツ各處ニ中洲多クシテ河幅ニ比シ水流
幅亦小ニシテ激キハ二〇米前後ノ箇所サエアリ、向河洲下流二〇村附近迄
ハ中洲二、三個所ヲ除ク外河幅殆下同一ナリ。

(4) 河底ノ狀況

本水路ノ河底ハ概木石ニシテ所々ニ岩石突出箇所又ハ砂地デアル。

附圖第三、第四參照

八 灌溉利用ノ狀況

本地域ハ河底ト平地トノ高低ノ差多ク概木灌溉利用困難ニシテ一畝ニ灌溉ニ

在リテハ、水ノ利用多ク爲ニ、漕運ノ跡ヲ認メズ

九 結 論

前述ノ通り本水路ハ、河州ヨリ、蘭州ニ至ル約七八村ノ水路ニシテ上流江山港ニ比シ、川田ノ度甚ダシク、舟楫各所ニ砂礫、小礫石積多ク、之等砂礫ハ洪水ノ度毎テ河川ニ流入シテ河型變化ス本流ニ於テハ漕運ノ利用ハ殆ドナク只各所ニ埠ヲ設ケ水車設備ヲナシ居ル程度ナリ、又夏期激水期ニ於テハ竹筏ヲ始メ中、小型民船ノ運航ヲ辛シテ許ス程度ナルモ春秋増水期ニ於テハ車ヤンワールヲ始メ大小艘ノ運航モ可能ナルヲ以テ上流江山港ト共ニ江西省方面ヨリノ物資搬出ノ唯一ノ航路ニシテ今後現地開闢ノ状況上運管ノ價値大ナルモノト思慮ス。尙本水路ハ、蘭州ニ於テ金盞江ト合流シ下流蘭江、桐江、富春江、錢塘江ヲ經テ、杭州ニ至スル唯一ノ直線航路ニシテ今次作戦前迄ハ車運ニ取リ唯一ノ密輸ノトタリシヲ以テ今後ニ別行サルベキ處大ニシテ之ガ運管ノ如何ニ存スル之ガ爲現地中心區ニ有力ナル航運機關ヲ創設シ、今後統制アル運航ヲナスヲ要ス。

(完)

第二章 東陽江 航路 狀況

1 可航舟艇ト其ノ區域

本水路ハ、義烏ヲ中心トスル上流東陽縣城ヨリ下流金華縣城武義江合流地點間約八三村ノ水路ニシテ河道ハ土砂多ク僅カ小礫石ヲ見又河底ニ岩名個所アリタルモ夏期平水時ニ於テハ東陽縣城ヨリ義烏縣城間ニ二村ハ水深淺ク水流急ニシテ且又灘多ク灣曲ナル水路ナレバ民船ノ航行自由ナラズ可航ニ適セザルモノ、如シ、但シ竹筏ヲ使用スルカ曳航ニ依ル航行ハ可能ト推意サル、義烏、金華間六二村ハ水流比較的緩カニシテ一部屈曲水路アリ又水深三、四〇瀕程度ノ橋所アリシモ、容易ナルモノ、如シ、但シ淺灘及灘ニ於テハ曳航ヲ要ス。

2 可航舟艇

前述ノ如キ狀況ニシテ可航舟艇ハ吃水深キ該地河川用獨特ノ船底扁平ナル中小型民船ヲ用ヒテ水路ノ運送ヲ計リ、又曳航ニ依ル局地航行ヲ成スカ或ハ水車ニ比較的惠マレタル春秋期ヲ利用スレバ民船並ニ竹筏ノ利用價値大ナル也ト見ル可シ。

運管ノ場合ノ寄港地

東陽縣城、何宅、朱江橋（蕨島縣城外）江灣市、佛堂鎮、底田市、余后、
供村方、西盛、金華縣城（東門外）

現地ニ於ケル土產物等ノ集散狀況ヲ考慮シ以上ノ地點ヲ適當ト認ム。

附圖第五、第六參照

三、障碍ノ程度

本水ニハ夏季期、水期ニ在リテハ至ル處淺瀬ヲ生ジ、上流ニ從ヒ中間二〇程
程ノ淺瀬或ハ堰等アリテ航行ニ障碍ヲ來タス。就中障碍ノ主ナル個所ハ
左ノ如シ

- 1 蕨島縣城上流約一〇軒ノ點タル下流宅市ノ稍々下流ニ於テハ本年ノ大洪水
水ニ依リ沿岸樹木ト共ニ崩壞シ、河中ニ埋リ民船ノ航行不能ナル個所アリ。
- 2 江灣市下流新店村稍上流ニ支流アリテ小礫石ノ流出、推積ニ依ル難アリテ
約三〇〇米間淺ク、水深二〇程乃三〇程内外ニシテ民船ノ航行容易ナラザ
ル處アリ。

3 洪村方下流金華園ニ於テハ岩石ニテ人工堰ヲ作りタル個所ニ個所アリタル
モ該堰ハ決潰シアリテ航行ニ支障ナシ

4 蕨店下流水路屈曲ニシテ一〇〇米内外河底ニ岩石アリテ水深淺ク民船ノ航
行危險ニシテ注意ヲ要ス。

四、兩岸地形ノ景況

本江地城ノ左岸ハ概ネ岳峻並ニ山岳地帯ヲ近クニ控ヘ又水路ノ兩岸共ニ起
伏シ、雜林、桃、栢木、松、柳等所々ニ存在シ遠望利カザル個所多シ。
尙平地ハ一般ニ水田ニシテ其ノ大部分ハ稻作ナルモ、蕨島縣城上流地城ハ
土質小砂ナル爲、耕作物ハ稻作、芋類、砂糖黍、桑園、栗樹園等ヲ栽培ニ
シテ雜多ナリ。兩岸ハ本年ノ大洪水ニ依リ所々浸蝕破壞セリ。斷崖トナリ
河川ノ變化セシ處多カラズ、且又蕨島縣城上流約一六軒ノ地點何宅附近ノ
左岸ハ淤塞シ平地ト水路トノ境界明ナラザル處アリ。

五、夫々氣節ノ交感

本江ノ流域ハ一般ニ山岳地帯ニシテ急峻ナル地形ヲ成シ、肌石露出シ、土
質ハ灰化赤土ナリ。尙平地ハ粘土質ニシテ降雨ニ對スル吸收力乏シク
且又該地城ハ南嶺山系ニ依ル連山アリ、之ニ及ボス氣温、概觀等ノ關係上

降雨多モ比較的の多量ナリ。故ニ降雨後チニシテ河川ニ及ボシ増水ヲ見、晴
 天ニ至ラバ概水状態トナリ天候氣節ノ交感極メテ顯著ナリ。

橋梁、渡船場、徒渉場ノ状況

1 橋梁

東陽縣城下流約七杆何宅附近、江灣市、佛堂鎮以上ノ三ヶ所ニ民船ニ依リ
 架設セラル、浮橋アリ。(佐野ノ際ニ架設セシモノ)

江灣市 船橋ノ状況



佛堂鎮 船橋ノ状況



2 渡船場

馬渡、麻田市、上叶、溪口、馬渡方、榮村方、何渡

3 徒渉場

本水ノ徒渉可能距離約〇米アリ。概個所ハ水深二〇米乃至三〇米外
 ニシテ夏期ニ水深ニ於テハ三〇米處徒渉可能ナル距離ヲ生ズ。

4 水災、水浸、水浸場、水底ノ状況

1 水災

本水ノ徒渉可能ナル距離、水深ハ二〇米乃至三〇米外ニシテ夏期ニ水深ニ於テハ三〇米處徒渉可能ナル距離ヲ生ズ。

2 水浸

本水ノ徒渉可能ナル距離、水深ハ二〇米乃至三〇米外ニシテ夏期ニ水深ニ於テハ三〇米處徒渉可能ナル距離ヲ生ズ。

3 水浸場

本水ノ徒渉可能ナル距離、水深ハ二〇米乃至三〇米外ニシテ夏期ニ水深ニ於テハ三〇米處徒渉可能ナル距離ヲ生ズ。

原本不明瞭

米石多ナリ。

新島上流ニ至リテハ、斯ル水ニアリテハ水質極少ナル感多シ

4 河川ノ状況

東ノ河川ヨリ茨城方面ハ比叢河川ニ比小礫石ニシテ土僅少ナリ。茨城方面ヨリ金谷河ハ、茨城下流ニシテ河床ニ小礫石多シ居ルノミナリ。従ツテ本工ハ、比叢河多ク大洪水ニ依ル小礫石ノ溜積アリタルモノト見考サル。同河川下流ニ礫石アリ。

ハ 河川利ノ状況

本工河川ニ在テハ、河川利ノ妨ヲ認メズ。河川ハ一般ニ岳邊地多キ爲メ、各河川高ニ水長（水壕）ナルモノ、壅塞シ在リ、之ノ流水ヲ水質ノ劣等ヲ有シテ、河川利ヲシアリ。

六

東陽江ハ横口及茨城、等谷鳥奔等近ニ源ヲ有シ、北万ニ流レ、等谷鳥奔等近ニ源ヲ有シ、此流ヨリ河川方ニ流レ、河川利ニ至ル所一三〇ノ江ニシテ、等谷鳥奔地帯ヨリスルニ至テ共ニ水勢ヲ有シ、水質劣ナルニシテ形成

ス。河川ハ比叢河川水質極劣、流勢緩ニシテ河川利極少ナル感多シ。シモ、不潔ニ依ル濁水ノ爲メ、其都府余部ナク、河川利ニ至ル所一三〇ノ江ニシテ、等谷鳥奔地帯ヨリスルニ至テ共ニ水勢ヲ有シ、水質劣ナルニシテ形成

比較的水質ニ於テハ、河川利ニ各河川民衆ラシテ、河川利ニ至ル所一三〇ノ江ニシテ、等谷鳥奔地帯ヨリスルニ至テ共ニ水勢ヲ有シ、水質劣ナルニシテ形成

(完)

原本不明瞭

一 可航舟運ト具ノ概況

(1) 可航區取

本不況ハ開始ヨリ金垂ニ至ル間ノ約二五村ノ水路ニシテ河底ハ小礫石ヲ混
フル砂地ナルモ年々ノ増水ニ依リ河底ノ状況變化シ各所ニ淺瀬ヲ有シ氏
ノ航行容易ナラス。獨江ニ比シ利用ノ復舊相砂キモノト認ム。

(2) 可航舟運

前述ノ如ク本不況ニ於ケル可航舟運ハ一般ニ極メテ難状ニシテ河底扁平ヲ
シタル吃水淺キ民船或ハ竹筏ノ利用多シ、夏期減水時ニ在リテハ殆下中
型民船ノ航行困難ニシテ曳航又ハ水陸作業等行ハサレバ該船ノ航行ヲ許サ
サルモ竹筏ハ四季ヲ通ジ航行シ得

二 運營ノ場合ニ於ケル寄港地

開船縣城、石住、金垂縣城

(1) 開船縣城ニ就テ

開船縣城ハ所轄線上金垂―廣信ヲ結ブ重要ナル交通ノ要衝ニシテ亦獨江、

原本不明瞭

金華江、新女江、ヲ結ブ水運ノ中心地タリ。尙金華平野ヲ控ヘ農産物資ノ一大集散地トシテ最も重要ナリ。

(2) 金華縣城ニ就テ

金華縣城ハ浙贛線上最大ナル商業都市ニシテ水陸交通ノ一大據點タリ又附近農産物資並ニ煤石等ノ集散地トシテ重要ナリ。

金華縣城



金華街ニ極ム成農産物



金華町地帯



三 豫時ノ経度

本水陸中河等ニ懸ニ機瀬ヲ生ジ夏期減水時ニ在リテハ民船ノ航行容易ナラズ金華西北石任嶺附近ニ在リテハ支流ヨリ流水スル土砂ノ爲約三〇〇米程度淺瀬アリテ水中障時ヲナス航行上注意ヲ要ス。

附圖集 参照

本水陸ノ流域ハ金華大平野ヲ控ヘ一帯ニ平地ニシテ河川ノ航行容易ナリ。尙上流金華岸各所ニ河木繁茂シアリテ運送力カズ亦民船ノ曳航困難ナリ。ニ至ル間ハ石岸ハ平地ニシテ民船ノ曳航容易ナリ。

四 天候氣節ノ交感

本水陸ノ上流地帯ハ一帯ニ山岳地帯ナル肌石露出シ、土質尙ネ粘土ニシテ降雨ニ對スル吸收力ニ少ク爲ニ降雨ニ至ラバ忽チニシテ上流ヨリ激流シ來タリテ洪水トナリ晴天ニ至ラバ忽チ減水シ旱天ニ至ラバ枯渴状態トナル、天候氣節ノ交感極メテ大ナリ。

六 橋梁、渡船物、徒涉物ノ狀況

(1) 橋梁

本水陸ニ架設サレタル橋梁ハ金華西北方五村ノ地點ニ鐵橋一個所アリ、石造ノ太鼓橋アリ、何レモ鐵車ニ架設サレ補修ヲ要ス取近(七月二十三日)ノ洪水ニ依リテ迦濟橋補修箇所流失サレ通行不能ニ陥リ爲ニ下流百米ノ地點ニ新タナル單橋架設サレ在リ。

金華迦濟橋



原本不明瞭

めくれず

(2) 概況

概況、船隻、石柱、西開（金垂下流二村）

(3) 徒歩

概水期ハ到ル處徒歩可能ナル箇所ヲ生ズルモノナラン。

水深、河幅、水流幅、河底ノ状況

(1) 水深

本水期ノ夏期平水時ニ於ケル水深状況ハ二〇年前後ノ概キ箇所至ル處ニ在リテ氏船ノ航行容易ナラス。概水期ダシキ時ハ竹伐ノ航行モ容易ナラサル。状況ナリ。平水期ニ於テハ深キ箇所二米内外ナリ。

(2) 河幅

本水期ノ河幅ハ平均二〇〇米内外ナルモ狭キ箇所一五〇米廣キ箇所ニ在リテハ三〇〇米以上アリ。

(3) 水流幅

本水期ハ下流ノ砂土多ク、狭キ箇所ニ於ケル水流幅ハ一〇〇米内

河床ノ状況

本水期ノ河床ハ益々小礫石ヲ混フル砂土ナリ。

八 概況

本水期ノ平水ニ於テハ一般概況利用ノ部ヲ認メザルモ、交流ニ於テハ概況利用セシモノト考ス

九 概況

本社ハ東陽江及武義江ノ兩江合流ニシテ一名金垂江トシテ一大江ヲ形成シ、西北ニ流レ、船給ニ出グ其ノ長サ約二十五村ニシテ本社ハ獨江ニ比シ運用價、如ク戦前ハ氏船ニ成ル物資ノ移出入ヲ計リタルモノニシテ該地特有並ニ竹伐ヲ以テセバ運送可ナリ。本水期ハ我方占據地内唯一ノ水路ニシテ運送方東至望概視シ直クヲ許サズ。最少ノモノニテ最大ノ效果ヲ擧グベク、概況ヨリノ獲得物資ノ運送ヲ計ル可ク概況民船ニ依リ曳航又ハ獨航セシメ一部水路開拓スベキ箇所ハ任民ヲシテ勤勞奉仕ニキシメ水路ノ整備ヲ行ハシム。同春汛期ノ比較的水量ニナル初ニ於テハ平水時不時ノ水害ナキ限り

原本不明瞭

めくれず

現地軍指導下ニ船團組織シ運送統制ノ運営ヲ計レバ東陽江ト共ニ水路ニ依
ル物資ノ移出入モ或ル程度確保視サラル。

第六章 浦陽江（浦陽縣城ヨリ以北縣境ニ至ル間）水路狀況

調査方法

浦陽縣城ヨリ民船ニテ下航シ實地調査ヲナスト共ニ左ノ如キ文
献ヲ參考トス

參考トセシ文獻

- 生産會議報告書 浙江省法規集
- 浙江省政府公報 分省地誌浙江
- 建設廳報告書 浙江政治

原本不明瞭

一 町 以下 町 間 航 路

(1) 大小 船、汽 船、小 汽 船 (拾 五 町 内 外)

尖 山 町 — 旭 公 埠 間 航 行 可 能

(2) 氏 船 (十 五 町 内 外 迄)

尖 山 町 — 旭 公 埠 間 航 行 可 能

(3) 小 型 汽 船 (壹 町 内 外)

尖 山 町 — 諸 宮 縣 坂 間 航 行 可 能

(4) 汽 船

至 江 航 行 可 能

(備考)

(1) 氏 國 七 六 年 迄 ハ 旭 市 外 兩 岸 間 日 一 諸 宮 縣 坂 間 ニ 渡 津、旭 諸 二 公 司

ノ 汽 船 ニ 依 ル 小 汽 船 航 行 シ 旭 谷 ノ 迎 航 ヲ ナ シ 店 リ タ リ (分 省 理 認 許 證 照 二 於 ケル 土 産 物 運 送 利 用 統 計 表)

原 本 不 明 瞭

| 品名 | 産量 | 移出数量 | 準備機関 |
|----|-----------|-----------|----------|
| 米 | 一五九〇〇〇石 | 六二九〇〇〇石 | 大牛氏船二依ル |
| 麥 | 二六六九四〇〇 | 五七七五五〇 | " |
| 豆 | 一三九二五〇〇 | 二一七五〇〇 | " |
| 芋 | 三〇八〇〇〇 | 一七五〇〇〇 | 汽船及民船ニ依ル |
| 其他 | 一〇〇〇〇〇〇 | 九〇〇〇〇〇 | " |
| 合計 | 一、二二九、〇〇〇 | 六、〇〇〇、〇〇〇 | " |

○産量移出数量ハ一ケ年ノ数量ナリ（民國廿四年生産會議報告書参照）

○江津縣ニ産出ナス産物形（約三〇〇、〇〇〇本）炭（二一〇、〇〇〇）市橋一ハ役ニテ船陸江ヲ下リ杭州及寧波方面ニ輸出サレ居リタリ

ニ運營ノ場合ノ奇港地

京全縣覽圖
江甬ハレ流尖中



橋車ケル於ニ市山尖



三 運營ノ場合ノ奇港地

- (1) 甯波縣城下加三村地點「石村」ニ農田ニ引水ノ爲ニ設ケシ堰堤アリシモ現在石岸半分ヲ止ムルノミニテ航行ニ支障ナシ
 - (2) 將村下流四〇〇米ノ地點ニ橋脚アリ現在航行ニ支障ナキモ現在ヨリ増水シタル場合ハ注意ヲ要ス（該地水深一米）
 - (3) 甯波縣城ヨリ出王間ハ至ル處ニ中州淺灘アリ（地質ハ泥土質ナリ）
- 四 兩岸地形ノ京況
兩岸ノ堤防ハ高サ平均約三米地質ハ土砂ニシテ降雨期増水時ニアリテハ崩壊

原本不明瞭

めくれず

谷物ナリ現ニ其痕跡多ク殊ニ石岸地區甚タシク商家埠ニ於テハ目下決潰セル
 是防ヲ補修工事ナリ

江ノ流激ハ興山附近（左岸）ヲ除ク外殆ンド發出ナリ、發出ハ水回ヨリ約〇
 四〇乃至〇、五〇呎シ

天候、氣即ノ交感

江ハ天候ニ依ル増減水ノ差甚シク約二日間猛雨續ケハ二米乃至三米増水
 時天三日間ニシテ二米乃至三米ノ減水ヲ見ル秋冬ハ著ルシク減水ス

（備考） 諸管縣ニ於ケル雨量統計（生産會議報告書参照）

| 年 | 月 | 雨量 每重 |
|-------|-----|----------|
| 民國22年 | 1月 | 72.6 |
| | 2月 | 145.9 |
| | 3月 | 123.4 |
| | 4月 | 159.2 |
| | 5月 | 182.9 |
| | 6月 | 462.8 |
| | 7月 | 83.3 |
| | 8月 | 122.1 |
| | 9月 | 307.7 |
| | 10月 | 37.1 |
| | 11月 | 54.7 |
| | 12月 | 70.4 |
| 民國23年 | 1月 | 70.6 |

六、 渡船場、徒涉場ノ状況

(1) 橋 梁

(1) 諸管縣城ト對岸ヲ結フニ湖橋アリタルモ現在橋脚

（石）三箇所ヲ止ムルノミ（湖橋對岸ノ公路ハ諸
 管縣城ヨリ橋脚ヲ經テ湖橋對岸ニ至ル線ニテ作
 戦前食糧輸送ルトトシテ重要ナル役柄ヲ果シ居
 リシモノナリ）



諸管縣城ニ在ル湖橋

回毛支埠ニ木橋アリタルモ現任附則ニ橋脚（石）ヲ止ムルノミ

(2) 「藤村」下流四〇〇米ノ地點ニ木橋アリタルモ橋脚（木）ヲ殘スノミ

（四）川ノ橋ハ食糧收運處ノ建設ニヨルモノニテ余 班地區ノ食糧輸送ル
 一トニ使用サレ居リシモノナリ。

(2) 「相家埠」ニ吊橋橋名同濟橋アリタルモ現在ナシ

(3) 「城公埠」ニ浮橋アリタルモ五月ノ出水ノ爲破壞サレ現在兩側ニ橋ヲ連
 結セシ頭ヲ殘スノミ

(2) 渡 船 場

一 諸管縣城ヨリ對岸（民船三隻使用）

原本不明瞭

- 一 相家埠ヨリ對岸（民船一隻使用）
- 一 江埠下流五〇〇米ノ地點ヨリ對岸（民船一隻使用）
- 一 周家埠ヨリ對岸（民船二隻使用）
- 一 姚公埠ヨリ對岸（民船二隻使用）

(9) 徒 涉 場

- 一 諸官縣城下流五〇米地點 水深〇、五〇米
- 一 周家埠下流 五〇米地點 水深〇、五〇米
- 一 汪王鎮則 水深〇、六〇米

水深、河幅、水流幅、河底狀況

- (1) 諸官縣城ヨリ相家埠ニ至ル間八〇、五〇米ヨリ二米乃至三米
- (2) 相家埠ヨリ長崗埠ニ至ル間ハ徒涉場（六ノ(9)參照）ヲ除ク外一米乃至四米
- (3) 長崗埠ヨリ尖山間ニ至ル間ハ二米ヨリ一〇米
- (2) 河 幅 六〇米

相家埠 五〇米

姚公埠 四〇米

尖山市 七〇米

(8) 水流幅

長崗埠 三〇米

三江口附近 七〇米

尖山市附近 四〇米

(4) 河 底

諸官縣城ヨリ長崗埠間土砂ニシテ河側ニ沈積作用ヲ見ル尖山市附近ハ泥土ナリ、水ノ増減ニ依リ河底狀況ハ著シク變化ス

八 灌溉利用状況

諸官江ノ利用は河ヲ見ルニ交ヒヨリ灌溉利用力遙カニ大ナルモノト思考ス
全江ニ於テ是レ助下ニ水門ヲ設ケ水ヲ引キ灌溉ニ利用シツ、アリ、周家埠石崖ニ於ケル灌溉利用状況ヲ見ルニ是レ防ノ下部ニ墜道ヲ設ケ墜道ノ兩面ニ木製ノ堰半ナル高アリ、高ノ下ニ直徑約四〇米ノ貯水池アリ之ヨリ幅約三米ノツリ山堰ニ至ラス

原本不明瞭

めくれず

浦陽江水利委員會ノ組織

(1) 理由

浦陽江ハ交通海峽ノ兩面ヨリ考察スルニ流域ニ在ル紹興、蕭山、諸暨、浦江各縣民ノ受クル恩惠ハ多大ナルモノアリ、併シ江ノ流域ニアル山岳ニハ殆ン下流ナク加ラルニ河床淺ク降雨ニ依ル水位ノ増減甚タシク故ニ江ノ補修ヲ怠レバ災ヘル恩惠ハ強減セラルノミナラス反對ニ損害ヲ與ヘ無用ノ河川トナル虞アリ

民國二十三年浦江縣長ノ提案ニ依リ浦陽江改修委員會組織サレル迄ハ毎年必ス水患ナカリシ模様ナリ
民國二十七年（昭和十三年）前記委員會解散シ新ニ修築浦陽江堤埝工程委員會組織サレ江ノ水患ヲナシツ、アリタルモ諸暨縣上流ニ限ラレ下流ハ放直シアリタル模様ナリ故ニ今次大出水ニ依ル被害モ下流地區特ニ甚タシキモノナリ

浦陽江ヲ現任ノ位置置シ兼用一復案ラバ流域ノ肥沃ナル農田ハ一割ニシテ

水トシテスハ今次出水ヲ見テモ明ラカナリ故ニ補修ヲナス事ハ肥沃ナル農産物ノ確保ト共ニ多年水患ニ苦シミツ、アリシ流域住民ニ對スル取次ノ宜無ニナル又交通固ヨリ見ルニ過去ニ於テハ蘇州ヨリ諸暨縣城迄小蒸汽船航行シ貨客ノ運搬ナシ居リタルモ現在ハ出水ニ依ル河床ノ變化ニ依リ増水期ニ於テモ航行區間ハ杭州！長興等間ナリ今後浦陽江ヲ活用セントセハ取次小限成諸暨縣城迄小蒸汽船航行出來得ル様補修ヲ改修ナス必要アリ故ニ早急ニ浦陽江水利委員會ヲ組織シ江ノ改取ヲナサネバナラヌ

(2) 組織

山 安 員 會 ノ 構 成

國民政府水利委員會、浙江省建設廳、浦江、諸暨、蕭山、紹興各縣政府、華中鐵道、民船公會、愛路區、石ヨリ合々代表一名ヲ選出シ構成ス（委員ハ無給トス）

○ 華 中 鐵 道 ヲ 委 員 ニ セ シ 理 由

（將來浦陽江鐵道ヲ華中鐵道力經營スルモノト豫想シ其ノ場合鐵道ハ浦陽江ニ沿ヒ敷設シアリ故ニ水患ノ際鐵道ノ受クル被害最モ大ナルニ依

原本不明瞭

めくれず

(一) 改革經營ノ提出案
 改革經營ハ國民政府水利委員曾並ニ浙江省建設廳ニテ大牛負擔シ殘余ヲ
 垂中減退ニテ負擔ス
 作戰則ニ於ケル浦陽江堤堰委員曾ノ經營ハ浙贛鐵路局、其鹽收運處ニテ
 負擔シオリタリ
 (二) 勞力ハ江ノ流域ニ愛路區ヲ編成シ任民ノ勤勞奉仕ニヨル
 (三) 着手事項
 (A) 堤防ノ補強並ニ改革
 (B) 貯水ノ増設並ニ貯水池ヲ設ケ水位ノ調節ヲ圖ル
 (C) 溝道ノ浚深 (現在ノ狀態ニテハ至ル處ニ中州アリ舟艇ニ支障アルニ付
 江ノ中央部ニ溝道 (水深二米幅六米) ヲ浚深シ舟航ヲ便
 ナラシム)

第一節 浦江水路狀況

一 浦江ノ概要
 浦江ハ一名上既水又ハ信江トモ稱シ源ヲ玉山縣陝玉山ニ發シ玉山廣信河口
 域面積六萬方里河長八〇〇里 (支那里)
 玉ナル支流ハ廣信縣城附近ニテ合スル永豐溪鉛山縣河口ニテ合スル鉛山水
 弋陽縣城東用村四村ノ地帯ニテ合スル宋溪余江縣城ニテ合スル白枯水資溪ア
 リ
 浦江ハ山地ヲ流ル河川ノ特徵タル降雨ニ依ル水位ノ増減甚タシク江西省中比
 較的交通便利トシテノ利用價值尠キ河川ナリ
 二 可航埠位ト其ノ區域
 (1) 小汽船、二〇哩内外
 江口ヨリ余江縣城間 (約七五村) 航行可能ナリ
 (2) 兩昌陷浴前南昌余江間ニ兩昌保船有限公司所有保船、保長號二隻ノ小
 汽船航航シ貨客ノ運搬ヲナス)

原本不明瞭

(2) ヤン、大小、江口ヨリ貫侯縣城間(一二五村)航行可能ナリ

(3) 玉山縣上流ヲ除キ全江通船ス

玉山、廣信、廣寧、鉛山、河口鎮、橫峰、弋陽、貴溪、餘江、各縣城鎮

四等礮程度
玉山縣城三里街ニ養魚ノ爲設ケン石堰アリ民船ノ上流シアリ其ノ他不明
廣信一五東湖間ノ兩岸概シテ山地ニシテ是防高低二、三米ナリ其ノ他不明



廣信縣城ニ於ケル民船

貫侯縣城天候氣師統計表

(江西統計月刊) 民國二十九年

| | | 一月六月 | |
|----|---------|------|-------|
| 天候 | 晴日數 | 9 | 10 |
| | 晴日數 | 8 | 5 |
| | 曇日數 | 4 | |
| | 雨日數 | 10 | 15 |
| 雨 | 總量(ミリ) | 83.9 | 41.2 |
| | 一日最大量 | 24.4 | 41.8 |
| | 日期 | 15 | 27 |
| 蒸發 | 發量(ミリ) | 36.8 | 100.7 |
| 濕度 | 相對(%) | 82.0 | 80.4 |
| | 絕對 | | |
| 風 | 最大風向 | 東 | 東南 |
| | 平均風力 | 3.1 | 2.82 |
| 溫度 | 平均% | 8.8 | 27.3 |
| | 最高 | 22.4 | 34.4 |
| | 最低 | 4.2 | 16.4 |
| 雲 | 量(0-10) | 5.5 | 7.6 |
| 日照 | 時數 | | |
| 雜項 | 雪 | 2 | |
| | 霜 | 7 | |
| | 霧 | 1 | |

七、橋梁、渡船、徒涉場ノ狀況

(1) 公路完成以前ハ全江ヲ通シ橋梁ハ殆ト無キ状態ナリシモ公路完成後主要渡河船ニ備テ建設セリ(建設ハ總テ早ニテアス)橋ハ總テ民船ヲ使用セシ浮

原本不明瞭

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

12-15

浙贛
作
鐵
閘
現
地
綜
合
調
查
報
告
書

昭和17年10月15日
陸軍省司令部

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | 返 赤 |
| | 3 A |
| 配架番号 | 14 |
| | 12-15 |

12-15

1 OCT 17
COPY 1957

極秘

浙贛作戰間現地綜合調查報告書

第六編 水路

昭和十七年十月十五
日 登記集團司令部

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | |
| 配架番号 | |
| | 12-15 |

めくれず

12-15

配布區分

| | | | | | | | | | | |
|----------|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-----|------|----|
| 興亞院華中連絡部 | 第二船舶輸送司令部 | 甲集團 | 仁集團 | 波集團 | 呂集團 | 上海陸軍部 | 總司令部 | 陸軍省 | 參謀本部 | 部 |
| 一。 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 四 | 二 | 部數 |
| 田上 | 早淵 | 南部 | 武内 | 内田 | 小林 | 小平 | 大城 | 山内 | 部 | 部 |
| 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 | 部 |
| 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 | 隊 |
| 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 二 | 二 | 四 | 二 | 部數 | 部數 |

一 本資料ハ今次河 作戰ニ從事セシ單派遣調査隊 (水路班)ノ現地調査
報告ヲ見録セシモノナリ。
二 本報告中意見ニ具ル箇所ハ調査員個人ノ意見ナリ。

原本不明瞭

第一章 要旨

第二章 江山港水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 運管ノ務合ノ寄港地

三 埠頭ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

五 天候氣節ノ交感

六 橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七 水陸、河幅、水流欄、河底状況

八 權賦利用状況

九 船

第三章 河江水路狀況

一 可航舟艇ト其ノ區域

二 運管ノ務合ニ於ケル寄港地

三 埠頭ノ程度

四 兩岸地形ノ景況

原本不明瞭

無天候氣節ノ交感

六橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七水深、河幅、水流幅、河底状況

八通航利用状況

九結 論

第四章 東陽江水路状況

一可航舟艇ト其ノ區域

二運管ノ場合ニ於ケル寄港地

三障河ノ程度

四兩岸地形ノ景況

五天候氣節ノ交感

六橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七水深、河幅、水流幅、河底状況

八通航利用状況

九結 論

第五章 金華江水路状況

一可航舟艇ト其ノ區域

二運管ノ場合ニ於ケル寄港地

三障河ノ程度

四兩岸地形ノ景況

五天候氣節ノ交感

六橋梁、渡船場、徒涉場ノ状況

七水深、河幅、水流幅、河底状況

八通航利用状況

九結 論

第六章 湘陽江水路状況

一可航舟艇ト其ノ區域

二運管ノ場合ニ於ケル寄港地

三障河ノ程度

四兩岸地形ノ景況

五天候氣節ノ交感

原本不明瞭

- 六 備案、渡船場、徒涉場ノ狀況
- 七 水深、河幅、水流幅、河底ノ狀況
- 八 灌溉利用狀況

六 緒論

第七章 錦江水路狀況

- 一 概況
- 二 通商ノ場合ニ於ケル寄港地
- 三 埠頭ノ程度
- 四 兩岸地形ノ景況
- 五 天候季節ノ交感
- 六 備案、渡船場、徒涉場ノ狀況
- 七 水深、河幅、水流幅、河底ノ狀況
- 八 灌溉利用狀況

附錄一 開始測量水測定表

附圖第一 調査地域略圖

- ” 第一 江山港 (清洲驛—後津街間) 水路調査圖
 - ” 第二 江津 (後津街—津敷間) 水路調査圖
 - ” 第三 河津 (津敷—兩津間) 水路調査圖
 - ” 第四 東勝江 (東勝橋—御室驛間) 水路調査圖
 - ” 第五 ” (金華—御室驛間) 水路調査圖
 - ” 第六 金華江 (兩津—金華間) 水路調査圖
 - ” 第七 浦崎口 (兩津—尖山間) 水路調査圖
- 別冊第一 偽河江省戦時水陸交通器具官製辨法概要
- ” 第二 車陵政府辦理民船規則
 - ” 第三 河江省ニ於ケル民船運送並ニ分布狀況調査表
 - ” 第四 江四省民船運送並ニ分布狀況調査表

原本不明瞭

第一章 要 旨

今水師艦作戦地帯ハ釜蓋ヲ中心トシテ東北方約七〇村ノ地帯ニ東西ニ大分水嶺ヲ登ヘ又四兩方約一〇〇村ノ浙江、江西兩省ノ境界地帯ニ一分水嶺ヲ控ヘ一畝ニ山岳地帯ニシテ河川ハ自ラ之等兩分水嶺間ノ山系ヲ縫ヒ其ノ本流ハ錢塘江ヲ經テ杭州灣ニ注グ約四〇〇村ノ水路ニシテ至ル處屈曲甚ダシク水量甚チアラサルヲ以テ淺瀬、中洲、砂洲（礫石）等多ク、急流ニシテ水清ク日本ニ於ケル河川ト同様ノ感アリ。外ニ兩分水嶺ニ源ヲ發シ他ハ北方ニ走ル湘陽江ト瀘陽江ニ定ル細江アリテ之等ヲ合スル時ハ其ノ總延長ハ實ニ五〇〇村ニ及ベリ。向谷山系間ニハ無敵ノ小川アリ之等ハ一部灌溉ニ利用サレオルモノト思ハスルモ水運ニ就テハ何等 價値ナキモノト認ム

而シテ之等ノ利用價値ニ就テハ今次作戦前迄ハ該地區ハ第三戰區トシテ軍慶政權ノ實地地帯ニシテ各方面ヨリノ密輸ルト多ク特ニ北方皇軍確保地區ヨリノ主ナルルトトシテ

第一山系ト州ヨリ錢塘江、富春江、桐江、蘭江ヲ經テ蘭谿ニ至ル

第二山系ト州ヨリ錢塘江、湘陽江ヲ經テ發射、釜蓋ニ至ル

原本不明瞭

第三ル、ト、平波ヨリ味縣、新昌ヲ經テ東陽義烏ニ至ル
ヲ數ヘラレルモノニシテ何レモ今、次、所、義、作、戦ニ依リ復滅サレ該地區ニ進駐ス
ルニ當リ、之等貨庫ヲ通ズル該ル、ト、今、次、逆ニ如何ニ利用スベキカハ車大
ナル間細ニシテ近ク金雜以東ノ地區ニ鐵道ノ附設ヲ見ルモ、其ノ輸送力ノ僅
少ナルト運賃ノ高價ナルトニ依リ之ニ期待サル可キ處少ク從ツテ無限ノ輸送
力ト底成ナル運賃ヲ以テ完全ニ其ノ任務ヲ完フシ得ル之等水運ニ期待サル可
キ處大ニシテ特ニ此ノ意味ニ於テ江蘇省方面ヨリノ物資搬出ニ就テハ江山港
衛江、甌江、錢塘江ヲ通ジ武義方面ヨリ搬出スル戰時必要缺ク可カラザル類
産物並ニ該處方面ヨリ年數十萬噸ニ及ブ砂糖ノ搬出ニ就テハ東陽江、武義江
ヲ經テ金華江、甌江、錢塘江ニ通ズル第一ル、ト、ハ、取、モ、要、視、サ、ル、可、キ、モ、ノ
ナリ。
又、第二ル、ト、ハ、義、烏、ヨリ、諸、管、ニ、通、ズ、ル、間、ニ、一、大、分、水、領、ヲ、控、へ、ル、爲、此、ノ、間、ハ
鐵道、自動車又ハ一輪車等ニ俟タサルヲ得ズ從ツテ水路ニ依ル輸送價値少キ
モノト思慮サル、モ、之、ガ、運、給、ノ、ヨ、ロ、シ、ク、ヲ、得、バ、州、ニ、通、ズ、ル、直、線、ル、ト、ト、シ
テ、第一ル、ト、ト、並、ビ、車、要、ナ、リ。向、第三ル、ト、ニ、於、テ、ハ、山、出、地、帯、ヲ、支、那、特、有、ノ

一輪車等ニテ取込シアリタルモノナレバ之亦其ノ利用價値少キモノニシテ今
後該地區開發ニ當リテハ前述ノ如ク絕對的ニ第一ル、ト、ノ開拓確保ヲ必要ト
スルモノニシテ之ガ今後ニ於ケル經營コソ今、次、作、戦ニ優劣價値ヲ得セシムル
モノナリ。而シテ之ガ經營鐵道ヲ開設シ統制アル指導ノ下ニ船隻輸送ヲナシ
中間ノ各站路ハ出來得ル限り之ヲ閉鎖シ以テ輸送連營ノ萬全ヲ期スルヲ要ス
向、甌江ノ連營價値ニ就テハ將來用旨方面ヨリノ進出路トシテ亦該地區方面ノ
物資搬出路トシテ其ノ價値アルモノト思慮スルモ其ノ調査全キヲ待ザリシ爲
遺憾乍ラ茲ニ評述スルコトヲ得ズ、以下各章ニ就キ評述ス。

原本不明瞭

第二章 江山港水路状況

一 可航舟艇ト其ノ區域

(1) 可航區域

本水路ハ江山ヲ中心トスル上流四湖湖ヨリ下流河州(含マス)ニ至ル間ノ約五〇軒ノ水路ニシテ河底ハ一般ニ小礫石ニシテ夏期平水時ニ於テハ河水微メテ少ク、向河川ノ屈曲甚ダ多ク急流ナル雖又ハ河床ニ岩石突出箇所隨所ニ在リテ、一般民船ノ航行谷勿ナラズ向水深淺キ箇所ニ在リテハ僅ニ二三〇噸ニシテ夏期平水時ニ於テハ可航困難ナリ

(2) 可航舟艇

前述ノ如キ状況ナレバ可航舟艇ハ吃水殆トナキ該地獨特ノ船底扁平ナル中小型民船ヲ用ヒ水路作業又ハ曳航ニ依ル局地航行ニ依ルカ或ハ水重比較的多キ春秋ヲ利用セバ概シテ可航有利ナリ

(船民航就)



二 運營ノ功台ニ於ケル寄港地

清瀨、江山縣城、大橋、後橋、前河街

就中江山港ハ河橋線上金垂一廣信ヲ結ブ中間主要都市ニシテ水陸交通上ノ重要地タリ。該地ニ於ケル平野ハ物資ノ生産ニ富ニシテ一大集取地タリ。故ニ將來運上輸送ト相俟ツテ水陸輸送ニ期待スルモノ亦妙トセス。

江山碼頭狀況(一)



江山碼頭(二)



西湖頭上流狀況

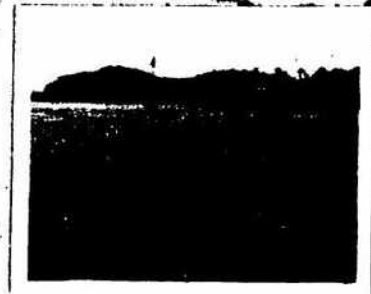


附圖第三、第三參照

三 障碍ノ程度

本水陸ハ崩出箇ダシク中間ニ淺瀬十八箇所、岩石突出四箇所、礫六箇所等アリテ平水時ニ於テハ航行容易ナラス。尙岩石突出箇所ハ江山縣城上流地點ニシテ障碍ニ航行上注意ヲ要ス。附圖第二、第三參照

(岩石突出狀況)



(淺瀬ノ狀況)



四 兩岸地形ノ景況

本調査ノ上流石岸地區ハ兩岸ニ按シタル峻峻ナル山崖ナリ。石岸下流並ニ左岸地區ハ一般ニ緩傾斜ノ田畑、雜木等ニシテ所々ニ墓地程度ノ起伏アルノミ。概木平頂ナリ。向本年度ノ大洪水ニヨリ沿岸所々崩壞シ、水運ノ利用上補修

原本不明瞭

ヲ要スル個所或ハ家屋ノ浸水。就中民船ノ流失破損等ノ被害亦渺トセス。

民船ノ流失破損状況(一)



(二)



兩岸地形ノ景況



天候氣節ノ交感

本地域ハ一般ニ此石又ハ赤地ノ河木ナキ急峻ナル山崖ヲ近クニ望ヘ、平地モ亦緩傾斜セル粘土ノ田畑ナルガ故ニ降雨ニ對スル吸收力ニ乏シクシテ洪水ノ原因ヲナス。降雨一日ニシテ河川ハ氾濫状態トナリ、河水激流シ爲ニ其ノ被害大ナリ。然レ共晴天ニ至ラバ忽チニシテ減水シ天候氣節ニ依ル増減水ノ變化頗ル大ナリ。

橋梁ノ渡船、徒涉場ノ状況

(1) 橋梁

本水路ハ一般ニ淺ク各所ニ渡渉場多キ爲下橋梁ヲ認メズ。只江山縣城外及同縣上流二軒ノ地點ニ各々車橋一ヲ有シ、後津街上流二軒ノ地點ニ同橋一ヲ有スルノミニシテ其ノ他橋梁ヲ認メズ。尚同縣上流ノ橋梁ハ殆ど編真ノ如ク橋脚低キガ爲一般に加ノ航行ニ際シテハ一橋脚間ヲ取除キ一受死航行シ得ル状況ナリ。

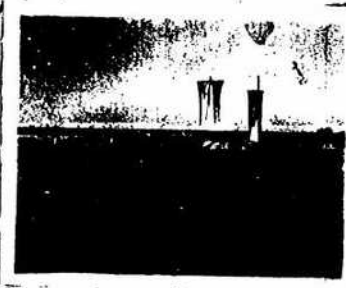
同縣上流車橋



江山縣城外車橋



後津街上流鐵橋



(2) 渡

本水路ハ一般ニ水深淺キ爲渡船少ク主ナルモノハ左ノ五箇所トス

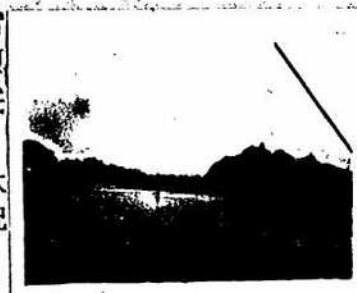
原本不明瞭

(8) 徒 涉 場
 河川下流一、五村ノ地誌、大森、後決街、務家、

以水初ハ河川處ニ徒涉可能ナル箇所生ズルモノト思考スルモ夏期平水時ニ於テハ附圖第二、第三ノ如ク十八箇所ノ徒涉地誌ヲ有シ特ニ二、三〇箇所前後ノ箇所六箇所アリ

附圖第二、第三参照

徒涉場ノ状況



七 水深、河幅、水流速、河底ノ状況

(1) 水 深
 本水終ノ夏期平水時ニ於ケル水深状況ハ二〇箇所前後ノ淺キ箇所六箇所、五〇箇所前後ノ箇所十二箇所、其ノ他一米内外ニシテ深キ箇所ニ有リテハ

二米乃至三米ナリ。

(2) 河 幅

本水終ハ平均八〇米内外ナルモ後決街、前河街附近ニ在リテハ約二〇〇米アリ。

(3) 水 流 幅

本水路ハ一般ニ河田多キ為各所ニ砂積(礫石)多ク深キ箇所ハ三〇米ヨリ廣キ箇所ハ一〇〇米前後アリ。

(4) 河底ノ状況

本流域ハ概テ小礫石ナルモ江山流域上流ニ於テハ岩石地帯及小砂箇所多カラズ。

附圖第二、第三参照

八 灌溉利用ノ状況

江山流域上流ニ於テハ二、三箇所、下流ニ於テハ一、二箇所、各々人工堰ヲ設ケ水旱設備アリ、然レ共水中灌溉ノ利用ノ形跡ヲ認メズ

原本不明瞭

六 結

前述ノ通り本水路ハ海峽ヨリ下流河州ニ至ル間ハ延長約五十軒ノ江階ニシテ中間ニ屈曲甚ダシク難航利用ノ狀況ハ殆下認メラレズ夏期平水時ニ於テハ三ノ處水深淺ク且各所ニ岩石突出シオレル狀況ナレバ竹筏ノ運航ヲ許ス難成ニシテ中小型民船ノ運航ハ困難ナレバ運用價極メテ昂キモノト思ハラル、本作戦前ハ局地面ニ多數ノ貨客搬送ニ便用セシ決走船ナルモノアリ、之レガ運航ニ就テハ該地區特有ノ船頭、技術操作ニ依リ辛フジテ運航セシモノト思ハル。同比較的水重多キ春秋期ニ於テハ現地特有ノ中小型民船ニ依リ（江西省）ヨリ一取物資特ニ農産物（江西米）ノ搬出トトシテ運賃ノ低廉ナル點ヨリ、浙贛鐵道ト並ビ重要視サルベキ水路ナリ。尙之ガ増水時ニ於ケル運行ニ當リテハ兩岸地形ノ關係上降雨ニ依ル増減水ノ差大ナルヲ注意ヲ要ス。

第三章 衡江水運狀況

一 可航距離ト其ノ區域

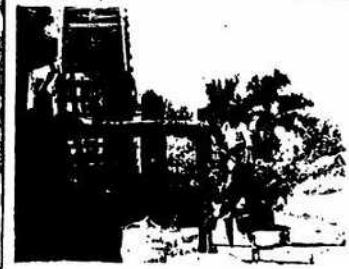
(1) 本水路ハ衡州ヨリ開始（管マズ）ニ至ル間ノ約七八軒ノ水路ニシテ河底ノハ概ネ小礫石並ニ岩石多ク、夏期平水時ニ在リテハ河水極メテ少シ、尙上流ニ從ヒ屈曲甚ダシク急流ナル處或ハ河中ニ岩石突出箇所在リテ一般民船ノ航行容易ナラス爲ニ水運ノ價値大ナラス

(2) 運賃
前述ノ如ク本水路ニ於ケル可航距離ハ極メテ短キ難航ナル該地獨特ノ船隻編平ヲナシタル中小型民船ヲ用ヒ夏期激水時ニ於テハ曳航又ハ水陸作業等ニ依リテ航行シ得ベク春秋増水期ニ於テハ水運ノ利用價値大ナルモノアリ。尙増水期ニ於テハ車ヤンツト船ノ航行ヲ許スモ激水期ニハ之ヲ許サズ、竹筏ハ四季ヲ通ジテ航行シ得

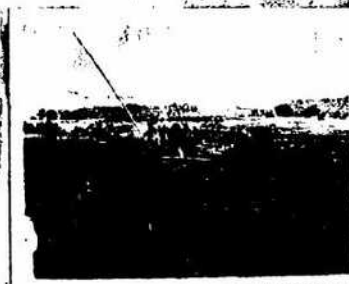
二 運賃ノ場合ニ於ケル寄港地

衡州縣城、衡陽潭、安仁街、益川、龍巖、龍巖、龍巖、洋埠
就中三ナルモノハ衡州縣城ト龍巖縣城ニシテ浙贛線上金垂一廣信ヲ結ブ水

水草ノ狀況



人工堰ノ狀況



鐵交迎ノ王塚嶽新タリ、亦周邊物質ノ一大集積地トシテ知ラレ僅メテ農産
 物資ニ富ニシテ將來運上輸送ト相俟ツテ水路輸送ヲ期待スルモノアリ。

附圖第三、第四参照

障礙ノ程度

本水路ハ江山港ニ比シ障礙箇所尠少ナキモ中間ニ、三〇裡内外ノ後瀬三個
 所、極二箇所ヲ設ケアル程度ニシテ該障礙モ若干ノ作棄亦ハ兎難ニ依リ民
 船ノ航行可能ナリ。

後瀬ニ於ケル通航状況(一)



(二)



四、兩岸地形ノ景況

本調査地區ノ兩岸ハ河川ニ近ク汎石又ハ赤土ヨリナレル小高キ山、或ハ岳

陵存在シ遙望利カサルモ右岸ハ概シテ峻嶒ナル山岳ニ近ク比較的開闢シ又兩
 岸所々ニ雜林、竹林等繁茂シ、岩石多ク河川ニ突出シ、何レモ自然ノ岩窟ト
 ナリ人偏ハオロカ舟楫共對望遠敵ニ絶好ノ場所スラ在リ。又平地ハ一大沃野
 ニシテ米、麥、其ノ他農産物資ニ富ナルモ其ノ土質ハ概ネ粘土ナリ。尙沿岸
 ハ所々水陸ノ爲崩壞シ約三次ノ斷崖ニシテ三、四百米ヲ越レル箇所各所ニ在
 リ。

斷崖狀況(一)



岩石突出狀況(二)



岳陵狀況(三)



五、天候氣節ノ交際

本調査地取タル欄江上流ハ一般ニ山地帯ニシテ樹木少キ汎石ノ峻嶒ナル山
 岳連綿シ其レニ依マレル平地ノ土質ハ粘土ノ爲ニ降雨ニ對スル吸收力乏シク
 從ツテ降雨ニ至ラバ忽チ河川ハ洪水氾濫シ民船ノ航行ニ大ナル困難ヲ生ズ。

尙増水ハ越増度ニシテ陣雨一時間約一米内外ノ増水ヲ見ルガ如キコト珍ラシ
 カラス然レ共晴天ニ至ラバ忽チ似水シ或日ナラスシテ平水状態ニ復ス天候氣
 節ニ依ル増減及ノ變化極メテ寂速ナリ。

(1) 橋梁

本水路ハ谷川ニ渡渉場多ク殆下橋梁ヲ認メズ。只衢州城外西北方城裏下ニ
 車橋架設一個所アルノミニテ他ニ認メズ

(2) 渡

衢州縣城、俸何潭、邵家、馬葉村、茶坪埠、橋頭江、洋埠、湖家、殺家、
 街州縣城、俸何潭、邵家、馬葉村、茶坪埠、橋頭江、洋埠、湖家、殺家、

(3) 徒涉

本水路ハ激水期至ル處徒涉可能ナル地點ヲ生ズ、夏期平水時ニ於テハ附屬
 第三、第四參照ノ如ク徒涉場ニ三個所ノ地點ヲ有シ就中三〇楯以上五個所
 アリ。

水深、河幅、水流幅、河底ノ狀況

(1) 水深

本水路ノ夏期平水時ニ於ケル水深狀況ハ二〇楯内外ノ淺キ箇所二、三個所
 三〇楯内外ノ箇所五箇所其ノ他深キ箇所ニ在リテハ三米乃至四米ナリ。

(2) 河幅

本水路ノ河幅ハ平均二〇〇米内外ナルモ深キ箇所ニ於テ一〇〇米廣キ箇所
 ニ於テハ五〇〇米ニ及ブ處アリ。河幅上流下保附近ニアリテハ兩岸地帯
 大淵原ヲナシ平地トノ境ヲ判然トセザル處アリ。

(3) 水流幅

本水路ハ河幅一放ニ廣キモ上流ニ在リテハ礫木石岸、下流ニ在リテハ
 兩岸殆下險地（砂小礫石）ヲナシ且ツ各處ニ中洲多クシテ河幅ニ比シ水流
 幅亦小ニシテ深キハ二〇米前後ノ箇所サエアリ、向橋州下流二〇村附近迄
 ハ中洲二、三個所ヲ除ク外河幅ト殆下同一ナリ。

(4) 河底ノ狀況

本水路ノ河底ハ礫石小礫石ニシテ所々ニ岩石突出箇所又ハ砂地デアル。

附圖第三、第四參照

八 灌溉利用ノ狀況

本地取ハ河底ト平地トノ高低ノ差多ク概ネ灌溉利用困難ニシテ一放ニ灌溉

原本不明瞭

在りてハ國水ノ利用多ク爲ニ機師ノ跡ヲ認メス

前述ノ通り本水路ハ河州ヨリ開始ニ至ル約七八村ノ水路ニシテ上流江山港ニ比シ申田ノ度甚ダシク、舟楫各所ニ伊預、小礫石濱多ク、之等伊預ハ洪水ノ度毎々河州ニ流入シテ河型變化ス本流ニ於テハ權賦ノ利用ハ殆下ナク只各所堤堰ヲ設ケ水旱設備ヲナシ居ル程度ナリ、又夏期減水期ニ於テハ竹筏ヲ始メ中小運送船ノ運航ヲ辛ジテ許ス程度ナルモ春秋増水期ニ於テハ軍ヤンマトヲ始メ大小船ノ運航モ可能ナルヲ以テ上流江山港ト共ニ江南省方面ヨリノ物資搬出ノ唯一ノ通路ニシテ今後堤堰閉鎖ノ状況上運送ノ價値大ナルモノト思慮ス。固本亦路ハ同給ニ於テ金華江ト合流シ下流蘭江、桐江、富春江、錢塘江ヲ經テ湖州ニ通スル唯一ノ直線航路ニシテ今次作戰前迄ハ軍艦ニ取リ唯一ノ密輸ノ一トタリシヲ以テ今後ニ別行サルベキ處大ニシテ之ガ運送ノ如何ニ存スル之ガ爲現地中心區ニ有力ナル航運機關ヲ創設シ、今後統制アル運航ヲナメラズス。

(完)

第二章 東陽江水路狀況

1 可航舟艇ト其ノ區域

本水路ハ義烏ヲ中心トスル上流東陽縣城ヨリ下流金華縣城武義江合流地點間約八三村ノ水路ニシテ河道ハ土砂多ク僅カ小礫石ヲ見又河底ニ岩名個所アリタルモ夏期平水時ニ於テハ東陽縣城ヨリ義烏縣城間ニ二村ハ水深淺ク水流急ニシテ且又灘多ク灣曲ナル水路ナレバ民船ノ航行自由ナラス可航ニ適セザルモノ、如シ、但シ竹筏ヲ使用スルカ曳航ニ依ル航行ハ可能ト推意サル、藝烏、金華間六三村ハ水流比較的緩カニシテ一部屈曲水路アリ又水深三、四〇程程度ノ箇所アリシモ、容易ナルモノ、如シ、但シ淺灘及灘ニ於テハ曳航ヲ要ス。

2 可航舟艇

前述ノ如キ狀況ニシテ可航舟艇ハ吃水淺キ該地河川用發特ノ船底扁平ナル中小型民船ヲ用ヒテ水路ノ運送ヲ計リ、又曳航ニ依ル局地航行ヲ成スカ或ハ水急ニ比較的惠マレタル春秋期ヲ利用スレバ民船並ニ竹筏ノ利用價值大

原本不明瞭

二、遊覧ノ場合ノ寄港地

東陽縣城、何宅、朱江鎮（藝島縣城外）、江灣市、佛堂鎮、底田市、余后、供村方、西盛、金華縣城（東門外）

現地ニ於ケル土產物資ノ集散狀況ヲ考慮シ以上ノ地點ヲ適當ト認ム。

三、障得ノ程度

本水ニハ夏期ノ水期ニ在リテハ至ル處淺瀬ヲ生ジ、上流ニ從ヒ中間ニ〇糧

程度ノ障得取ハ堰等アリテ航行ニ障得ヲ來タス。就中障得ノ主ナル箇所ハ左ノ如シ

- 1 藝島縣城上流約一〇軒ノ點タル住宅市ノ稍々下流ニ於テハ本年ノ大洪水ニ依リ沿岸樹木ト共ニ崩壞シ、河中ニ埋リ民船ノ航行不能ナル箇所アリ。
- 2 江灣市下流新店村稍上流ニ支流アリテ小礫石ノ流出、推積ニ依ル難アリテ約三〇〇米間淺ク、水深二〇釐乃三〇釐内外ニシテ民船ノ航行容易ナラザル處アリ。

3 洪村方下流金華固ニ於テハ岩石ニテ人工堰ヲ作りタル箇所ニ箇所アリタルモ該堰ハ決潰シアリテ航行ニ支障ナシ

4 商店下流水路屈曲ニシテ一〇〇米内外到底ニ岩石アリテ水深淺ク民船ノ航行危險ニシテ注意ヲ要ス。

四、兩岸地形ノ景況

本江地城ノ左岸ハ概ネ岳峻並ニ山岳地帯ヲ近クニ控ヘ又水路ノ兩岸共ニ起伏シ、雜林、桃、柏木、松、柳等所々ニ存在シ遠望利カザル箇所多シ。

尙平地ハ一般ニ水田ニシテ其ノ大部分ハ稻作ナルモ、藝島縣城上流地城ハ土質小砂ナル爲、耕作物ハ稻作、芋類、砂糖黍、桑園、果樹園等ヲ栽培ニシテ種多ナリ。兩岸ハ本年ノ大洪水ニ依リ所々浸蝕破壞セラレ斷崖トナリ河川ノ變化セシ處多カラズ、且又藝島縣城上流約一六軒ノ地點何宅附近ノ左岸ハ淤塞シ平地ト水路トノ境界明ナラザル處アリ。

五、夫々氣節ノ交感

本江ノ流域ハ一般ニ山岳地帯ニシテ急峻ナル地形ヲ成シ、肌石露出シ、土質ハ灰化赤土ナリ。尙平地ハ粘土質ニシテ降雨ニ對スル吸收力乏シ、且又該地城ハ南嶺山脈ニ依ル連山アリ、之ニ及ボス氣温、氣流等ノ關係上

原本不明瞭

降雨多モ比較的多数ナリ。故ニ降雨短チニシテ河川ニ及ボシ増水ヲ見。晴
天ニ至ラバ概木狀トナリ天候氣節ノ交際極メテ顯著ナリ。

1 橋 梁

東陽縣城下流約七軒何宅附近、江津市、佛堂鎮以上ノ三ヶ所ニ民船ニ依リ
架設セラル、浮橋アリ。(作廢ノ際ニ架設セシモノ)

江津市 船橋ノ状況



佛堂鎮 船橋ノ状況



2 渡 船 場

馬渡、鹿田市、上叶、溪口、馬橋方、洪村方、何壩

3 渡 船 場

本水ノ、渡船可能ノ距離〇ノ短アリ。該個所ハ水深二〇釐乃至三〇釐ノ外
ニシテ運期ノ水類ニ於テハ三釐ノ淺徒船可能ナル距離ヲ生ズ。

1 水 流

五月ハ後半可航ナル距離ノ水類ハ二〇釐乃至三〇釐ノ淺徒船可能ナル外
ノ計ニ在リテハ三釐ノ水類ニシテ運期ノ下流ハ比量ノ水類ニ在リ
ナリ

2 水 流

本水ハ一釐ニ在リ。六〇釐乃至一〇〇釐ノ外ニシテ中ノ運期ノ下流徒船可能ハ
六釐乃至一〇釐ノ外ノ僅所ニ在リ。且又運期ノ下流徒船可能ナル處アリ

3 水 流

本水ノ、水深ハ三釐ニ比シ。下流徒船可能ナル各所ニ在リ。水深ハ三釐乃至六〇
釐ノ外ノ僅所ニ在リ。且又運期ノ下流徒船可能ナル處アリ

米名無ナリ。

4 河川ノ状況

東海地方ヨリ東海方面ハ比叢地ニシテ土僅少ナリ。洪村方ヨリ
テ本江ハ多ク比叢多ク大洪水ニ依ル小礫石ノ流アリタルモノト思サ
ル。河川下流ニ礫石アリ。

5 河川ノ利便ノ状況

本江ニ在テハ河川利便ノ便ヲ認メズ。河川ハ一般ニ岳邊地多キ爲
メ、谷地ニ高ニ水墜ハ水墜ナルモノ、数ヶ所在リ、之ノ流水ヲ水
等ヲ利便ニテ灌溉利便シアリ。

6 河川ノ利便

東海地方ハ嶺口及嶺谷、谷鳥奔等ニ源ラズ、北方ニ流レ、
シテ其ノ源山岳地帯ヨリスルニ至テ共ニ水勢ヲ強ク、水ノ急ナル
形ヲ成ス。

ス。河川ハ比叢的水色濁弱、流速緩ニシテ河川區水急流ノ一大幹線タリ
シモ、不確ニ依ル洪水ノ急水ニモ其都度余量ナク變化セラレ、
テ急タスコト増タナリ。

比較的水急ニ變化ナキ急流ニ各郷民衆ヲシテ勤勞奉仕ヤシメ水急ノ整
造ヲサシムレバ航行船木舟易トナリ、中小民衆ニ依ル利便ニ貢
獻スルト夫ニ際シ住居ノ移転等進ラザリ宜トナラン現在小江ヲ利便
モ公認ナキ緊急ニハ水急ニ依リ河川交差ヲ計ルハ極メテ慎重ニシテ水急
ノ開拓ヲ必スラス。

(完)

原本不明瞭

一 可航舟艇下具ノ概況

(1) 可航船

本水陸ハ國給ヨリ金華ニ至ル間ノ約二五村ノ水路ニシテ河底ハ小礫石ヲ混
フル砂地ナルモ年々ノ増水ニ依リ河底ノ状況變化シ各所ニ淺瀬ヲ有シ民
ノ航行容易ナラス。獨江ニ比シ利用ノ價値稍少キモノト認ム。

(2) 可航舟艇

前述ノ如ク本水路ニ於ケル可航舟艇ハ一較ニ極メテ輕裝ニシテ河底扁平
シタル吃水淺キ民船或ハ竹筏ノ利用多シ、夏期減水時ニ在リテハ殆下中
型民船ノ航行困難ニシテ曳航又ハ水路作業等行ハサレバ該船ノ航行ヲ許サ
サルモ竹筏ハ四季ヲ越シ航行シ得

二 運營ノ場合ニ於ケル寄港地

國給縣城、石柱、金華縣城

(1) 國給縣城ニ就テ

國給縣城ハ川續線上金華一廣信ヲ結ブ重要ナル交通ノ要衝ニシテ亦獨江、

原本不明瞭

金華江、新安江、ヲ結ブ水運ノ中心地タリ。尙金華平野ヲ控ヘ農産物資ノ一大集散地トシテ最も重要ナリ。

(2) 金華縣城ニ就テ

金華縣城ハ浙贛線上最大ナル商業都市ニシテ水陸交通ノ一大據點タリ又附近農産物資並ニ煤石等ノ集散地トシテ重要ナリ。



金華縣城



金華街ニ極ム橋成築



地點港埠至立



三 漕運ノ程度

本水陸中間平陸ニ幾瀕ヲ生ジ夏期激水時ニ在リテハ民船ノ航行容易ナラズ金華西北右任嶺附近ニ在リテハ支流ヨリ流水スル土砂ノ爲約三〇〇米程度、幾瀕ナリテ水中漕運ヲナス航行上注意ヲ要ス。

附圖集 参照

本水陸ノ流域ハ金華大平野ヲ控ヘ一級ニ平地ニシテ中下流各所ニ樹木繁茂シアリテ逕率利カス亦民船ノ曳航困難ナリ。尙上流金華ニ至ル間ハ石岸ハ平地ニシテ民船ノ曳航容易ナリ。

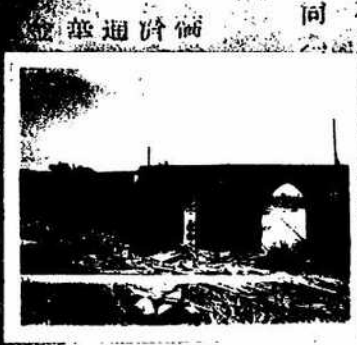
四 天候氣節ノ交感

本水陸ノ上流流域ハ一級ニ山岳地帯ナル肌石露出シ、土質尙ネ粘土ニシテ降雨ニ對スル吸收力ニメテ少ク爲ニ降雨ニ至ラバ忽チニシテ上流ヨリ激流シ來タリテ洪水トナリ晴天ニ至ラバ忽チ涸水シ旱天ニ至ラバ枯渴状態トナル、天候氣節ノ交感甚メテ大ナリ。

六 橋梁、渡船物、徒涉物ノ状況

(1) 橋梁

本水陸ニ架設サレタル橋梁ハ金華西北方五村ノ地點ニ鐵橋一個所アリ、石造ノ太威尙アリ、何レモ敵車ニ破壞サレ補修ヲ要ス取近(七月二十三日)ノ洪水ニ依リテ通濟橋補修箇所流失サレ通行不能ニ陥リ爲ニ下流百米ノ地點ニ新タナル單橋架設サレ在リ。



通濟橋

原本不明瞭
めくれず

(2) 種 能 物

船給、船承埠、石柱以、西浦（金華下流二村）

(3) 徒 涉 物

渡水期ハ均ル處徒涉可能ナル箇所ヲ生ズルモノナラン。

七 水深、河幅、水流幅、河底ノ状況

(1) 水 深

本水路ノ夏期平水時ニ於ケル水深状況ハ二〇福前後ノ段キ箇所至ル處ニ在リテ民船ノ航行容易ナラス以水甚ダシキ時ハ竹筏ノ航行モ容易ナラサル、状況ナリ。平水期ニ於テハ深キ箇所二米内外ナリ。

(2) 河 幅

本水路ノ河幅ハ平均二〇〇米内外ナルモ狭キ箇所一五〇米廣キ箇所ニ在リテハ三〇〇米以上アリ。

(8) 水 幅

本水路ハ河トハ石ノ砂土多ク、狭キ箇所ニ於ケル水流幅ハ一〇〇米内

八 河床ノ状況

本水路ノ河床ハ益々小礫石ヲ混フル砂土ナリ。

九 船 隻

本水路ノ平水ニ於テハ一般船隻利用ノ跡ヲ認めザルモ、夏流ニ於テハ船隻利用セシモノト考ス

十 航 路

本社ハ東勝江及武義江ノ兩江合流ニシテ一名金華江トシテ一大江ヲ形成シ、西北ニ流レ船給ニ出グ其ノ長サ約二十五村ニシテ本社ハ勝江ニ比シ連用便明大ナリ。然レ其水路一般ニ水深浅キニ失シ民船ノ江流谷物ナラサルモノ、如ク取前ハ民船ニ成ル物資ノ移出入ヲ計リタルモノニシテ該地特有船並ニ竹筏ヲ以テセバ運航可ナリ。本水路ハ我が占據地内唯一ノ水路ニシテ運輸方面ニ甚大ニ利便シ直ク計サズ。取少ノモノニテ最大ノ效果ヲ擧グベク歐州ヨリノ獲得物資ノ運搬ヲ計ル可ク歐州民船ニ依リ曳航又ハ船航セシメ一部水路開拓スベキ箇所ハ住民ヲシテ勤勞奉仕ニキシメ水路ノ整備ヲ行ハシム。同春汛期ノ比較的水量増ナル初ニ於テハ平水時不時ノ水害ナキ限り

原本不明瞭

めくれず

現地草摺等下ニ附屬組織シ運航統制ノ運営ヲ計レバ東陽江ト共ニ水陸ニ依
ル物資ノ移出入モ或ル程度確保利サラル。

調査方法

第六章

浦陽江（浦陽縣城ヨリ以北縣境ニ至ル間）水陸状況

浦陽縣城ヨリ民船ニテ下航シ其地調査ヲナシ其ノ左ノ如キ文
献ヲ参考トス

参考トセシ文献

- 生産會議報告書
- 浙江省法規集
- 浦江省政府公報
- 分属地誌浦江
- 建設廳報告書
- 浦江政治

原本不明瞭

一 町内航路

(1) 大小橋、小糸汽船 (十五町内外)

尖山町 | 姥公埠間航行可能

(2) 氏 船 (十五町内外)

尖山町 | 姥公埠間航行可能

(3) 小型民船 (壹町内外)

尖山町 | 諸賢縣城間航行可能

(4) 成

至江航行可能

(備考)

(1) 氏四廿六年迄ハ此市外兩至備ヨリ諸賢縣城間ニ渡浦・此諸二公司

ノ陸路ニ依ル小糸汽船航行ノ旅谷ノ運航ヲナシ居リタリ (分省現認
照ニ於ケル土産物運取利用統計表

原本不明瞭

| 品名 | 産量 | 移出数量 | 運搬機関 |
|----|---------|---------|----------|
| 米 | 一五二九〇〇石 | 六二九〇〇〇石 | 大牛氏船ニ依ル |
| 麥 | 二六六九石 | 四七七七石 | 〃 |
| 豆 | 一三九二五〇石 | 一七九二〇〇石 | 〃 |
| 并 | 一〇〇〇〇〇石 | 一七五〇〇〇石 | 汽船及民船ニ依ル |
| 并 | 一〇〇〇〇〇石 | 一〇〇〇〇〇石 | 〃 |
| 并 | 一〇〇〇〇〇石 | 一〇〇〇〇〇石 | 〃 |
| 并 | 一〇〇〇〇〇石 | 一〇〇〇〇〇石 | 〃 |

○産量移出数量ハ一ヶ年ノ数量ナリ(民國廿四年生産會議報告書)

参照

内浦江縣ニ産出ナス産物形(約三〇〇、〇〇〇本一俵(二一〇、〇〇〇市匁)ハ後ニテ浦陽江ヲ下リ杭州及寧波方面ニ輸出サレ居リタリ

ニ運營ノ場合ノ寄港地

尖山市、三河口、長浦埠、北公埠

周家埠、相家埠、浦陽縣城

京望縣城



尖山市ニ於ケル橋



三 運營ノ場合ノ寄港地

(1) 浦陽縣城下流三村地點「石利」並ニ六村地點「石利」ニ農田ニ引水ノ爲ニ設ケ

シ堰堤アリシモ現在石岸十分ヲ止ムルノミニテ航行ニ支障ナシ

(2) 將村下流四〇〇米ノ地點ニ橋脚アリ現在航行ニ支障ナキモ現在ヨリ増水シ

タル場合ハ任意ヲ要ス(該地水深一米)

(3) 浦陽縣城ヨリ出王間ハ至ル處ニ中州淺灘アリ(地質ハ泥土質ナリ)

四 兩岸地形ノ京況

兩岸ノ堤防ハ尚サ平均約三米地質ハ土砂ニシテ降雨期増水時ニアリテハ崩壊

原本不明瞭

容易ナリ現ニ其根跡多ク知ニ石岸地處甚タシク商家埠ニ於テハ目下決潰セル
 堤防ヲ補修工畢中ナリ
 丁ノ流激ハ吳山附近（左岸）ヲ除ク外殆ソド堤出ナリ、堤出ハ水面ヨリ約〇
 、四〇乃至〇、五〇低シ
 天候、氣即ノ交感

湖内ハ天候ニ依ル増減水ノ差甚シク約二日間猛雨續ケハ二米乃至三米増水
 時天三日間ニシテ二米乃至三米ノ激水ヲ見ル秋冬ハ著ルシク激水ス

（備考）諸賢縣ニ於ケル雨量統計（生産會議報告書参照）

| 年 | 月 | 雨量 每重 |
|-------|-----|----------|
| 民國22年 | 1月 | 72.6 |
| | 2月 | 145.9 |
| | 3月 | 123.4 |
| | 4月 | 159.2 |
| | 5月 | 182.9 |
| | 6月 | 462.8 |
| | 7月 | 83.3 |
| | 8月 | 122.1 |
| | 9月 | 307.7 |
| | 10月 | 37.1 |
| | 11月 | 54.7 |
| | 12月 | 70.4 |
| 民國23年 | 1月 | 70.6 |

六、橋、渡船場、徒涉場ノ状況

(1) 橋

(1) 諸賢縣城ト對岸ヲ結フニ湖橋アリタルモ現在橋脚

（石）三個所ヲ止ムルノミ（湖橋對岸ノ公路ハ諸
 賢縣城ヨリ湖橋頭ヲ經テ紹興縣城ニ至ル線ニテ作
 戦前眞鹽輸送ル―トトシテ軍要ナル役割ヲ果シ居
 リシモノナリ）



諸賢縣城ニ在ル湖橋

湖毛支埠ニ木橋アリタルモ現在湖側ニ橋脚（石）ヲ止ムルヲミ

湖「藤村」下流四〇〇米ノ地處ニ木橋アリタルモ橋脚（木）ヲ殘スノミ

（湖内）項ノ橋ハ食鹽收運處ノ建設ニヨルモノニテ余 湖地區ノ食鹽輸送ル
 一トニ使用サレ居リシモノナリ。

（二）「相家埠」ニ吊橋橋名同湖橋アリタルモ現在ナシ

湖「姚公埠」ニ浮橋アリタルモ五月ノ出水ノ爲破壞サレ現在湖側ニ橋ヲ連
 結セシ頭ヲ殘スノミ

(2) 渡 船 場

一、諸賢縣城ヨリ對岸（民船三隻使用）

原本不明瞭

- 一 相家埠ヨリ對岸（民船一隻使用）
- 一 江埠下流五〇〇米ノ地端ヨリ對岸（民船一隻使用）
- 一 周家埠ヨリ對岸（民船二隻使用）
- 一 姚公埠ヨリ對岸（民船二隻使用）

(3) 徒涉場

- 一 諸官縣城下流五〇米地點 水深〇、五〇米
- 一 周家埠下流 五〇米地點 水深〇、五〇米
- 一 汪王鎮前 水深〇、六〇米

(1) 水深、河幅、水流幅、河底狀況

一 諸官縣城ヨリ相家埠ニ至ル間ハ〇、五〇米ヨリ二米乃至三米

一 相家埠ヨリ長崗埠ニ至ル間ハ徒涉場（六ノ(8)参照）ヲ除ク外一米乃至四

米

(3) 長崗埠ヨリ尖山間ニ至ル間ハ二米ヨリ一〇米

(2) 河幅 諸官縣城 六〇米

相家埠 五〇米
姚公埠 四〇米
尖山市 七〇米

(8) 水流幅

長崗埠 三〇米
三江口附近 七〇米
尖山市附近 四〇米

(4) 河底

諸官縣城ヨリ長崗埠間土砂ニシテ河側ニ沈積作用ヲ見ル尖山市附近ハ泥土ナリ、水ノ増減ニ依リ河底狀況ハ著シク變化ス

八 灌溉利用狀況

浦陽江ノ利用は浦陽ヲ見ルニ交通ヨリ灌溉利用力遙カニ大ナルモノト思考ス
全江至ル處迄防下ニ水門ヲ設ケ水ヲ引キ灌溉ニ利用シツ、アリ、周家埠石堤ニ於ケル灌溉利用狀況ヲ見ルニ是防ノ下部ニ堅道ヲ設ケ堅道ノ兩面ニ木製ノ壘半ナルアリアリ、防ノ下ニ直径約四〇米ノ貯水池アリ之ヨリ幅約三米ノツリ山龍

ノ題ス

原本不明瞭

めくれず

六對 東

浦陽江水利委員會ノ組織

(1) 理由

浦陽江ハ交通海峽ノ兩面ヨリ考察スルニ流域ニ在ル紹興、蘭山、諸暨、浦江各縣民ノ受クル恩惠ハ多大ナルモノアリ、併シ江ノ流域ニアル山岳ニハ殆ソ下流木ナク加ラレニ河床淺ク降雨ニ依ル水位ノ増減甚タシク故ニ江ノ補修ヲ慮レバ共ヘル恩惠ハ強減セラルノミナラス反對ニ損害ヲ與ヘ無用ノ河川トナル虞アリ

民國二十三年浦陽江縣長ノ提案ニ依リ浦陽江改修委員會組織サレル迄ハ毎年必ス水患ナカリシ模様ナリ

民國二十七年（昭和十三年）前記委員會解散シ新ニ修築浦陽江提埝工程委員會組織サレ江ノ水害ヲナシツ、アリタルモ諸暨縣上流ニ限ラレ下流ハ放置シテアリタル模様ナリ故ニ今次大出水ニ依ル被害モ下流地區特に甚タシキモノナリ

浦陽江ヲ現在ノ位置置シ兼用一復案ラバ流域ノ肥沃ナル農田ハ一朝ニシテ

水トシテスハ今次出水ヲ見テモ明ラカナリ故ニ補修ヲナス事ハ肥次ナル農産物ノ確保ト共ニ多年水患ニ苦シミツ、アリシ流域住民ニ對スル最大ノ宜無ニナル又交通固ヨリ見ルニ過去ニ於テハ蘇州ヨリ諸暨縣城迄小蒸汽船航行シ實各ノ地獄ナシ居リタルモ現在ハ出水ニ依ル河床ノ變化ニ依リ増水期ニ於テモ航行區間ハ杭州！長興間ナリ今後浦陽江ヲ活用セントセハ較小限成諸暨縣城迄小蒸汽船航行出來得ル様態ヲ改良ナス必要アリ故ニ早急ニ浦陽江水利委員會ヲ組織シ江ノ改修ヲサネバナラヌ

(2) 組織案

(1) 委員會ノ構成

國民政府水利委員會、浙江省建設廳、浦江、諸暨、蘭山、紹興各縣政府、華中鐵道、民船公會、愛路區、石ヨリ各々代表一名ヲ選出シ構成ス（委員ハ無給トス）

○ 華中鐵道ヲ委員ニセシ理由

（將來）鐵路ヲ華中鐵道力經營スルモノト豫想シ其ノ場合鐵路ハ浦陽江ニ沿ヒ敷設シアリ故ニ水患ノ際鐵路ノ受クル被害較モ大ナルニ依

原本不明瞭

めくれず

加

改築經費ノ抽出案
 改築經費ハ國民政府水利委員曾並ニ浙江省建設廳ニテ大牛負擔シ殘余ヲ
 華中政道ニテ負擔ス
 作戰則ニ於ケル浦陽江是境委員曾ノ經營ハ浙贛鐵路局、其鹽收運處ニテ
 負擔シオリタリ
 (イ) 勞力ハ江ノ流域ニ愛路區ヲ編成シ任民ノ勤勞奉仕ニヨル
 (ニ) 着手事項
 (A) 是防ノ補強並ニ改築
 (B) 防ノ増設並ニ貯水池ヲ設ケ水位ノ調節ヲ圖ル
 (C) 溝道ノ浚深 (現在ノ狀態ニテハ至ル處ニ中州アリ舟艇ニ支障アルニ付
 江ノ中央部ニ溝道 (水深二米幅六米) ヲ浚深シ舟艇ヲ便
 ナラシム)

第五章 浦江水路狀況

一 浦江ノ概要

浦江ハ一名上流亦又ハ信江トモ稱シ源ヲ玉山縣後玉山ニ發シ玉山廣信河口
 域面積六萬方里河長八〇〇里 (支那里)
 其ナル支流ハ廣信縣城附近ニテ合スル水區洪都山縣河口鎮ニテ合スル鉛山水
 弋陽縣城東用約四村ノ地帯ニテ合スル宋溪余江縣城ニテ合スル白枯水資溪ア
 リ
 浦江ハ山地ヲ流ル河川ノ特徵タル降雨ニ依ル水位ノ増減甚タシク江西省中比
 較的交遊路トシテノ利用價值頗キ河川ナリ
 可航舟艇ト兵ノ區域
 (1) 小汽船、二〇噸内外
 江口ヨリ余江縣城間 (約七五村) 航行可能ナリ
 (二) 兩岸階浴前南昌余江間ニ兩岸保有限公司所有能保利、保長號二隻ノ小
 汽船航航シ貨客ヲ運搬ヲナス

原本不明瞭

貴縣縣城天候氣節統計表 (江西統計月刊) 民國二十九年

| | | 一月六月 | |
|-------------|--------|------|-------|
| 天 氣 | 晴日數 | 9 | 10 |
| | 晴日數 | 8 | 6 |
| | 曇日數 | 4 | |
| | 雨日數 | 10 | 15 |
| 雨 | 總量(ミリ) | 83.9 | 216.2 |
| | 一日最大量 | 24.4 | 41.8 |
| | 日期 | 15 | 27 |
| 蒸 發 度 | 總量(ミリ) | 36.4 | 100.7 |
| | 相對(%) | 82.0 | 80.4 |
| 風 | 最大風向 | 東 | 東南 |
| | 平均風力 | 3.1 | 2.82 |
| 溫 度 | 平均% | 8.8 | 27.3 |
| | 最高 | 22.4 | 34.4 |
| | 最低 | 4.2 | 16.4 |
| 雲量(0-10) | | 5.5 | 7.6 |
| 日照時數 | | — | — |
| 雜 項 | 雪 | 2 | |
| | 霜 | 7 | — |
| | 霧 | 1 | |

(1) 橋梁、渡船、徒涉場ノ狀況

公路完成以前ハ全江ヲ通シ橋梁ハ殆ト無キ狀態ナリシモ公路完成後主要渡河船ニ備テ建設セリ(建設ハ總テ早ニテナス)橋ハ總テ民船ヲ使用セシ浮

(2) ヤンミ江口ヨリ貴縣縣城間(一二五村)航行可能ナリ

(3) 玉山縣上流ヲ除キ全江通船ス
運營ノ場合ノ奇港地
玉山、廣信、廣寧、鉛山、河口鎮、橫峰、弋陽、貴溪、餘江、各縣城鎮

四章 險阻度
玉山縣城三里街ニ養魚ノ局設ケシ石堰アリ民船ノ上流シアリ其ノ他不明
兩岸地形ノ概况
廣信丁五東湖間ハ兩岸概シテ山地ニシテ堤防高低二三、三米ナリ其ノ他不明



廣信縣城ニ於ケル民船

原本不明瞭
めくれず

廣信縣城、玉山縣城附近ノ浮橋ハ敵退却ノ際破壞セリ土民ヨリ總取並ニ資料ニ依ル浮橋ノ構造(附圖一)

(2) 渡 船 場

各部落毎ニ對岸へ渡船用民船ニハ江山船ヲ使用ス

(3) 徒 歩 場

廣信縣城附近ニ於テハ塘米灘、玉山縣城三里街上流ニハ至ル處ニ在リ

ハ水環、河浦、水流幅、河底狀況

(1) 水 深

廣信縣城ニ於テ二米内外

廣信縣城上流四軒地點ニテ一米内外

玉山縣城三里街ニテ一米乃至三米

玉山縣城七里街ニテ〇、六〇乃至二米

廣信縣城(江西統計月刊)民國二十九年

一月最高二、七四 最低一、八四 平均二、〇六
六月最高六、八四 最低二、二二 平均三、三四

廣信縣城附近ニ於テ一〇〇米乃至一五〇米

玉山縣城附近ニ於テ七〇米乃至一〇〇米

(1) 河 底

廣信縣城附近ノ河底ハ砂礫

玉山縣城附近ノ河底ハ徒歩地點ニ於テハ小石、養魚地域ニ於テハ泥土ナリ

(4) 流 速

廣信縣城ニ於テ

平水時 約一米内外

増水時 約二米乃至四米内外ニ達ス

灌溉利用状況

廣信縣城附近ニ於テハ一ヶ所水車ニ依ル灌溉利用ヲ見ルニ過ギス

(水車ニ依ル積米場ハ三ヶ所アリ)

1. 交通

甯江ハ鐵道公路完成前ハ隊以道ニ於ケル唯一ノ交通路トシテ利用サレ該地方

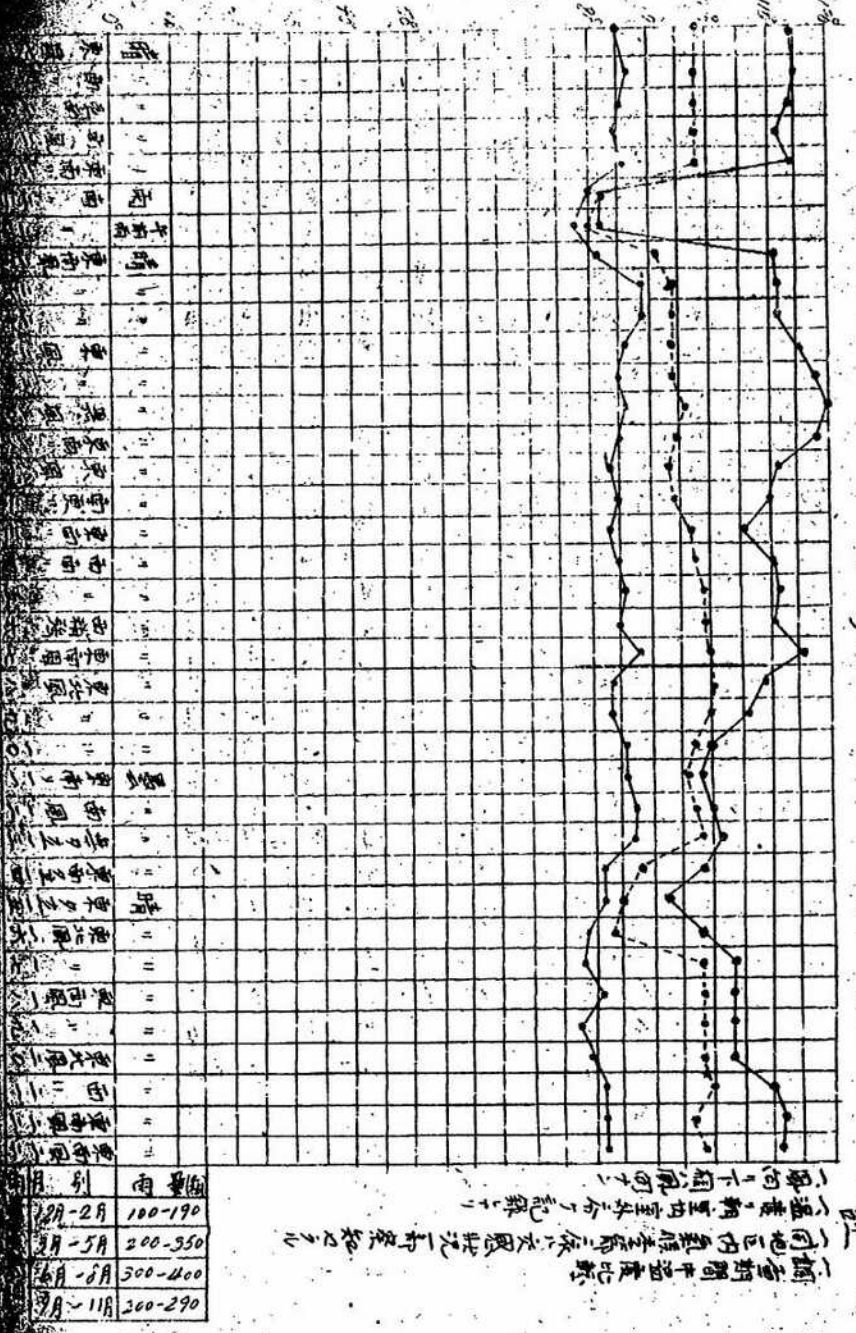
原本不明瞭

めくれず

ニ於ケル管部用ハ歸江流域ニ設テシタルモ鐵道、公路完備雖ハ歸江ノ交通路
 利用價値ハ益收的ヨリ見テ漸次低下シ僅カニ運賃低廉ヲ求メ僅リ不急貨物ノ
 輸送並ニ土産品ノ周部輸送ニ利用サレツ、アリシモ支那事務物發後車需品輸
 送ノ増加並ニ海岸線封鎖強化ニ伴ヒ燃料補給困難ニ依リ自動車運轉力増サ
 レ其ノ他補々ナル事情ニ依リ水運ハ以前ニ増シ利用サレシ模様ナリ
 江西省ニ於ケル河川交通ハ江西省緯度管理處ノ統制下ニ在リ運航民船（魚
 民）民船ヲ除クハ餘テ該處ニ登録サレアリタリ軍ニ於テ輸送ノ爲民船ノ必
 要ナル場合車ヨリ轉運管理處ニ必要費徴ノ集積ヲ命シ來ル、該處ハ直ニ各運
 轉公司ニ物資ヲ強制的ニ集積ヲ命シメ輸送ヲ命シ備前科等其人、他一切決濟
 ハ該處ニ於テナシオキタル模様ナリ
 二歸シタル場合ノ歸江ノ役割ヲ考察ナス場合上流ヨリ余江ニ至ル間鐵道
 公路ト併行シアル故交通路トシテハ鐵道ノ培養的役割ヲナス局部的輸送ヲ受
 持ツヨリ他ニ途ナキモノト思考ス

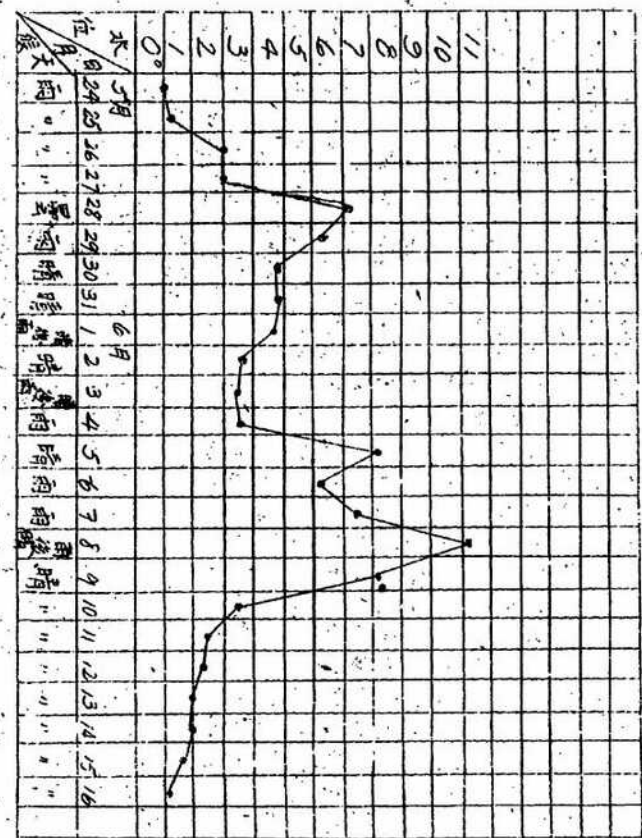
(完)

金華鐵道附近雨量調査表



原本不明瞭

蘭 雜 碼頭 水量測定表

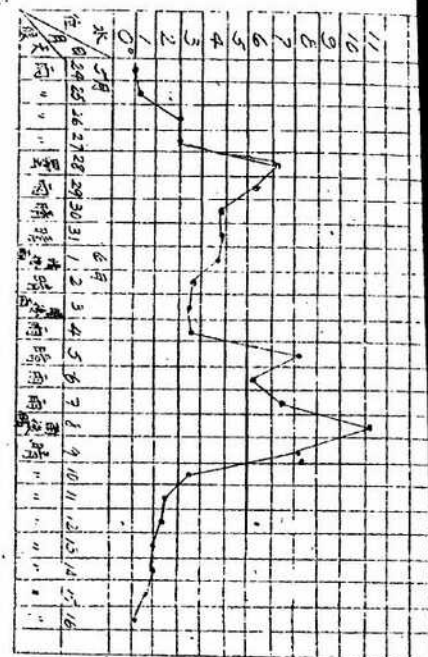
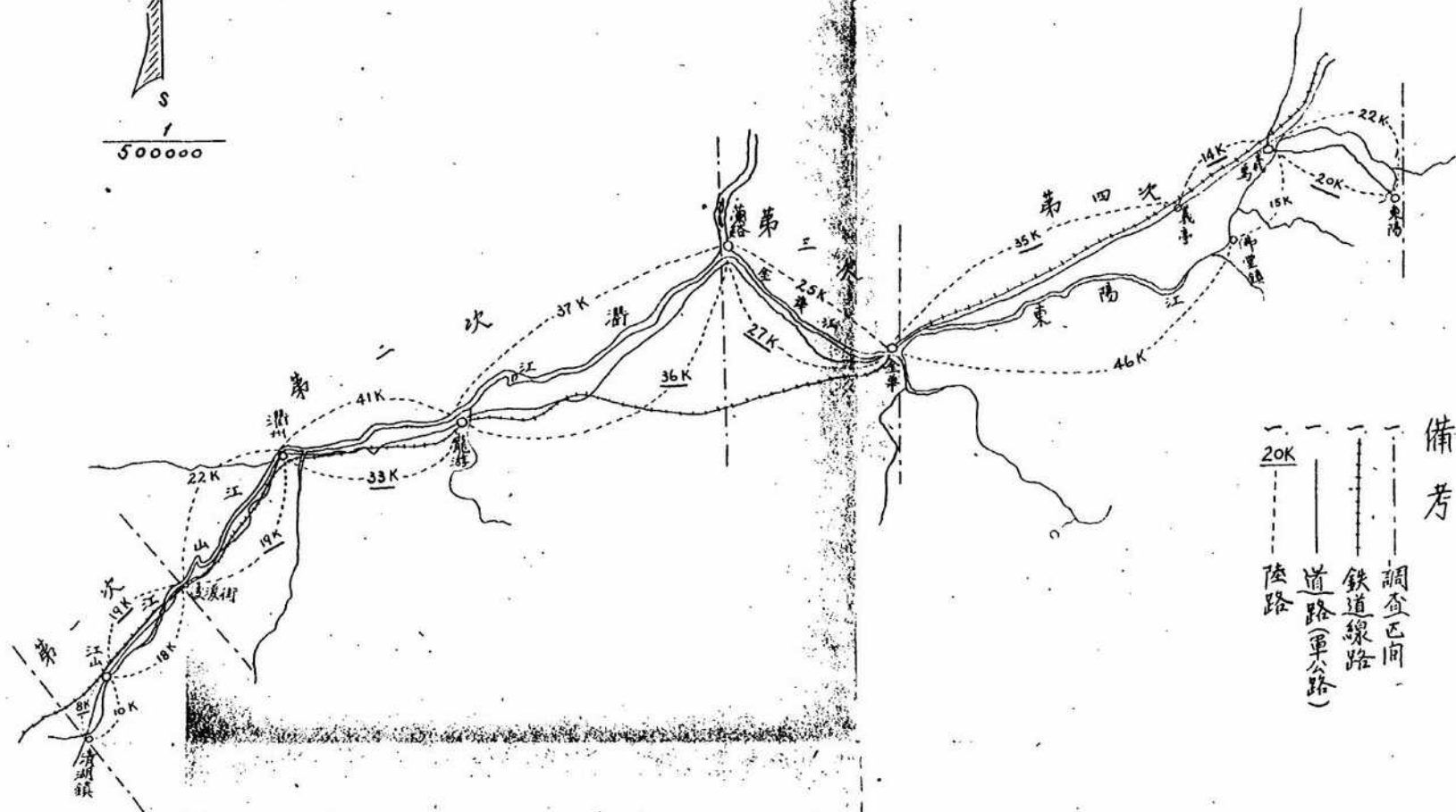
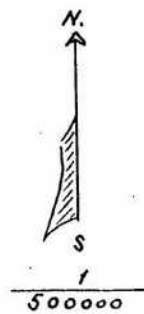


考 六本刺量定公園鐵船團測定セキナリ
 備 五月二十五日水量二西米+假定ス

1 : 3 2



調查地域畧圖 自 17.7.27
至 17.8.25



海山江の調査結果
海山江の調査結果

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

附圖第三
江小港(青湖鎮)後溪街間
水路調査圖

1 : 25

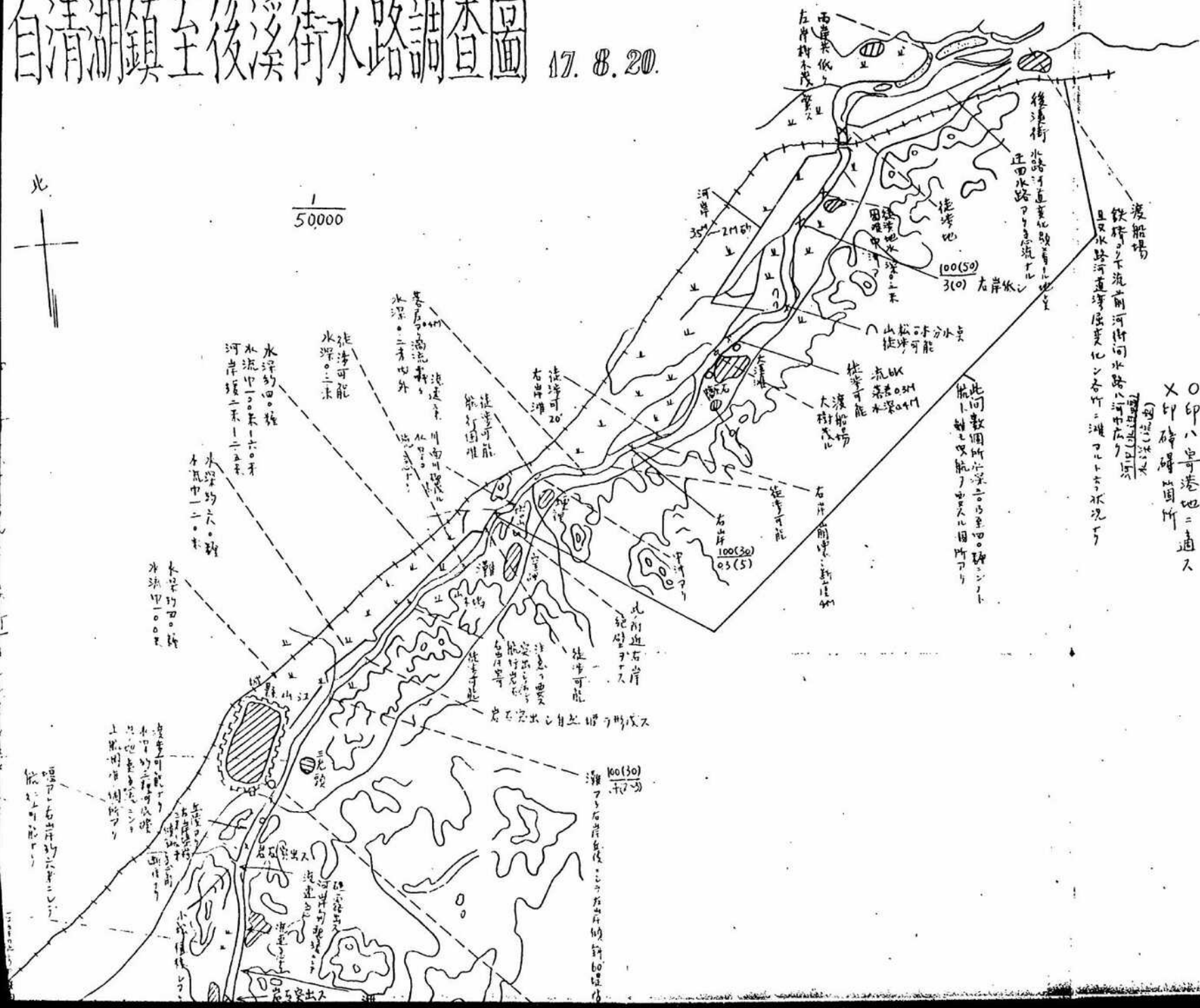
1 : 3 2



自清湖鎮至後溪街水路調查圖 17. 8. 20.



1/50000



渡船場
 鐵路、下流前河街河水路、
 且又水路河運運量變化、各河、
 水、

(備考)

○ 印ハ寄港地ニ通ス
 × 印 碍礙箇所

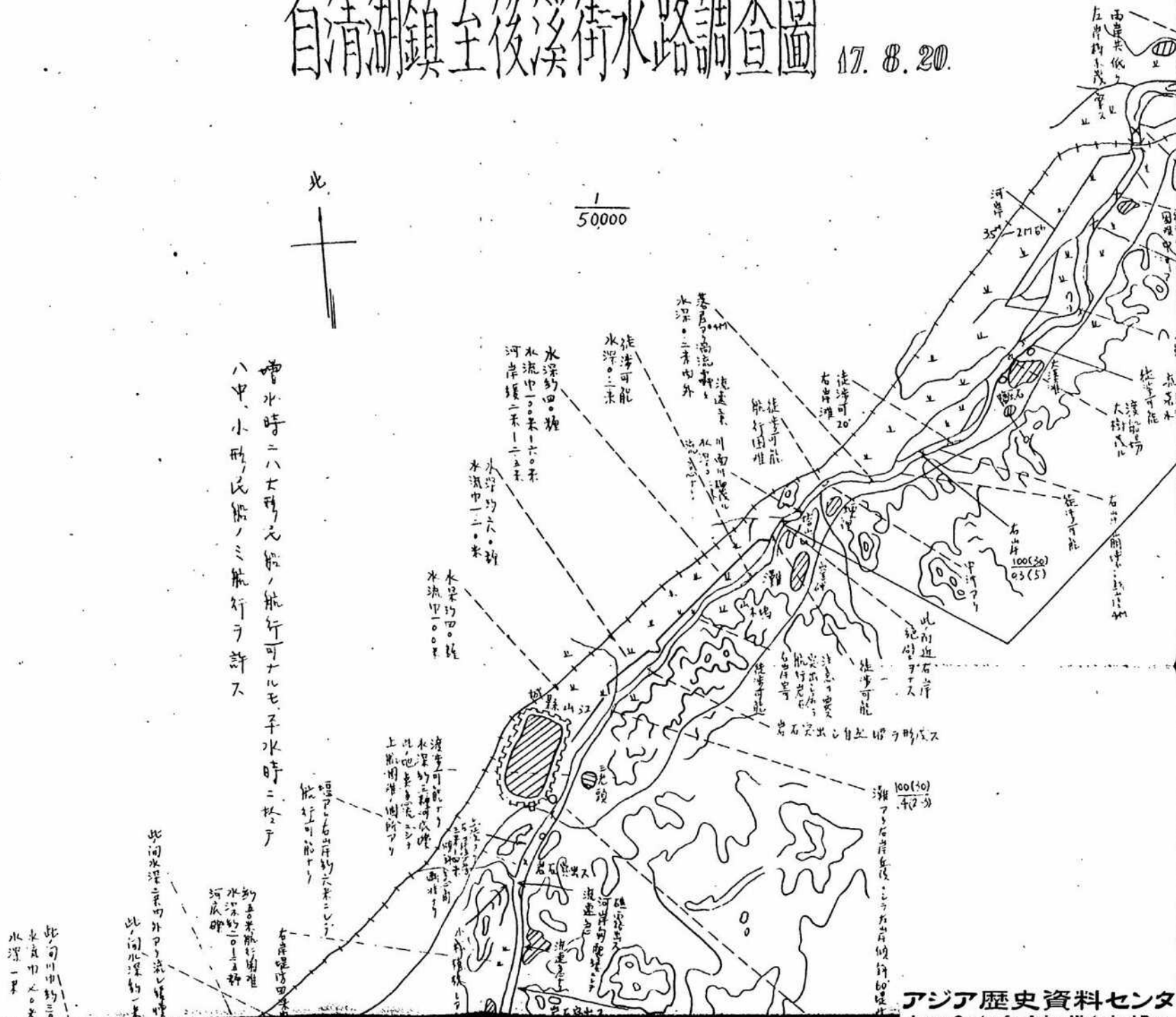
此同敷圖所示、
 航路、
 航路、

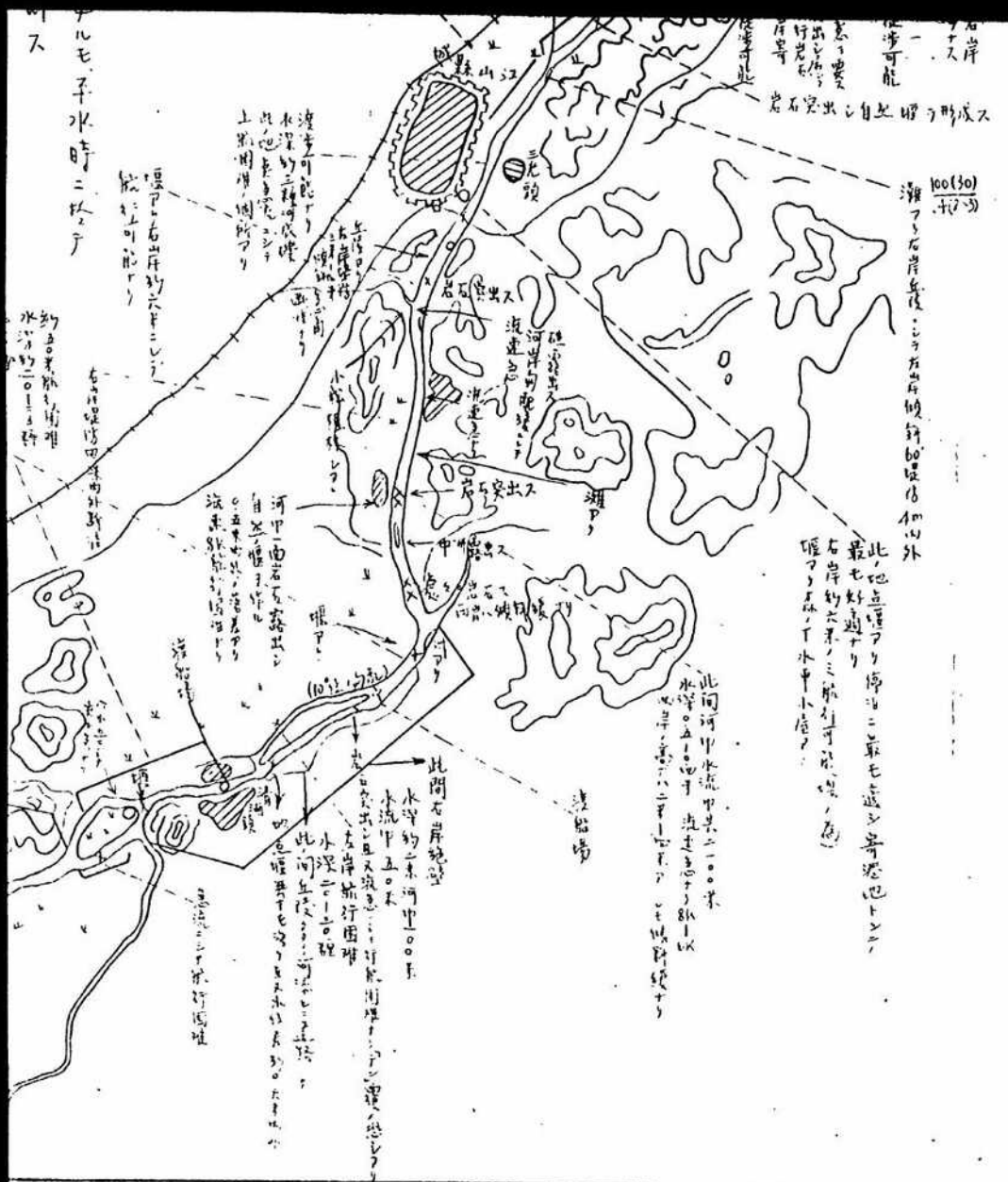
自清湖鎮至後溪街水路調查圖 17. 8. 20.



1/50000

増水時ニハ大形ノ汽船ノ航行可ナルモ、干水時ニ於テハ中、小形ノ汽船ノミ航行ヲ許ス





石岸
水深可能
行光
岸等
自然
形成

100(30)
+12

此地
水深
約二
米
水深
約二
米
水深
約二
米

此間
石岸
絶壁
水深
約二
米
水深
約二
米

此
河
川
中
流

水
深
約
二
米

水
深
約
二
米

水
深
約
二
米

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

附圖第三
後溪街至船廠水路調查圖

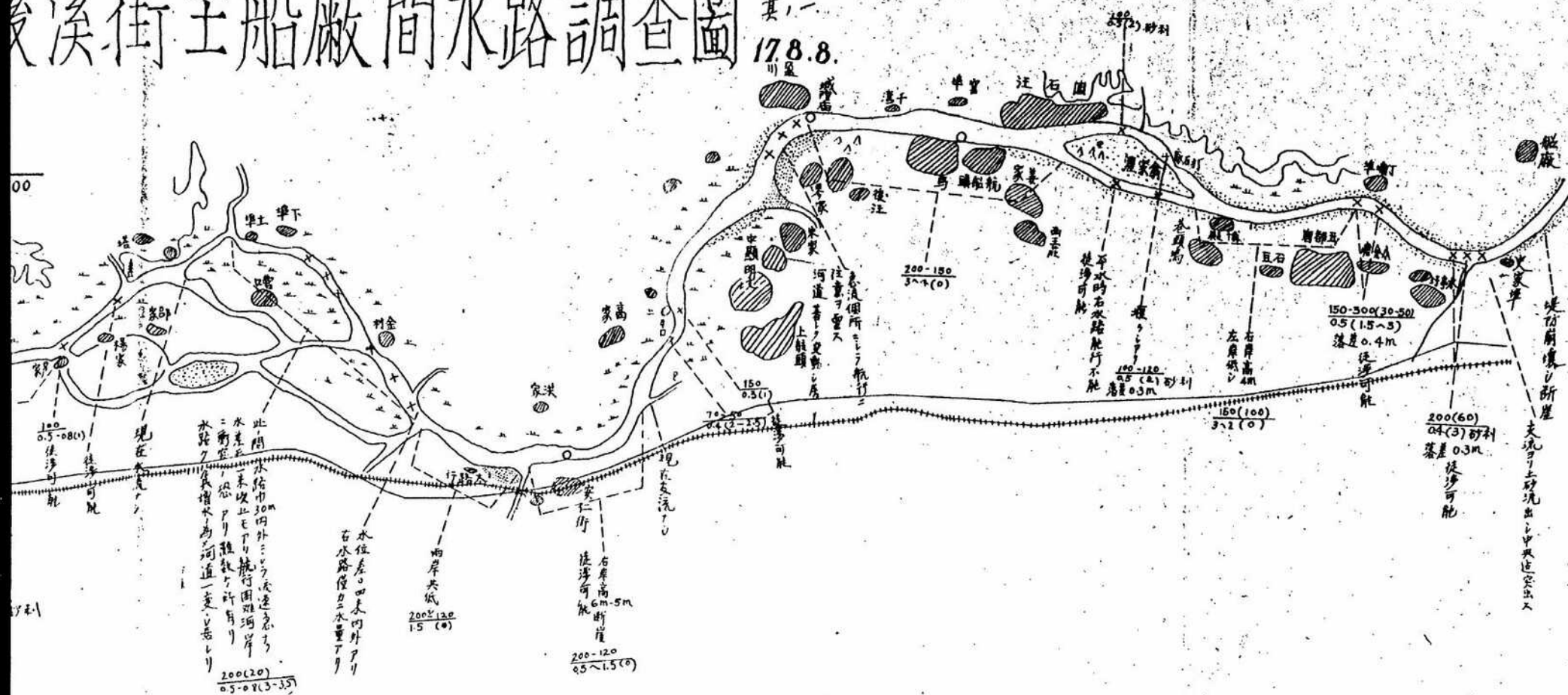
1 : 25

1 : 3 2



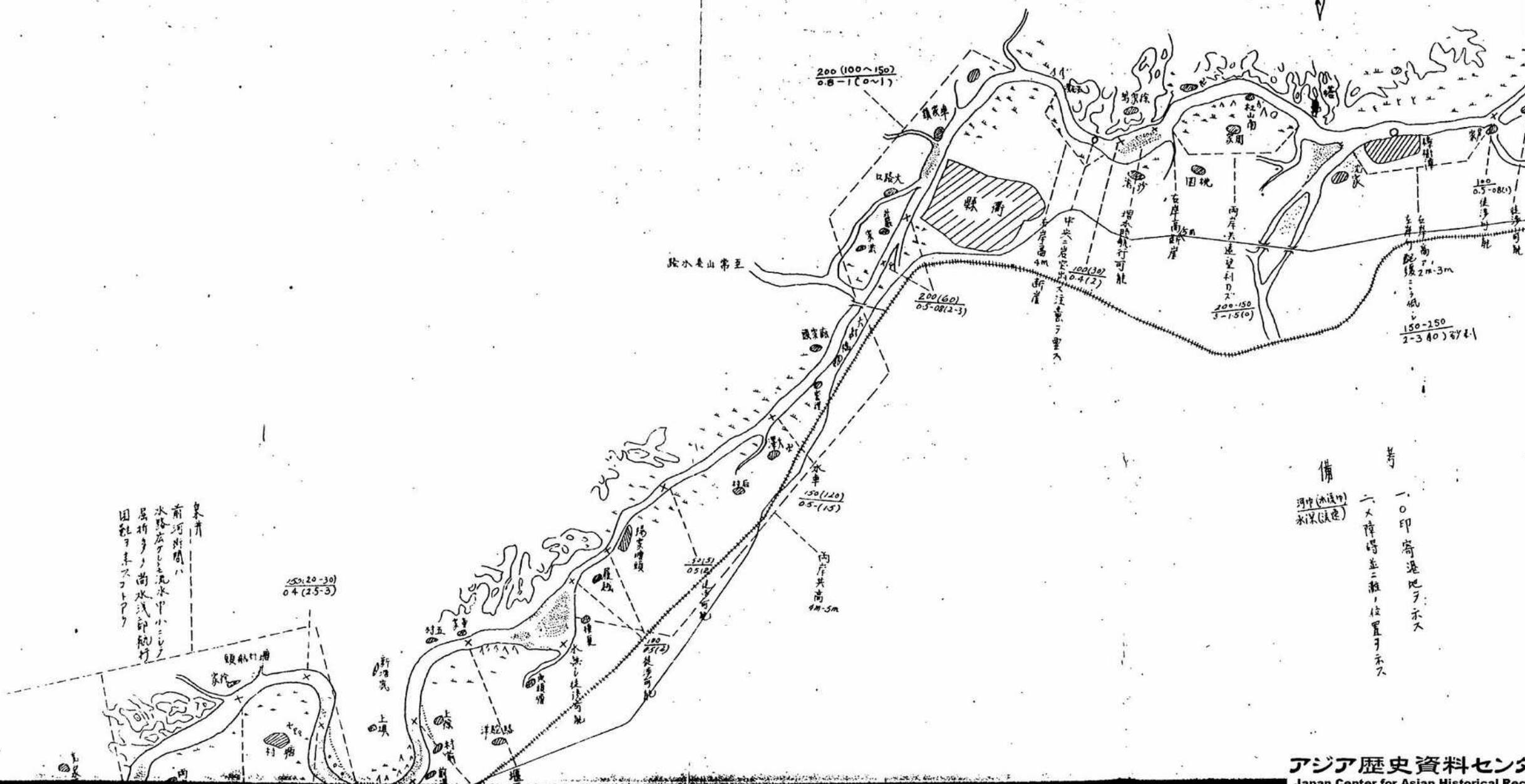
後溪街至船廠間水路調査圖

其ノ一
178.8.



溪後白

1
50,000



東青
前河街間ハ
水路広クシ流中少シニシテ
層折多ク尚水浅即航行
困難ヲ来スコトナク

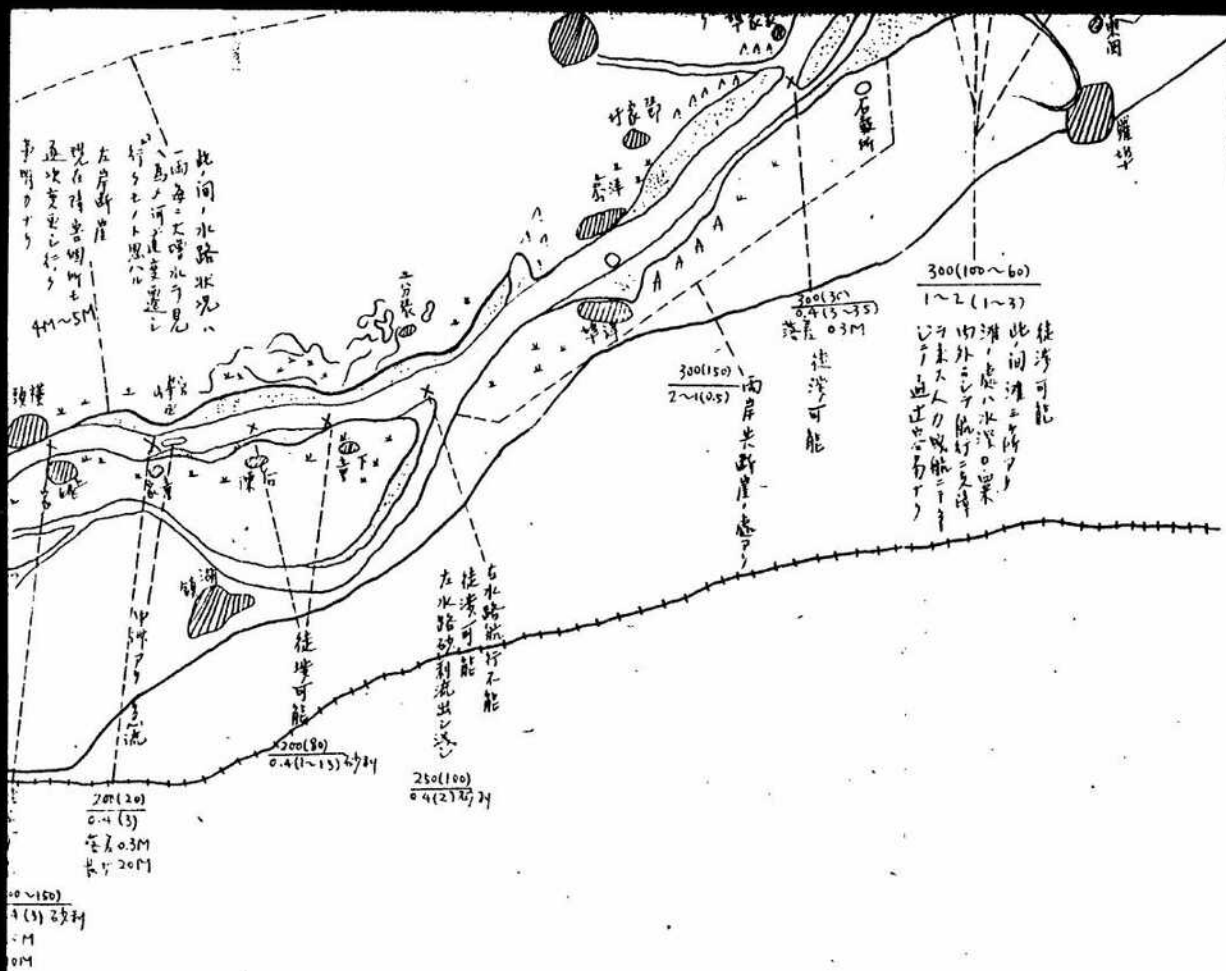
備
河川(水没時)
水深(流速)
一〇印寄港地ヲ示ス
一六障得並ニ難ク位置ヲ示ス

一〇印寄港地ヲ示ス

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

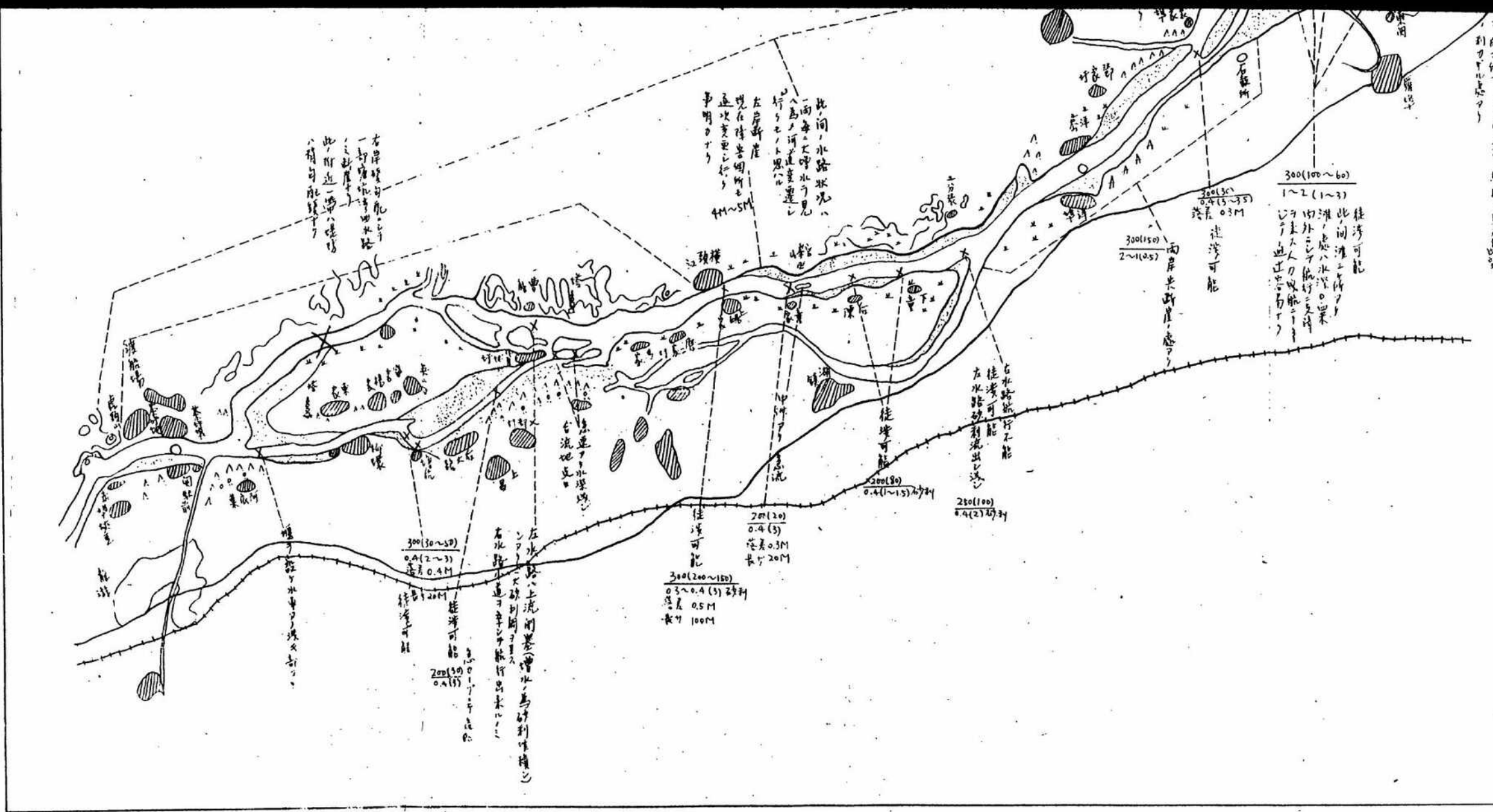
附圖第四
湘江(船廠—
蘭溪間)水路
調查圖

1 : 25



此岸ハ勾配緩シク下流ニ碇掛、新崖
 ナリ、成テ所アリ、且、岸並ニ不
 均、碇掛シ、且、ノ、
 利ナリトモヤ

左岸、断崖
 ナリ、細心ノ注意ヲ要ス



右岸ハ水路ハ
 一部水路ハ水路
 此附近一帶ハ水路
 ハ航行不能ナリ

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

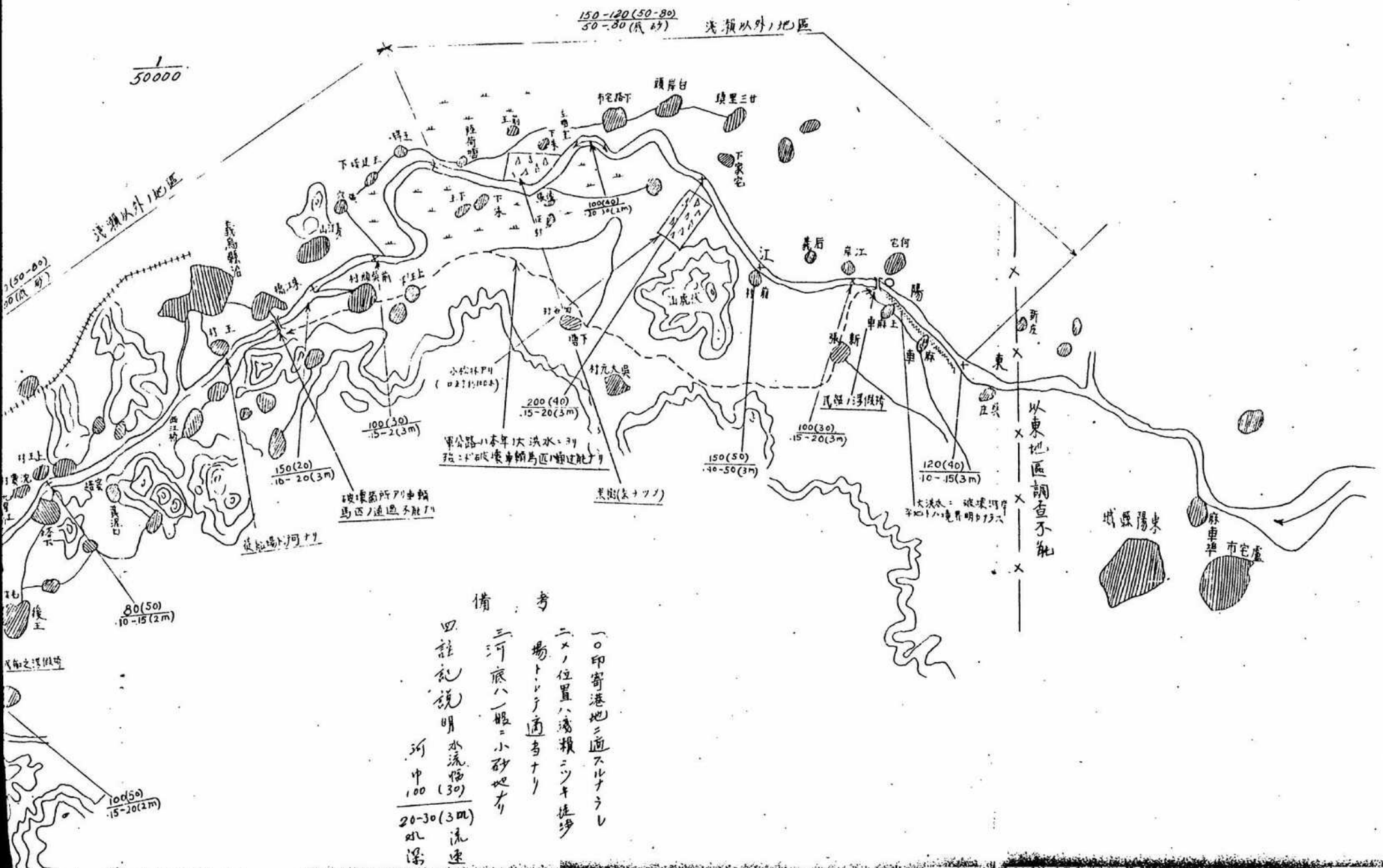
附圖
附圖之
東陽江(東陽縣城)
佛堂鎮間
水路調查圖

1 : 25

1 : 32



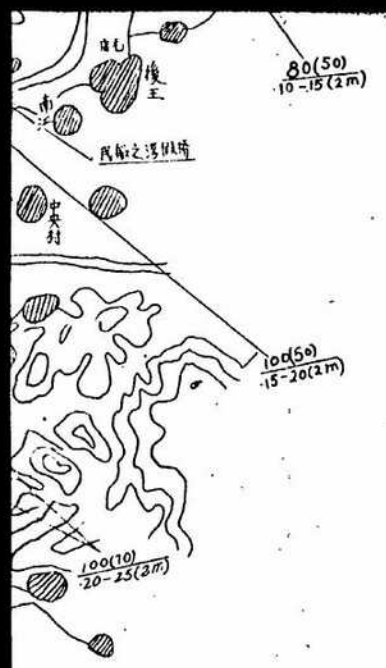
東陽江 自東陽縣城至佛堂鎮水路調查圖 17.8.18~20



東陽江 自東陽縣城至佛堂鎮水路調查

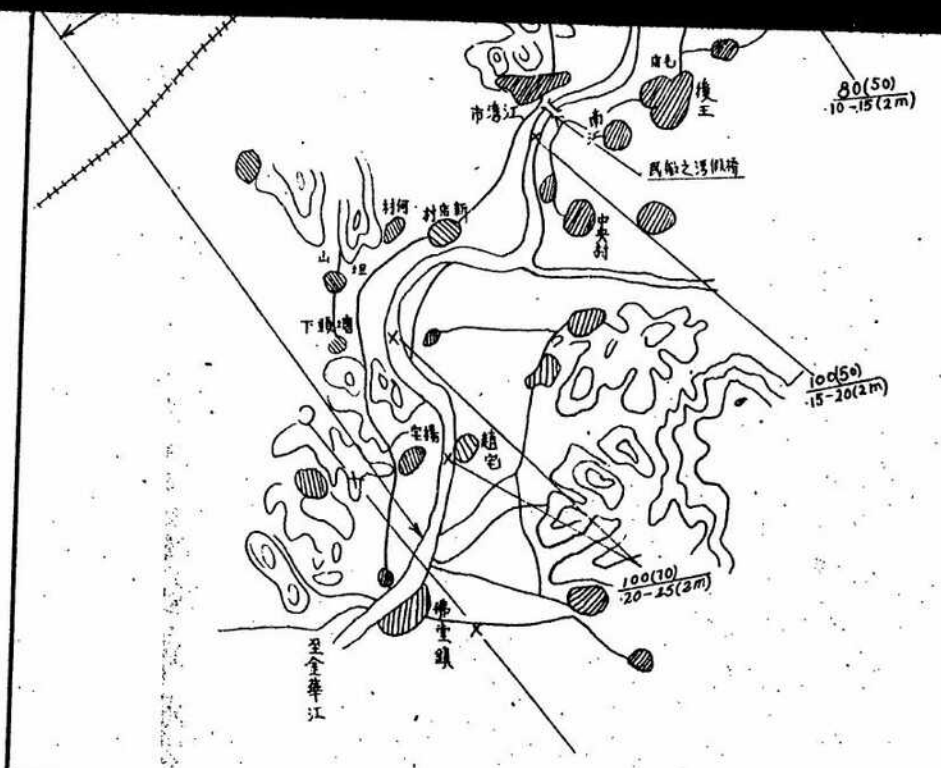


備考
 一〇印寄港地ニ適スルナラレ
 ニメノ位置ハ瀋瀨ニツキ注サ
 場トレテ適者ナリ
 三河底ハ一畝ニ小砂地ナリ
 四註記説明 水流極速
 河 中 100 (30)
 水深 20-30 (3m) 流速



備考
 一〇印寄港地ニ適スルナラレ
 ニメノ位置ハ濤瀬ニツキテ歩
 場トレテ適者ナリ
 三河底ハ一眼ニ小砂地ナリ
 四註記説明
 水流幅(30)
 水深
 20-30(3m)
 水深





備考
 一〇印寄港地ニ通スルナラレ
 ニメノ位置ハ淺瀬ニシテ泥沙
 場トシテ適者ナリ
 三河底ハ一般ニ小砂地ナリ

河註記説明
 水流幅 100(30)
 水深 20-30(3m)
 流速

m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

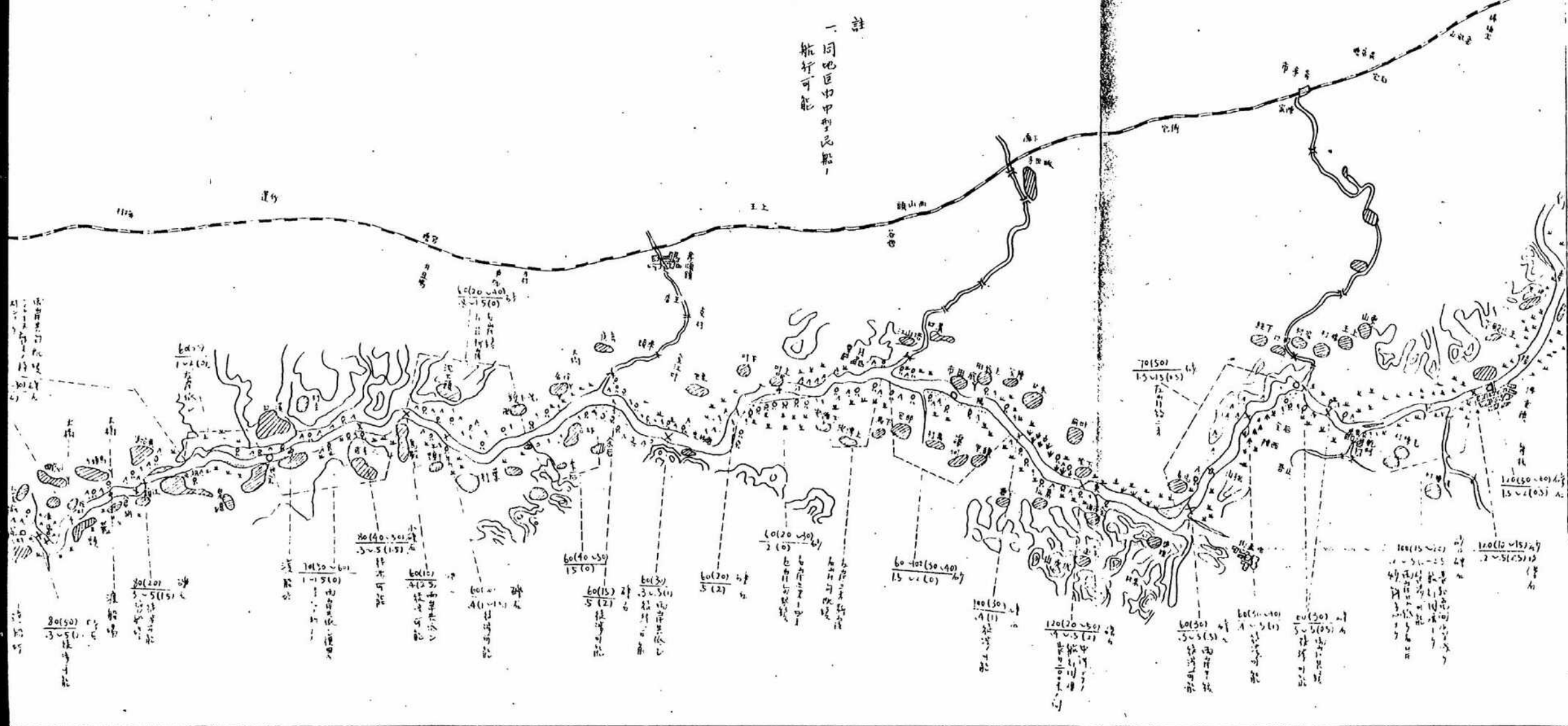
附圖第六東陽江(金華)佛堂鎮間水路調查圖

1 : 25

1 : 3 2



白金華至佛堂鎮間水路調查圖 17. 8. 20.

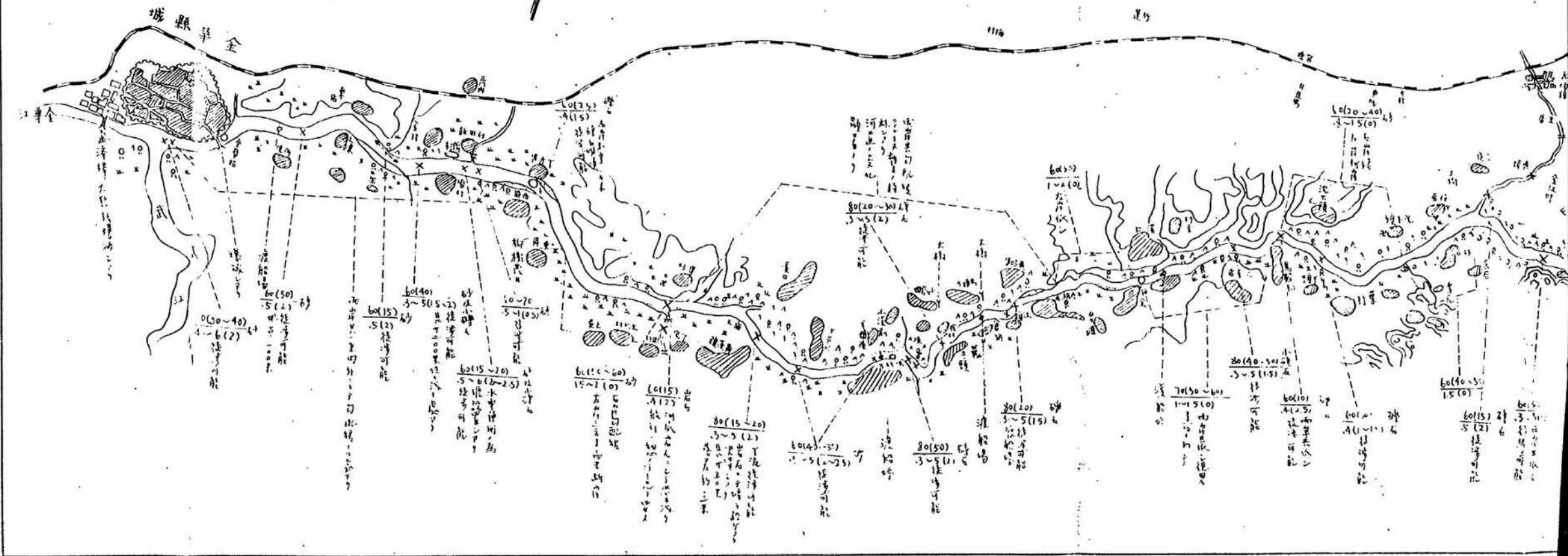


自金華至佛堂鎮間水路調查圖 17. 8. 20.

- 備考
- 一 ○ 印 寄港地ヲ示ス
 - 二 × 印 障礙並ニ灘ノ位置ヲ示ス
 - 三 河幅 (尺法) 水深 (尺法)



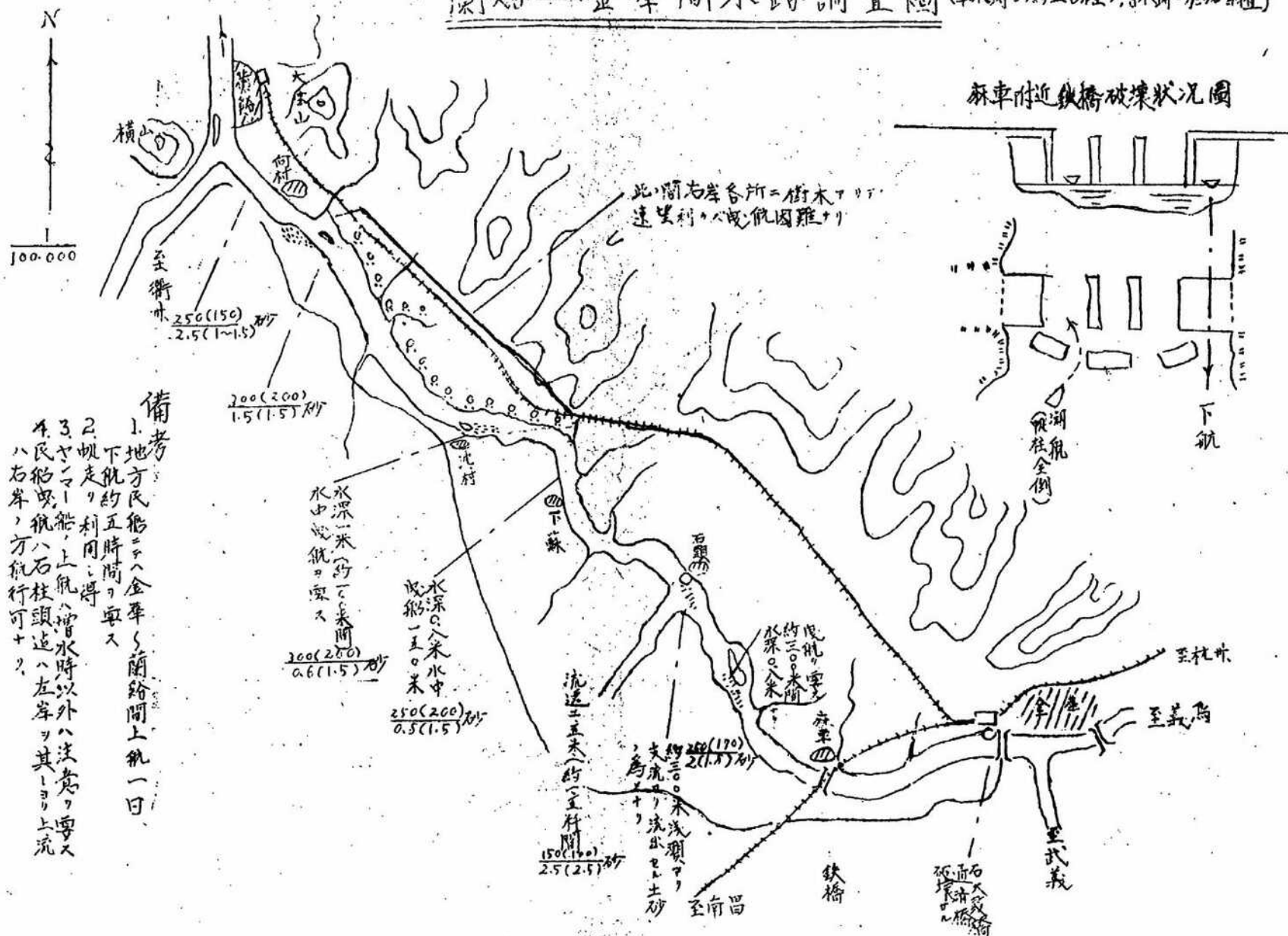
1
50000



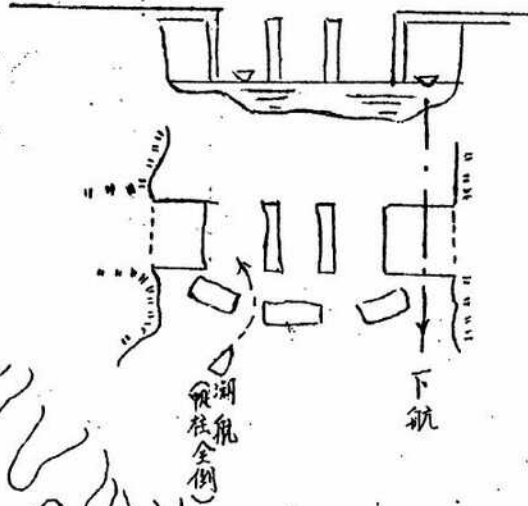


蘭谿—金華間水路調査圖 (平水時約五〇哩、増水時約九〇哩)

第七金華江蘭谿—金華間水路調査圖



蘇州附近鐵橋破壞狀況圖



- 備考
1. 地方民船至金華蘭谿間上航一日
 2. 帆走約五時間可通ス
 3. ヤマシ船、上航、増水時以外ハ注意ヲ要ス
 4. 民船、航ハ石壁頭迄ハ左岸ヲ其ノヨリ上流ハ右岸、方航行可ナリ

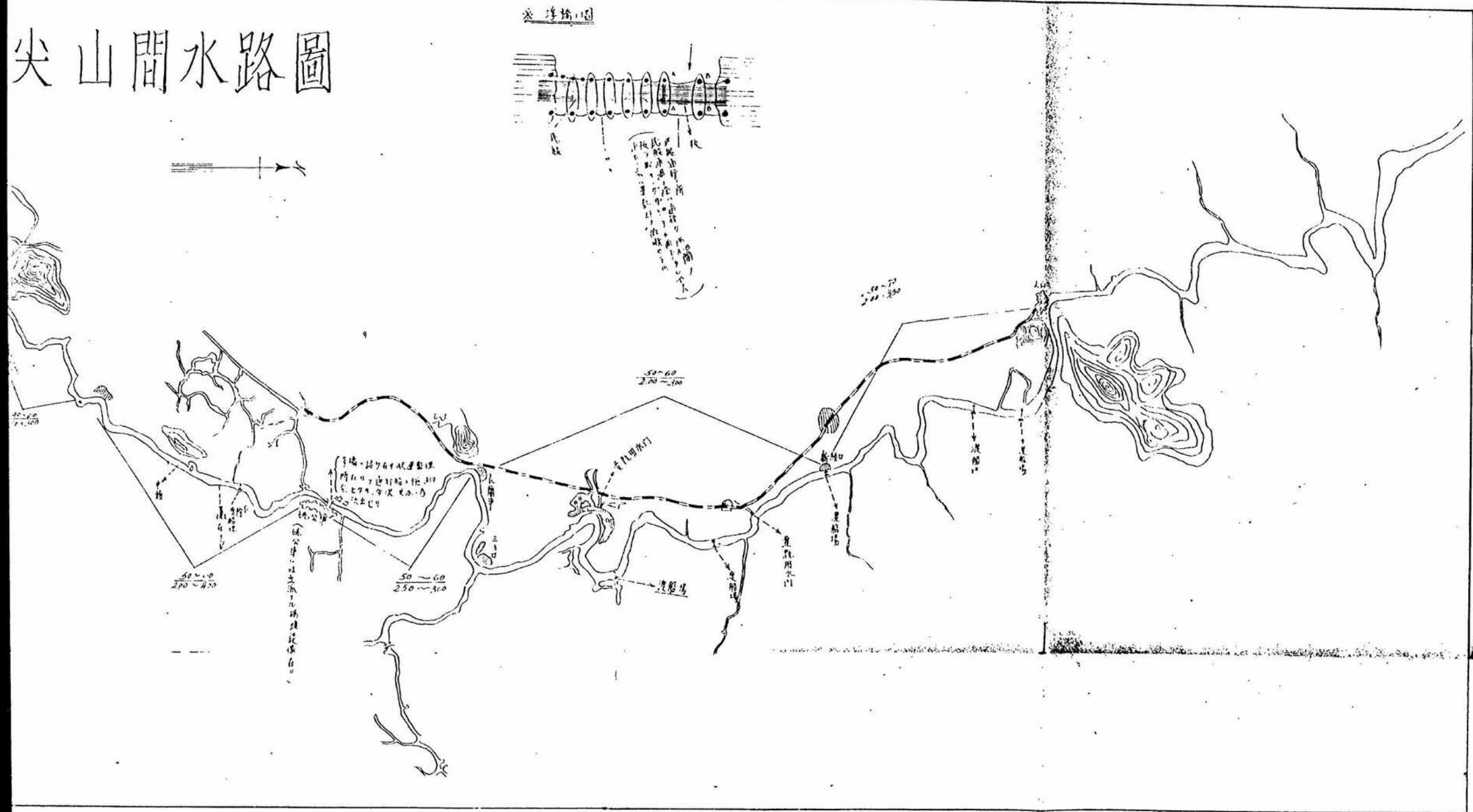
裏面白紙

1 : 25

附圖
第一
浦陽江
諸隘
一夫
山間
水陸
通商

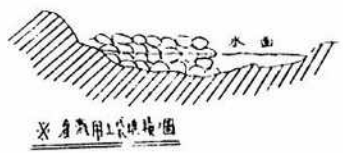
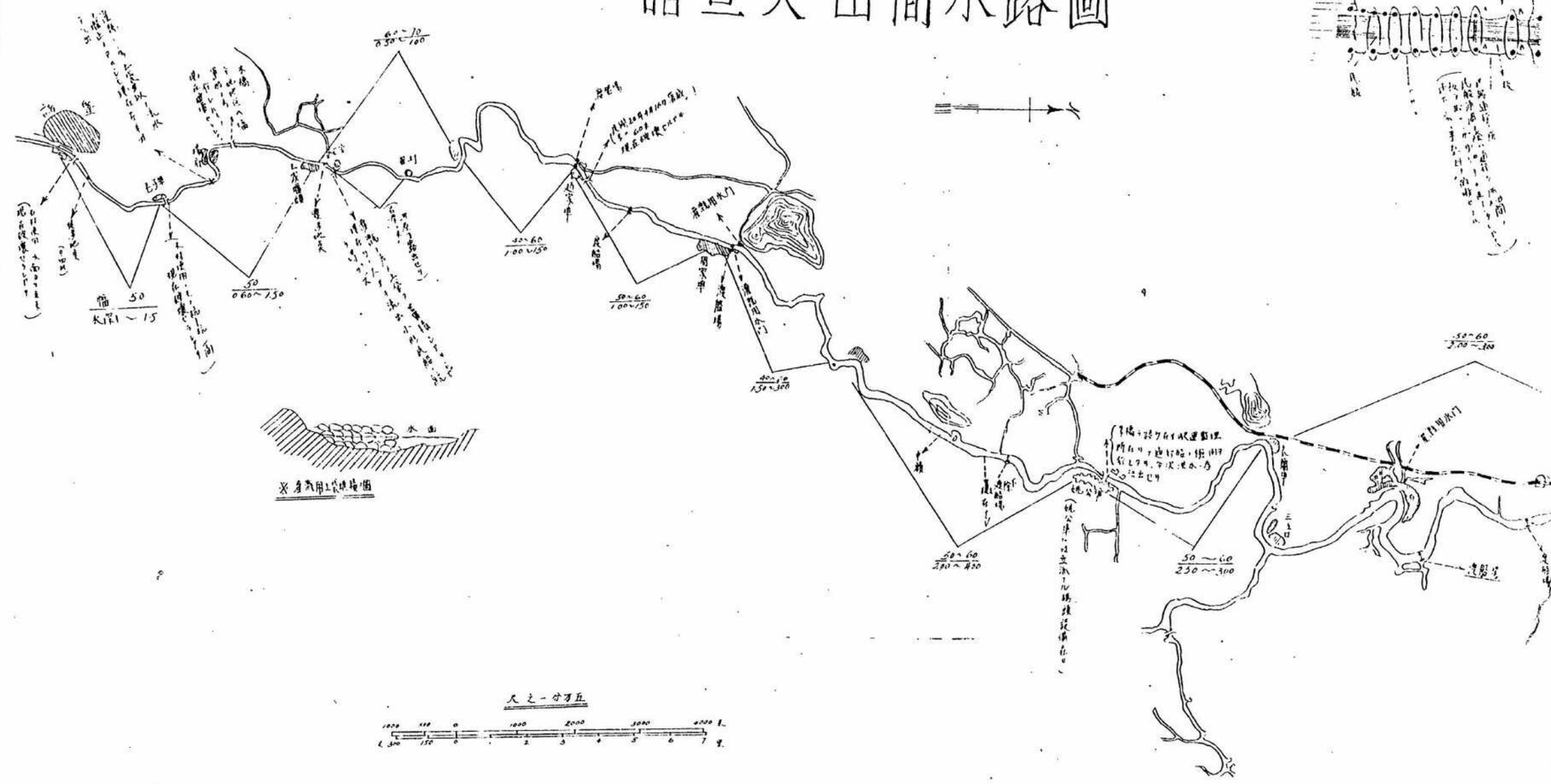
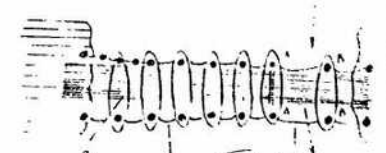


尖山間水路圖



諸暨尖山間水路圖

※浮橋圖



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

別冊第一

偽浙江省戰事水陸交通器具管理辦法概要

1 : 25

偽浙江省戰事水陸交通器具管理辦法概要

甲、總則

- 一 交通ノ能率増進、水陸運輸ノ確保ニヨリ戰事交通ノ要求ニ適應センコトヲ期シ且ツ輿地物產ノ流通ニヨル新經濟ノ發展ヲ期促進セシムル爲特ニ本概要ヲ定ム
- 二 本省內ニ於ケル水陸交通器具ノ管理事項ハ交通處之ヲ處理スルモノトス
- 三 交通處所屬ノ船舶總隊、自動車總隊、手押車總隊ハ管理執行機關トス
- 四 省境內ニアル水陸交通器具ハ官有、民有、機動、人力ニ拘ラズ各該管理機關及所有者、操業者ハ均ク本概要ノ定ムルトコロヲ遵從スベシ
- 五 本概要ニ未ダ定メズシテ他ノ法令ニ規定セラレタル事項ハ其ノ規定ニ從フモノトス

乙、管理ノ區別

- 六 交通器具管理ハ其ノ時ト土地ト情形並ニ器具ノ性能ニ依リ特別管理ト普通管理ト區分スルモノトス

七 戦區軍公運輸ノ繁忙ナルトコロ及民間運輸ノ激増セル箇所ヲ特別管理局トシ其他ハ普通管制區トス

八 特別管理ニ屬スル器具左ノ如シ

イ 荷物搬駛ノ船、筏（民船、イカダ）

ロ 荷物運輸自動車（トラツク？）

ハ 荷物曳運ノ手車

九 普通管理ニ屬スル器具左ノ如シ

イ 内河、海外ヲ航駛スル交通船並ニ漁船、農船

ロ 客ヲ載スル大小自動車（バス？）

ハ 各機關及法定團體應用ノ船車

一〇 特別管理ヲ受クル器具ハ其ノ管理解除ノトキ迄管理機關ノ徵調命令ニ服スベシ

一一 普通管理ノ器具ハ常態ヲ保持スルコトヲ得、必要ノトキ管制機關之ヲ隨時ニ徵調スルモノトシ情況許サル、限り仍ク返還スルモノトス

一二 普通管理區域内ニ在ル交通器具ト雖モ、特別管理區域ニ移動運送セルト

キハ特別管理ヲ受クルモノトス

一三 省外ノ船車省内ニ移入シ、其ノ回程軍公用物品ヲ運送セルニ非ラザル

トキハ、當地管理機關ハ之ニ通達シ、管理機關ノ裝運ニ利用スルコトヲ得

一四 公用或ハ租用ノ船車ニシテ空廻、空放及停止時間ニ於イテハ當地管理機關ハ管理機關ニ通知シ裝運ニ利用セシムベシ

丙、管理ノ器具

(1) 船 舶

一五 省内ノ船舶ノ調査、驗査、徵收、編組事項ハ船舶總隊ガ船舶管理局ト立會ノ上之ヲ取扱フモノトス

一六 船舶ノ軍事管理ヲ採フルトキハ船舶總隊ヲ船舶管理機構ヨリ各級隊班ニ分編スルモノトス

一七 特別管理區域ノ船舶ニ通行證ヲ下附シ航行制限ヲ受クルモノニハ通行旗ヲ下附ス

一八 通行證費ハ一部一角トシ、通行旗一本五分トシ均ク船戸側支納スベシ

- 一、船舶管理機關が軍用船ノ徵用ヲ爲ストキ入港ノ先後ニヨリ籤引ノ方法ヲ以テ徵用スルモノトス
- ◎其ノ既ニ軍役ニ服セシ者ハ延酌ヲ與フルモノトス
- 但シ緊急ヲ要スル場合、又ハ碇泊ノ船舶ニテハ不足ノトキハ此ノ限りニ在ラズ
- 二、特別管理船舶ガ貨運統制區域ニテ服務ノ後、入港空船トナリタルトキハ指定セラレタル碼頭ニ停泊ノ上指命ヲ待ツベシ、其ノ貨運統制區域ニ服務セサル船舶ガ入港停泊中ハ概ネ待役ト看做ス
- 三、待役ノ時間ヲ廿四時間トス、時限内ハ傭船料食費等支給セズ
- 四、船舶ガ待役時間中ニ軍運ノ派遣モ無クシテ待役時間解除サレタルトキハ民貨ヲ載運スルコトヲ得
- 五、特別管理ノ船舶ニ對スル給與食費ハ軍運ニヨリ後方勤務部ノ規定ニ照シ之ヲ支付ス、公運ハ代徵公運船隻船戶船夫給與辦法ニ照シ支付ス、貨運運賃ハ船舶管理局ノ規定ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

(2) 自動車

- 一、省内ノ自動車ノ調査、検査、徵收、編組事項ハ自動車總隊ガ公路管理局ト立會ノ上之ヲ取扱フモノトス
- 二、自動車ノ軍事管理ヲ採フルトキハ自動車總隊管理機構ヨリ各級隊班ニ分編スルモノトス
- 三、自動車、各級隊班長ハ公路管理局長及民間長距離自動車會社員之ヲ充任ス
- 四、省内ノ自動車ニハ一律ニ通行證ヲ下附ス
- 五、特別管理ノ自動車ハ貨運統制區域ニテ運需ニ供スルヤ否ヤ、不拘ラズ均ク公路管理局ノ規定ニ依リ計算スルモノトス
- 六、民間所有ノ自動車ハ管理機關ニヨリ定期ニ嚴檢ナル試験ヲ爲シ其ノ機械ニ支障アリタルトキハ速ヤカニ修理セシメ、應ゼザル場合ハ鑑札ヲ沒收スルコトアルベシ
- 七、民間所有ノ自動車ハ指定セラレタル車庫ニ停留シ常ニ出動ノ準備シ置リニ自由營業又ハ運輸スベカラズ

- 一 民營長距離乗合及特種距離貨車ハ一車毎ニ三ヶ月分ノ燃料ヲ保持スルコトヲ要ス
- 二 民營長距離乗合並ニ貨車ヲ變賣セントスルトキハ豫メ管理機關ニ其旨ヲ上申シ許可ヲ受クベシ
- 三 省内ノ民間所有ノ手車ノ調査登記徵收編組事項ハ縣政府之ヲ取扱フモノトス
- 四 手車軍事管理採フルトキハ手車總隊ノ主管トシ、若干ノ大隊、中隊、分隊ヲ分設ス
- 五 特別管理區域ニ於ケル手車ノ徵用ハ現役ト豫備役ト分テ籤引ノ方法以テ之ヲ定ム
- 六 現役ノ民營手車ハ公路上ヲ行駛スルコトヲ得
 - 交通處ヨリ牌照ヲ交附シ、縣政府之ヲ編訂シ費用ヲ收セズ、豫備役手車ハ之ヲ原籍地境内ニ在リテハ自由營業スルコトヲ得ルモ公路行駛スルコト得ズ

- 違反セルトキハ車輛ヲ沒收サルコトアルベシ
- 七 手車中隊以下ノ各級幹部人員ハ現地各團體優秀份子ヲ遴選シ充任セシムコトヲ得但シ須ク運輸ノ經驗及軍事智識アルモノヲ合格トシ必要ニ應ジ召集シテ之ヲ訓練スルモノトス
- 八 特別管理區ノ手車ノ事項ハ手車總隊之ヲ取扱ヒ普通管理區ノモノハ縣政府之ヲ取扱フ
- 九 現役役期ヲ三ヶ月一期トシ、滿期セルトキハ元編ノ豫備役ヲ現役ニセシメ交替セシムルモノトス、但シ緊急或ハ繁忙ノトキハ豫備役ヲ現役トセシメ且ツ現役ノ期限延長スルコトヲ得
- 十 現役ノ民營手車管理解除セザルトキト雖モ情況許ス範圍ニテ其ノ現役ノ期間ヲ斟酌短縮スルト共ニ豫備役ニ退セシムルコトアルベシ
- 十一 現役手車々夫ノ宿營站ハ管理機關ニヨリ運輸路線ニ按シ適當ナル箇所ニ夫々建築スベシ
- 十二 手車載量ハ双輪車ノ規定二百キロヨリ二百五十キロ迄トス（單輪車ハ双輪車ノ四分ノ三トス）

四三 手車ノ行程ヲ毎日廿五キロヨリ卅キロトシ毎月七百五十キロ以下タルコト得ズ

四四 手車總隊各級官佐兵士、薪給ハ陸軍國難餉章ニ依リ給與ス

四五 現役手車ノ運輸ニ供スルトキハ貨運統制區域ニ在ルト否ニ不拘ラズ後方勤務部ノ規定ニ依ルモノトス

四六 双輪車ハ毎日賃銀一角トシ車夫食用毎日六角ヲ給スルト共ニ一車毎ニ毎日修理費一角ヲ別ニ給付ス

四七 停修期間ニ於イテハ車賃支拂ハズ車夫食用モ半額トス、其ノ公用ノ爲又ハ特殊事情ニヨリ破損シ使用ニ堪ヘサル場合ハ事實判明次第補助費ヲ酌給ス

四八 單輪車ニ對スル待遇ハ双輪車ノ定ムルトコロノ三分ノ一トス

丁、運 用

四九 省境内ノ水陸交通器具若シ軍事緊張ナルトキハ一律ニ之ヲ交通處ニヨリ徵用シ、軍公運輸ハ交通處ニヨリ、民荷民客ハ管理機關ニヨリ夫々取扱フモノトス

五〇 運輸器具ノ供應ハ軍用ヲ先トシ荷運之ニ次ク

五一 運輸器具ノ供應ハ軍用ヲ先トシ荷運之ニ次ク
法團機關トス

戊、附 則

五二 船舶、自動車、手車ノ各機關本概要執行セントスルトキハ、交通處ノ監督、指導ヲ受クベシ

五三 各官制機關ハ船舶、自動車、手車ノ動態月報表ヲ交通處ニ提出スベシ

五四 船舶、自動車、手車ノ運輸ニ供應スルトキ其ノ人事方面、賠償撫慰懲等事項ハ法令ノ規定ニ照シ辦理スベシ

五五 交通器具ノ所有者又ハ操業者若シ管理命令ニ違反スルトキハ法ニ依リ處分サルベシ

五六 船舶、自動車、手車検査機關ヲ有スル箇所通過ノ場合、均ク検査ヲ受クベシ

五七 本概要公布サレタル後ト雖モ從來、船舶、自動車、手車ニ對スル現有各法規ハ仍ク有効トシ、但シ實情ニ適合セザルモノ又ハ施行困難ナル

モノハ夫々修正スベシ

茲各管制機關公務執行ニ當リ本概要定ムル原則ニ照シ詳細辦法ヲ起草シ之ヲ交通處ニ上申許可ヲ仰ギ且ツ省政府ニ備案シ施行スルコトヲ得
六 本概要ハ省政府公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(了)

別冊第二

重慶政府驛運民船通則

第一章 總 綱

第一條 中華民國ニ於テ驛運機關ノ民船航行ハ總テ本通則ニ依リ處理スルモノトス本則ノ稱スル驛運機關ハ中央及各省ノ驛運幹支線ノ區間ヲ取扱フモノトス

第二條 各驛運機關ニ服務スル船運工員ハ航船ノ安全ヲ維持保護スルヲ以テ目的トス

第三條 本通則ハ驛運機關カ使用スル名詞並ニ解釋ヲ左ノ如ク規定ス

(甲) 運輸設備

(一) 驛運站

驛運ノ載貨行船及船工員ノ寢食ナス處

(二) 中轉站

行船ノ區間ヲ分ケ貨物轉裝船ヲ處理並ニ船工員交替ナス驛運

站

(三) 聯運站

兩驛運區間ノ貨物中繼運送及ヒ積換船舶ヲ處理スル中轉站

(四) 倉庫

發送荷ノ保管貨物ノ轉送及到着ノ處

(五) 碼頭

船舶ノ停泊地點

(乙) 行船ノ備品

(一) 號角

音聲ニ依リ行船ノ指示ニ用フル信號

(二) 紅綠色旗

色別ニ依リ行船ノ指示ニ用フル信號

(三) 船旗

船舶發號ヲ示ス標識

(丙) 行船規律

(一) 交錯

兩船ノ擦違フ事ヲ稱ス

(二) 避讓

前船ハ後船ニ前行ヲ讓ル

(三) 拉離

紋離トモ稱ス船ハ急流離險ヲ通過スル場合人ヲ増加シ或ハ紋

離工具ヲ用ヒ上流ノ淺瀬ニ船ヲ引キ上ケル事

(四) 提駁

重量ノ貨物ヲ積載スル船舶ハ淺瀬ヲ通過スル場合重量ヲ輕減

ナス爲貨物ヲ岸ニ荷揚シ或ハ他處ニ積換ヘテ淺瀬ヲ通過ス

通過後元ノ船ニ積入レテ前進ナス事

(丁) 行船工具

(一) 站長

長官ノ命令ヲ受ケ各章則ニヨリ所屬工具ヲ監督シテ一切ノ驛

務ヲ處理シ船隊カ驛ニ到着セシメルベク管理及指揮ノ責任ヲ

負フベシ

第四條

- (一) 隊長
長官ノ命令ヲ受テ各該船ニヨリ所屬船舶ヲ管理シ責任ヲ負フ
テ貨物ノ護送並ニ一切行船ヲ指揮スル
- (二) 分隊長
隊長ノ命令ヲ受ケ貨物ノ護送及行船ヲ指揮スル
- (三) 船長
民船ノ運行ヲ主持スル船員ヲ稱ス俗ニ舵工或ハ梢公或ハ太公
ト稱ス
- (四) 機夫
駕長ヲ除クアテユル船夫ヲ總稱ス、例ヘハ撐篙拉練、槳、
搖櫓及火夫ノ如キ船夫ヲ指ス
- (五) 船員
船上工員ノ總稱テアル

第二章 信號

信號ノ種類

民船航行ノ信號ハ眼望及ヒ耳聽ヲ採用ス

第五條

眼望信號

- 紅綠二色ノ旗ヲ使ヒ咨勢ヲ示シテ（紅綠二色ノ旗ナキ場合ハ兩
臂ヲ代用スル）船隊ノ行動ヲ左ノ如ク指揮ス
- (一) 前進或ハ開航
綠色旗一枚ヲ水平ニ上レハ（若クハ片臂ヲ水平ニ伸ス）異狀
ナシヲ表シ船隊ハ前進或ハ開航ノ可ナルヲ示ス
- (二) 注意
紅色旗一枚ヲ左右ニ緩ルク振ル（或ハ片臂ヲ高ク上ケテ緩ル
ク左右ニ振ル）徐行ヲ表シ前方ニ淺瀬暗礁或ハ前後方ニ機
動船ノ來航ヲ表シ若クハ其ノ他ノ障礙ヲ發見シタ時行船工員
ニ注意ヲ擧起サセ船隊ヲ徐行セシメ何時テモ岸ニ近接シテ停
泊出來得ル様ニセシム
- (三) 停航
紅色旗一枚ヲ水平ニ上ケル（或ハ兩臂ヲ高ク上ケル）危險ヲ
表シ船隊ハ直ニ岸ニ近接シ停泊ス

めくれず

第三章 編成

(四) 求救

紅色旗二枚ヲ頭上左右ニ高く揚ケル(或ハ火ヲ上ケテ左右ニ早ク振ル)危險ニ遭遇シタルヲ表シ同隊他船ニ迅速ニ救援ヲ求メルモノ

(五) 應援

綠色旗二枚ヲ頭上左右ニ高く上ケル(或ハ火ヲ上ケテ左右ニ緩ルク振ル)應援ヲ表シ直ニ救應ニ行クヘシ

第六條

耳聽信號

雙角聲ヲ發シ眼望信號ヲ補助シ船隊ノ行動ヲ左ノ如ク指揮ス

(一) 前進或開航 一長聲

(二) 注意 二長聲

(三) 停航 五短聲

(四) 求救 五長聲

(五) 應援 三長聲

第七條

舟號

民船ノ噸數別ニ依リ各船號下ニ編成シ船號ヲ一見シテ種數量ヲ判別出來得ル様ニナス

第八條

船員

各民船毎ニ駕長一名撐頭一名火夫一名及ヒ其他撓夫若干名置ク其ノ他撓夫ノ人數ハ船ノ噸數ノ大小航行河ノ狀況ニ依リ決定ス

第九條

船隊

各船隊毎ニ隊長一名ヲ置キ五分隊ヲ以テ一船隊トス各隊ニ分隊長一名ヲ置キ民船五隻ヲ以テ一分隊トナスヲ原則トス

第十條

隊旗

船隊ノ編成完了後ハ番號ヲ附シ各船毎ニ隊旗一枚ヲ立テ識別シテ資ス

第四章 航行

第十一條

船隊ノ上下航ハ全線ノ發着站ノ方向ニヨリ上航下航ヲ區別シテ

處理ヲ便ナラシム

第十二條

船航間隔

船隊航行中ハ二十メートルノ間隔ヲ置イテ一列ニ前進シ相互間ニ聯絡ヲ取ルヲ原則トス但シ當時ノ天氣及水流ル狀況ニ依リ間隔ノ伸縮或ハ變更スルコトヲ得

第十四條

船員位置

船ニ服務スル工員ハ特別ノ事情ヲ除ク外左記規定セル位置ニ居ルヲ原則トス

(一) 駕長

舵輪ニ着席シテ隨意ニ離席スルヲ得ス殊ニ本河ヲ熟知セル航行技術ナキ船夫ヲ代理セシメサルコト

(二) 分隊長

自己分隊ノ航行セル最後尾ノ船ニ乗ツテ船ノ運輸ヲ監督スルモノトス

(三) 隊長

全隊ノ船カ同時ニ出發シタル場合隊長ハ本隊最後分隊ノ船一隻ニ乗船シテ分隊長ト共ニ船ノ運輸ヲ監督スルモノトス
但分隊長ト同一ノ船ニ乗船スルヲ得ス

第十五條

行船備品

船隊出發ノ時分隊長ハ左記各項ノ備品ヲ携帯スルモノトス

(一) 隊旗 一船一枚

(二) 紅綠旗 一船二枚

(三) 號角 一船一ヶ

(四) 提燈 (燈油及ローソクヲ備付) 一船一ヶ

(五) 民船ノ附屬品及修理工具一組或ハ二組

(六) 其他携帶スヘキ備品及船運ノ各種證券

第十六條

出發待機中ノ船隊

船隊ノ出發前ハ驛運站々長ノ營繕ニ屬シ其ノ分隊長及ビ以下ノ駕長、撓夫等ハ其ノ指揮ニ服役スルモノトス

第十七條 出發船隊

船隊カ站ヨリ出發後ハ駕長、撈夫ハ隊長及分隊長ノ指揮ニ服役スルモノトス

第十八條 上行拉灘

船隊カ淺瀬ヲ遡航ヲナス時ハ事前ニ分隊長ハ水流ノ緩急及ヒ各船撈夫ノ力ヲ以テ通過シ得ルヤ否ヤヲ測ルヘシ撈夫ノ力ヲ以テ船通過出來得ル場合ハ船隊ハ繼續前進ヲ命スヘシ撈夫ノ力ヲ以テ尙不足ノ場合ハ各船ノ撈夫ノ協力ヲ得ルヘシ

第十九條 下行過灘

船隊カ淺瀬ヲ下航スル場合分隊長ハ事前ニ水流ノ緩急ヲ測量シ各船前後ノ適當ナル間隔ヲ保チ船隊ヲ一列ニ下航ヲ命スヘシ船隊ノ間隔接近過キタル場合ハ各船ヲ單獨ニ下航セシメ衝突事故ノ發生ヲ免カレシムルモノトス

第二十條 交錯避讓

船隊カ航行スル場合ノ錯讓ノ方法及其ノ他行船ニ關スル規則ハ

第二一條 沿途停泊

總テ各河ノ狀況及ヒ從來ノ習慣ニ依リ處理スルモノトシ他船トノ間ニ誤解ヲ生シテ事故ノ發生ヲ防止スルモノトス
同隊出發ノ船舶ハ事故發生シタル場合救助ノ聯絡ヲ密切ニナス爲途中同一ノ安全ナル碼頭ニ碇泊シテ分散スル事ヲ得ス

第二二條 豫防火災

火災ヲ予防スル爲船上ノ炊事場ハ貨艙ト隔離シ船工員ノ吸煙ヲ禁ス若シ船隊ノ積載セル貨物カ燃燒シ易キ物（ガソリン、桐油等）ノ場合ハ別ニ食事船ヲ準備シ炊事ニ使用セサルモノトス
船舶ノ検査修理

第二三條

出發前船行中及到着后左ノ如キ規定ニヨリ検査修理ヲ行フ
（一）出發前

分隊長ハ駕長ヲ監督シテ各船ヲ巡視セシメ船舶ノ破損或ハ破損シ易キ箇所ヲ發見シタル時ハ直ニ站上ノ船修理工ニ通知シ修理シタル後開船スルモノトス、但シ一時ニ修理出來ス或ハ

修理場ニ於テ大修理ヲ要スル場合ハ船ヲ交換シ運送セシムル
(二)航行時

分隊長ハ隨時ニ駕長ヲ監督シ各船ヲ巡視セシメモシ船舶ノ破
損又ハ修理場ニ於テ修理ヲ施工サセ或ハ修理廠ニ行ツテ大修
理ヲ行フモノトス

第一四條

船舶ノ保管

船舶カ站ニ到着セシ後分隊長ハ駕長ヲ監督シテ船舶ヲ看視セシ
メ船上一切ノ設備ト用具ヲ保管セシムルモノトス損壞紛失ノ生
シタル場合駕長ハ其ノ直接責任ヲ負フモノトス分隊長ハ其ノ間
接責任ヲ負フモノトス

若シ駕長カ所用ノ爲離船セントスル場合ハ先ツ看視管理ノ責任
ヲ負フベキ撓夫一名或ハ二名ヲ指定シテ後ニアラザレバ離船ス
事ヲ得ス

第二五條

裝載限度

民船ノ左右兩側ニ積載線ヲ引クモノトス沈没ヲ豫防スル爲ニテ

積載ナス貨物ハ其ノ積載線ヲ超ヘサル事第六章行船事變及處理
方法

第二六條

事變種類

行船ノ事變左ノ如ク分類ス

- (一)機動船或ハ其ノ他ノ民船ニ衝突サレ或ハ浪ノ爲メ沈ムモノ
- (二)暗礁或ハ淺灘ニ乗上ゲテ沈ムモノ
- (三)船員傷死
- (四)船貨ノ火事

第二七條

救護準備

水運ヲ取扱フ各驛站ハ事故ヲ發生シタル船舶ヲ救援スル爲站ニ
勘クトモ救護船一隻並ニ救援用具ヲ備付ケ置クモノトス

第二八條

事變處理

行船ノ事變ハ左記方法ニ依リ取扱フモノトス

- (一)駕長ハ直先ニ緊急指置ヲ探ルト共ニ「求救」ノ信號ヲ發シテ
同隊他船ノ救援ヲ求ムルモノトス

(二) 同隊ノ他船ハ「求救」信號ヲ發見シタル時ハ「應援」信號ヲ發シ協力シテ救援ノ處置ヲ採リ人ヲ救助ノ傍貨物ノ安全ヲ計ル可シ

(三) 事故發生航力緊急救援ヲ受ケタル後航行不可能ナル場合分隊長ハ其ノ狀況ニ依リ船長ト計リ撓夫若干名ヲ近接ノ驛運站ニ派遣シ「救援船」ノ派遣ヲ求メ船長ト撓夫ハ發生地點ニ殘留シ船貨ノ看視ヲナス

(四) 分隊長ハ事故發生船舶ノ救援完了後ハ其ノ他ノ船舶ヲ率ヒテ前進スルモノトス

(五) 驛運站カ「救援請求」ノ通知ニ接シタル時ハ直ニ人員ヲ派遣シテ救援船ト共ニ事故發生點ニ赴キ救援セシムルモノトス

(六) 事變ノ責任カ機動船或ハ其ノ他ノ民船ニ關聯シタル場合ハ分隊長或ハ船長ハ其ノ機動船ノ名或ハ船號ヲ明記スル外出來得ル限り之ヲ抑留シ交渉ニ便ナラシムル爲當地ノ保甲長ニ證明書提出セシムルモノトス

第二九條

(四) 船貨ノ發火ニ因リタル時ハ船長ハ迅速ニ赴カシムルモノトス

事變責任

事變發生後ハ責任者ヲ明カニスヘシ責任者船工員ノ場合ハ逃亡ヲ防クト共ニ工作ヲ繼續セシムルモノトス

但シ相手カ機動船或ハ民船ノ場合ハ主管驛運機關ニ報告シ主管驛運機關ニ於テ處理スルモノトス

第三〇條

事變報告

行船事變ハ大小ニ拘ハラス事實ニ基キ「行船事變報告」ヲ作製シテ検査或ハ交渉ノ爲事故發生地點前方ノ站ニ提出シ當該站ヨ

第三一條

各驛運機關ハ當地水運ノ特殊狀ヲ參配シテ本通則ニ基イテ細則ヲ制定シ驛總管理處ニ申請シテ許可ヲ得タル後施行スル事ヲ得並ニ當該處ヨリ交通部ニ送附スルモノトス

第三二條

本則ハ公布白ヨリ施行ス

別冊 第三

浙江省ニ於ケル民船種類並ニ分布状況調査表

浙江省民船種類並ニ分布状況調査表

| 河川名 | 船種 | 載 | 量 | 摘 | 要 |
|-----------|-----|-------------|-------|---------------------|-----------|
| 錢塘江ニ於ケル民船 | 江山船 | (天) | 七〇〇擔 | (航行地。杭州、金華、衢州、嚴州) | (用途。貨客兩用) |
| | 徽江船 | (天) (中) (小) | 二〇〇〇擔 | (航行地。金華、衢州、嚴州) | (用途。貨客兩用) |
| | 烏嘉船 | (天) (中) (火) | 一〇〇〇擔 | (航行地。金華、衢州、嚴州) | (用途。貨客兩用) |
| | 江船 | (天) (中) (小) | 三〇〇〇擔 | (錢塘江内渡船ニ使用サル) | |
| | 蘆烏船 | (天) (中) (小) | 四〇〇〇擔 | (航行地。金華、衢州、嚴州、貨物兩用) | ニ使用サル |
| | 交白船 | (天) (中) (小) | 五〇〇〇擔 | (航行地。福建、遊船ニ使用サル) | |
| | 海船 | (天) (中) (小) | 五〇〇〇擔 | (貨物専用) | |

浙 江 省 (民船種類)

| 河川名 | 船種 | 載 | 量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|-------------|-------|---------------------|-----------|
| 錢塘江 | 江山船 | (天) | 七〇〇擔 | (航行地。杭州、金華、衢州、嚴州) | (用途。貨客兩用) |
| 徽江 | 徽江船 | (天) (中) (小) | 二〇〇〇擔 | (航行地。金華、衢州、嚴州) | (用途。貨客兩用) |
| 烏嘉 | 烏嘉船 | (天) (中) (火) | 一〇〇〇擔 | (航行地。金華、衢州、嚴州) | (用途。貨客兩用) |
| 江 | 江船 | (天) (中) (小) | 三〇〇〇擔 | (錢塘江内渡船ニ使用サル) | |
| 蘆烏 | 蘆烏船 | (天) (中) (小) | 四〇〇〇擔 | (航行地。金華、衢州、嚴州、貨物兩用) | ニ使用サル |
| 交白 | 交白船 | (天) (中) (小) | 五〇〇〇擔 | (航行地。福建、遊船ニ使用サル) | |
| 海 | 海船 | (天) (中) (小) | 五〇〇〇擔 | (貨物専用) | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 江 | 常 | 常 | 西 | 無 | 麥 | 烏 | 烏 | 百 | 商 | 蝦 | 台 |
| 北 | 熱 | 州 | 庄 | 錫 | 湖 | 蓬 | 山 | 官 | 船 | 船 | 州 |
| 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 船 | 長 |

| | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一〇六〇〇 | 二〇〇〇〇 | 四〇〇〇〇 | 七〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 四〇〇〇〇 | 八〇〇〇〇 | 九〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇 |
| 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 | 擔 |

外洋航路ニ用ヒラレ帆船ナリ
穀物、茶、柑橘、魚、鹽等ヲ上海ニ運送ス
漁獵用ニシテ其ノ形ハ長方形ノ平キ小船ナリ
商船モ帆船ノ一種ナリ
上海、寧波間貨客兩用
貨物専用
嘉興、湖州間米穀及客用
蘇州、上海貨物専用

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 甌 | 溫 | 溫 | 溫 | 甌 |
| 江 | 州 | 州 | 州 | 江 |
| 長 | 南 | 二 | 河 | 一 |
| 船 | 船 | 海 | 小 | 河 |
| 船 | 南 | 用 | 河 | 用 |
| 船 | 船 | 船 | 船 | 船 |
| 船 | 船 | 船 | 船 | 船 |

| | | | | | | |
|------|------|------|--------|-------|------|------|
| 二五〇〇 | 三〇〇〇 | 五〇〇〇 | 大小一定セズ | 大ナルモノ | 五〇〇〇 | 八五〇〇 |
| 擔 | 擔 | 擔 | | 擔 | 擔 | 擔 |

甌江ニ入江出江スル民船ニハ海用船ト河用船トアリ
嚴州薪炭兼漁業用
形一様ニシテ長船ノ一種ナルモ椒江ノモノニ比シテ形稍々大ナリ長サ四間幅五尺吃水一尺
其ノ形一定シ甌江ニ於ケルモノト異ル普通幅四尺長サ三間ノモノ最モ多シ
溫州、寧波、乍浦及ビ台州間ヲ航海ス每隻一年二十航海ス
溫州、福州、興化、泉州、石碼及ビ漳州等ノ間ヲ往來ス船体少ニシテ毎年五六回ノ往復ヲナス
台州行民船ナリ一隻一年五回ノ往復ヲス吃水三尺五寸幅一間半長サ六間ニシテ長船ノ典型ナリ

| 地名又ハ水路 | 船種 | 碇泊隻數 | 摘要 |
|-------------|----|------|----------------|
| 錢塘江 江山附近 | 大型 | 五七 | 常ニ航行スルモノハ五〇〇〇隻 |
| 六和塔 | 小型 | 二六 | |
| 開家墩 | | 六六 | |
| 義橋 | | 三五 | |
| 臨浦 | | 一五〇 | |
| 里山 | | 七六 | |
| 富陽 | | 三四 | |
| 場口 | | 三一七 | |
| 東辛 | | 二七 | |
| 窄溪 | | 四〇 | |
| 其他 | | 七 | |

浙江省 (民船分布状態)

| | | |
|------|------|------------|
| 滿江船 | 三〇〇 | 蘇州、上海貨物専用 |
| 浦鞋船 | 六〇〇 | " |
| 小灣子船 | 四〇〇 | 杭州附近水路、近航用 |
| 無錫快船 | 一〇〇 | 蘇州、上海貨物専用 |
| 吳江快船 | " | " |
| 絲網船 | 二〇七 | 絲織物 |
| 廬墟船 | 一〇〇 | 貨客兩用 |
| 將材船 | 四〇〇 | " |
| 長官船 | 八五〇 | " |
| 湘扁子船 | 一〇五〇 | " |
| 航船 | 一〇五〇 | " |

浦米南汪ニ小前米ツ深金白小山鉄米
 遠龜ユイ街 | 渡 川 金
 口江江港灘口頭灘サ鎮口石口港灘灘

三五六一四九〇四七二六六四四八七
 五六四三九〇四七二六六四四八七

五〇尺 七〇尺 六〇尺 五〇尺 河幅五〇尺

街黃威息四淳茶港洋下新處 青田
 先坏村子安園口溪涯安 處州
 口縣鎮埠頭鎮鎮鎮鎮埠江州 田

航
行
中
二 一
八 六 一 〇
一 一 二 三 五 四 三 一 七 三 一 〇
五 九 六 五 六 六 六 三 六 三 七 三 一 〇

五〇尺 四〇尺 六〇尺 六〇尺 八〇尺 七〇尺 河幅八〇尺 (嚴州浦口間)

別冊第四

江西省民船種類並ニ分布状態調査表

| | | | | | | | | |
|------|-----|---------|-----|-------|------|-------|-------|--------------------------|
| 石嘴子 | 甘肅省 | 奉化(大橋鎮) | 奉化江 | 寧波 | 水康 | 梅塘江支流 | 天台—台州 | 江 |
| | | | | 渡船及荷船 | 河船 | 小舟 | | |
| 二〇〇餘 | | 六七〇 | | 一〇〇餘 | 四〇〇餘 | 六三六 | 九五 | 出合セル民船 一七五 |
| | | | | | | | | 船局所有ノモノ 大橋鎮ハ奉化城西門外ニアリ |

江 西 省

| 河川名 | 船 種 | 載 量 | 摘 要 |
|-----|------|--------------------------|--------------------|
| 江 | 一客船 | 普通 四〇〇—六〇〇擔 | 官吏、紳商ノ旅客用トス |
| | 官板子 | 八〇〇—一〇〇〇擔 | 最モ多ク天官翹トモ稱ス |
| | 第蓬船 | 四〇〇—五〇〇〃 | (板蓬) |
| | 天官子 | 五〇〇—一〇〇〇〃 | (竹蓬) |
| | 小天官子 | 一〇〇—三〇〇〃 | 俗ニ菓子船ト言フ一種ノ水上店舖ヲ兼ル |
| | 華船 | 三〇擔以下 | 殆ト客貨兩用船ナリ |
| | 二貨物船 | 純貨物船 三〇—四〇擔 | 砂把子、大河船トモ言フ |
| | 駁子 | 最〇大 最〇小 最〇ナ 最〇ル | 縣土猶縣南康縣ノ三縣ニ |
| | 砂把子 | 最〇大 最〇小 最〇ナ 最〇ル | 屬フ河船ハ俗ニ吹火筒船ト |
| | 河船 | 前者ト略同様 | |

江 西 省 河 川 船 隻 概 況

一、官板子：普通、四〇〇—六〇〇擔。官吏、紳商ノ旅客用トス。

二、第蓬船：八〇〇—一〇〇〇擔。最モ多ク天官翹トモ稱ス。

三、天官子：四〇〇—五〇〇〃。 (板蓬)

四、小天官子：五〇〇—一〇〇〇〃。 (竹蓬)

五、華船：一〇〇—三〇〇〃。俗ニ菓子船ト言フ一種ノ水上店舖ヲ兼ル。

六、二貨物船：純貨物船、三〇—四〇擔。殆ト客貨兩用船ナリ。

七、駁子：最〇大、最〇小、最〇ナ、最〇ル。縣土猶縣南康縣ノ三縣ニ屬フ河船ハ俗ニ吹火筒船ト

八、砂把子：最〇大、最〇小、最〇ナ、最〇ル。砂把子、大河船トモ言フ。

九、河船：前者ト略同様。

南 昌

河 船 撫 船 撫 子 官 板 沙 排 鴨 子 大 橫 敷 船 撫 刀 子 巴 斗 子 大 漁 船 麻 陽 船 外 來 船

官板子ニ類ス
 一〇〇〇餘楹
 小大 小大 小大 小大
 一 一 一 一
 五 四 六 五 七 五 四 〇
 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

江西北部各地及ビ外省ニ屬スル船泊ニシテ北ヨリ來ルモノ
 南昌ニ見ル純客船ナリ
 九江ヨリ洋紗洋布等ヲ積ミ吉安ニ來ル
 九江ヲ中心トシテ各地ニ至ル
 撫州ヲ中心トシテ各地及湖北省ニ藥材ヲ運搬ス但シ州ニ來ルコト極メテ稀ナリ
 南昌ヲ中心トシテ各地ニ運貨ス
 湖北省ニ至リ棉花ヲ積ミ五六月増水期州府ニ來ルコトアリ
 深サ三尺幅二八尺長サ四〇尺
 深サ三尺幅二八尺長サ四五尺
 深サ三尺幅二八尺長サ四七尺
 深サ三尺幅二八尺長サ四〇尺

標 船 古 子 梭 子 船 龍 南 秋 子 寧 都 河 船 吊 美 子 萬 載 子 吊 頭 子 渡 船 風 漁 船

三〇〇一四〇〇楹
 大ナルモノ
 小ナルモノ
 四〇一六〇楹
 三〇一三〇〇楹
 三〇〇一四〇〇
 二〇〇一四〇〇
 一〇〇楹内外
 一〇〇一四〇〇楹
 五〇一三〇〇
 二一 一〇内外

州府及ビ吉安府ヲ中心トシテ江西各地ニ至ルモノト小トナラズ
 船首高ク船体ト垂直ナルヲ特徵トス北ハ南昌ヲ路終トス
 普通南ヲ往來シ時ニ南昌ニ至リ小ナルモノハ古城駁ト書フ
 普通安速船ト書フ
 或ハ吊斗子ト稱ス
 把渡ニハ一ニ噸及至一〇内
 外ノ渡船アリ
 時ニ旅客ヲ運ブ

| | | | | |
|------|--------|---------|---------------------|------|
| 民船 | 錦江ニ於ケル | 平頭子 | 最大ナルモノ 一一〇〇擔 | 船長五間 |
| (玉山) | 吊子 | 四三〇〇擔 | 景德鎮ヨリ磁土、薪等ヲ積送ル | |
| 昌水流域 | 山華子 | 四三〇〇擔 | 錦江流域ヨリ來タル | |
| ニ於ケル | 樂平東岡 | 三〇〇擔 | 臨江政府ヨリ來リ陶器製造用ノ薪類ヲ積ム | |
| 民船 | 小船 | 四〇〇擔 | 錦江流域ヨリ來リ景德鎮上流ニ至ラズ | |
| | 廣信影子 | 四〇〇擔 | 祁門及饒州ヨリ來ル船ナリ | |
| | 吳小子 | 五〇〇擔 | 饒州ヨリ來ル船 | |
| | 饒子 | 一〇〇〇擔内外 | 景德鎮下流ヲ航行ス | |
| | 漁船 | 六五〇〇擔 | 陶器ヲ積ミ九江其ノ他ニ至ルモノナリ | |
| | 耶爲子 | 一〇〇〇擔 | 主トシテ米穀ヲ積ミ饒州、祁門、撫 | |
| | 平頭船 | 一〇〇〇擔内外 | 州等ニ至ル | |

| | | | |
|------|-----|-------|------------------------|
| (廣州) | 官板子 | 六五〇〇擔 | 富春縣ニ屬ス平時カカル大船 ハ出入セス |
| | 滿排子 | 一〇〇〇擔 | |
| (分宜) | 水新船 | 六〇〇〇擔 | |
| | 滿排子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 爐兒子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 洋盆子 | 六〇〇〇擔 | |
| (臨江) | 瀨淡船 | 六〇〇〇擔 | |
| | 滿排子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 爐兒子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 洋盆子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 官板子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 秋子 | 六〇〇〇擔 | |
| | 三板 | 六〇〇〇擔 | |

江西省民船分布状態表

| 水路名 | 地名 | 碇泊隻数 | 摘要 |
|-----|--------|------|-------------|
| 錦江 | 玉山 | 二二二三 | 各地碇泊及航行中ノモノ |
| | 廣信 | 一三二二 | |
| | 河口 | 三八二 | |
| | 弋陽 | 四〇 | |
| | 貴溪 | 九二 | |
| | 麻潭 | 九六 | |
| | 安仁(余江) | 九一 | |
| | 余干 | 一一〇 | |
| | 烏港 | 二二 | |
| | 華梅 | 一〇 | |
| 章水 | 大碼頭 | 三〇 | |

| | | |
|----------|--------|--------------------------------------|
| 羅湯船 | 一〇〇擔内外 | |
| 撫船 | 最大ナルモノ | |
| 刀倉子 | 四〇〇〇擔 | 專ラ貨物運送ニ用ヒラレ吃水三尺一五尺 |
| 蜀倉子 | 最多キモノ | |
| 支板子 | 一〇六〇〇擔 | |
| 紗桃子 | 一〇〇〇〇擔 | |
| 巴斗子 | 一〇〇〇〇擔 | 吃水一尺一ニ尺ナリ |
| 九江ヲ於ケル民船 | | 饒州ヨリ陶器製造用薪ヲ積來リ形狀他船ト異リ兩端成日月形ニ著シク水面ヲ抜ク |

趙河
秀江
(袁水)

映 樟 九 新 修 西 趙 新 南 瓦 鷄 藍 背
樹 溪 家 除 川 安 頭 潭 村 前
江 鐵 塔 溪 口 關 園 除 川 安 頭 潭 村 前

一日平均
四〇
一日平均
一〇
二〇
二〇
一五
一五
三四
一四
四〇
三〇
三〇
二五
一〇

丹橋下流ニアルモノ

めくれず

家
水

馬 新 水 花 萬 賢 橋 南 羊 鱈 三 蟠 馬 實 風 尺 營
布 巷 蔭 坑 女 江 江 龍 奧 金 山 步 上
龍 城 口 下 塘 廟 口 康 口 口 口 龍 奧 金 山 步 上

一〇
一〇
二〇
一〇
一五
一七
一七
四〇
一〇
一五
二七
一六
三〇
五七
一〇
二〇
一八

